

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	1
(2)区分番号	1
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健学概論 (Introduction to Health Sciences)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○北宮千秋, 樋口 毅, 藤田あけみ, 工藤ひろみ, 對馬恵, 千葉 満, 石川 玲, 小山内隆生
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○保健学, 医学等の健康関連科学ならびにこれらの学問の接近領域についての学識を得る (見通す力) ○医師, 看護師, 診療放射線技師, 臨床検査技師, 理学療法士, 作業療法士の役割を理解する (見通す力)
(15)授業の概要	○健康, 保健という基本的概念を理解し, 「人」をみつめた将来の医療専門職となる基本的態度を培う ○保健学科の5専攻の各専門分野における教育の理念や専門職としての役割, 責任, 他職種との連携等について学ぶことにより, その共通性と独自性について理解する
(16)授業の内容 予定	4月15日 第1回 オリエンテーション, 健康・保健の概念 (北宮) 4月22日 第2回 医療現場で必要とされるメディカルスタッフ像を考えよう (樋口) 5月11日 第3回 看護学の概念, 看護者の役割・機能など (藤田あ、工藤ひ) 5月13日 第4回 医療機関における放射線診療の概要と放射線について (對馬恵) 5月20日 第5回 作業療法の概要と作業療法士の役割, および他職種との連携 (小山内) 5月27日 第6回 検査技術科学専攻のカリキュラムの特色および臨床検査技師の役割, 業務内容とチーム医療について (千葉) 6月 3日 第7回 リハビリテーションと理学療法 (石川) 6月10日 第8回 学びの統合とまとめ (北宮)
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	予習 それぞれの授業内容を確認の上, 書籍およびインターネットなどから, 基礎知識を得るようにすること 復習 所属する専攻以外の仕事内容について十分理解できているかを, 友人とディスカッションするよう心がけ, 専攻外の学生と積極的に交流しながら, 将来の医療チームの一員としての基礎作りとするよう, 自己研鑽すること

(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	各回, プリント等の資料を配付する 教科書は特に使用しない
(21)参考文献	適宜授業で紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	各回, 小テストまたはレポートを実施し, これを統合して最終評価を行う 各教員は100点満点で評価し, その平均点が60点以上を合格とする 5回以上の出席がなければ評価の対象とならないので, 留意して下さい
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義形式
(25)留意点・予備知識	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィスアワー	月曜日12時~13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 千秋 : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	各教員が医師, 保健師, 看護師, 臨床検査技師, 診療放射線技師, 理学療法士, 作業療法士としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	2
(2)区分番号	2
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	コミュニケーション論 (Communication Method)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	○木立るり子, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○良い人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解する(見通す力) ○医療現場におけるコミュニケーションの特徴と接遇について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	保健医療活動の基盤となる人間関係を成立し、発展させるために必要なコミュニケーションの基本的知識と技術を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回(木立 6/17): 授業オリエンテーション コミュニケーションの基本1(対人コミュニケーション成立の基本知識) 第2回(木立 6/24): コミュニケーションの基本2(ノンバーバル・コミュニケーション) 第3回(木立 7/1): コミュニケーションの基本3(コミュニケーション技法) 第4回(木立 7/8): 身体の交流という視点からみたコミュニケーション、まとめとレポート課題提示 第5回(會津 7/18): 医療現場におけるコミュニケーションの特徴1(対象者とのコミュニケーション) 第6回(會津 7/22): 医療現場におけるコミュニケーションの特徴2(医療者間コミュニケーション) 第7回(會津 7/29): 医療者に必要な接遇 第8回(會津 8/5): まとめとレポート課題の提示
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義の最後に課題を提示し、次回の講義に確認します。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書は使用されません
(21)参考文献	授業の時に適宜紹介されます
(22)成績評価方法及び採点基準	前半4回: 平常評価 (小課題) 20%、期末評価 (レポート) 30% 後半4回: 平常評価 (小課題) 20%、期末評価 (レポート) 30% 総合して3分の2以上の出席で評価の対象となります。 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義形式ですが、演習形式も含まれます
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	メールで予約のうえに対応します
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	木立: kidachi@hirosaki-u.ac.jp 會津: aizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	3
(2)区分番号	3
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体形態学 (Human Body Anatomy)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員(所属)	○敦賀英知, 細川洋一郎
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○細胞の構造と役割, 組織の構造と分類, 人体の形態と機能を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	人体形態学(解剖学)の基礎を理解し、専門科目の基礎を培います。
(16)授業の内容予定	<p>この科目では細胞の構造と役割、組織の構造と分類、人体の形態と機能について講義をします。</p> <p>1回-----解剖学の内容、細胞の構造 (敦賀)</p> <p>2回-----組織の分類 (敦賀)</p> <p>3回-----骨格系1 (敦賀)</p> <p>4回-----骨格系2 (敦賀)</p> <p>5回-----筋系1 (敦賀)</p> <p>6回-----筋系2 (敦賀)</p> <p>7回-----脈管系1 (敦賀)</p> <p>8回-----脈管系2 (敦賀)</p> <p>9回-----消化器系1 (細川)</p> <p>10回-----消化器系2 (細川)</p> <p>11回-----泌尿器、生殖器系 (敦賀)</p> <p>12回-----内分泌系 (敦賀)</p> <p>13回-----神経系1 (敦賀)</p> <p>14回-----神経系2 (敦賀)</p> <p>15回-----感覚器系 (敦賀)</p> <p>16回-----試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	当日の授業担当部分を教科書で予習します。当日の授業を復習し、理解できない点をまとめ、次回に質問します。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	入門人体解剖学（南江堂）
(21)参考文献	分担解剖学 1（金原出版）
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は、授業への参加状況（10%）、試験（90%）により総合評価します。一定のレベル（60%）に達しなければ不合格、再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	黒板、PCを用いた講義を行います。
(25)留意点・予備知識	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスアワー	（火～木） 11: 30～12: 30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	tsuru@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	4
(2)区分番号	4
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	看護学概論 (Introduction to Nursing)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所 属)	○藤田あけみ, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル1~2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○看護の対象・役割・機能を理解する(見通す力) ○現在の看護に至るまでの歴史の変遷について理解する(見通す力) ○主な看護理論の主要概念を理解する(見通す力) ○看護を行う過程を理解する(解決する力) ○自己の看護観を人に伝えることができる(解決する力)
(15)授業の概要	看護とは何か, 看護の歴史, 看護理論, 看護の対象や役割, 看護を行う過程など, これから看護学を学ぶため基礎となる知識を学び, 自己の看護観の土台を形づくる出発点となります。
(16)授業の内容予 定	第1回: 看護の概念① 看護の語義・定義, ケア(担当: 齋藤) 第2回: 看護の概念② 看護学の特質・目的, ニード(担当: 齋藤) 第3回: 看護の歴史の変遷① 原始古代社会における看護, 宗教上の信仰に基づいた看護 (担当: 齋藤) 第4回: 看護の歴史の変遷② 職業的看護の発達(担当: 齋藤) 第5回: 看護の歴史の変遷③ 看護の専門化の歩み(担当: 齋藤) 第6回: 看護の役割・機能① 看護の役割, 看護実践に重要な概念(担当: 藤田) 第7回: 看護の役割・機能② 看護活動, 看護活動の場(担当: 藤田) 第8回: 看護の役割・機能③ 健康医療福祉のしくみと看護活動(担当: 藤田) 第9回: 看護の対象① 人間の特徴, 成長・発達, 発達課題、防衛機制 (担当: 藤田) 第10回: 看護の対象② 人々の健康の動向, 対象者の健康状態(担当: 藤田) 第11回: 看護理論① 看護理論とは, 看護理論の変遷(担当: 藤田) 第12回: 看護理論② 看護理論における主要概念(ロイ、オレム、他) (担当: 藤田) 第13回: 看護理論③ 看護理論における主要概念(ペプロー、レイニンガー、他)(担当: 藤田) 第14回: 看護実践の過程, 看護過程(担当: 齋藤) 第15回: 国際看護, 災害看護(担当: 齋藤) 第16回: 定期試験

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>[予習] 授業内容は幅広く、抽象的な内容が多いため、毎回の授業の予定となる教科書の予習が必要です。</p> <p>[復習] 毎回の授業の内容について、自分なりの考えをもつことが大切です。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・松木光子編集: 看護学概論 看護とは・看護学とは, ヌーヴェルヒ ロカワ ・バージニア・ヘンダーソン (湯楨ます, 小玉香津子訳) : 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会
(21)参考文献	授業で配布するプリントで適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況 (15%), 課題 (15%), 定期試験 (70%) の結果で判断します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。授業の最後に、その日の講義内容についての質問・感想を書いたりアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答する方法をとります。
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	藤田あけみ: 随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	藤田あけみ: a_fujita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験から、臨床事例を紹介するなどして看護の考え方が深まるように工夫しています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	5
(2)区分番号	5
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	看護対象論 (Interpersonal Relations in Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員 (所属)	○藤田あけみ, 工藤ひろみ
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○看護の対象について、看護理論ではどのように捉えられているか理解する (見通す力) ○人間を包括的に理解するための諸理論について理解する (見通す力) ○病む人の反応と看護の関わりかたについて考えることができる (学び続ける力)
(15)授業の概 要	「看護の対象となる人を理解すること」について、多角的に、より深く考えることができるように、看護理論・概念を活用して人間について包括的に捉えることを学びます。人が病むことの意味や人が病気をどのようにして乗り越えるのか、また、病む人に看護はどのように関わることが必要かなどの考え、学びを深めます。
(16)授業の内 容予定	第1回：看護の対象となる人を理解することについて、看護ケアにおけるケアリングの意味 (担当：藤田) 第2回：看護理論における対象観 (担当：藤田) 第3回：グループワーク①危機モデル, ストレス・コーピング理論, 悲嘆のプロセスの理論について (担当：藤田) 第4回：グループワーク②危機モデル, ストレス・コーピング理論, 悲嘆のプロセスにおける対象について (担当：藤田) 第5回：グループワーク③危機モデル, ストレス・コーピング理論, 悲嘆のプロセスにおける看護の関り方について (担当：藤田) 第6回：発表・討論①危機モデル (担当：藤田) 第7回：発表・討論②ストレス・コーピング (担当：藤田) 第8回：発表・討論③悲嘆のプロセス (担当：藤田) 選択学生の人数などにより予定や予定が異なる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復 習) 等の内容	看護の対象者を理解するために、闘病記などを読むことで理解が深まります。
	看護学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教 科書	特になし
(21)参考文献	授業で配布するプリントで適宜紹介します。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業への参加状況（40%），発表の成果（30%），討論状況（30%）を合算して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	講義とグループワークを行います。
(25)留意点・ 予備知識	特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィス アワー	藤田あけみ：随時受け付けますが，事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	a_fujita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験から，臨床事例を紹介し看護の対象者の理解が深まるように工夫しています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	6
(2)区分番号	6
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小児看護学概論 (Introduction to Pediatric Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日3・4時限
(10)担当教員(所属)	○高橋 徹, 扇野綾子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○小児の成長・発達及び小児期各期の特徴を理解する(見通す力) ○小児看護の理念、望ましい環境、小児を取り巻く問題などについて理解する(見通す力) ○小児の日常生活の援助について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	小児の成長・発達及び小児期各期の特徴を学ぶ。 小児看護の理念、望ましい環境、小児を取り巻く問題、小児の日常生活の援助などについて知識を得る。
(16)授業の内容予定	第1, 2, 3回は高橋, 第4, 5, 6, 7, 8回は扇野 第1回: 4/15 小児科学学習のためのガイダンス、小児をめぐる諸統計、小児保健、小児医療における倫理的問題。 第2, 3回 4/22, 5/11: 小児栄養、小児治療学総論。 第4回: 5/13 小児看護の特徴と理念 第5回: 5/20 小児の日常生活と援助(新生児・乳児) 第6回: 5/27 小児の日常生活と援助(幼児) 第7回: 6/ 3 小児の日常生活と援助(学童・思春期)、小児と家族 第8回: 6/10 ふりかえり、試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として事前に教科書に目を通しておくこと。 講義の際に予習・復習のためのプリントが配布される場合がある。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書: 系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学総論(小児看護学①), 医学書院。

	<p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論（小児看護学②），医学書院。 ナースとコメディカルのための小児科学。日本小児医事出版社。</p>
(21)参考文献	授業中に指示する
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>期末試験の結果（高橋40%，扇野50%）及び毎授業前の質問に対する解答・態度・記録（10%）により総合して評価する。 講義の3分の2以上の出席で期末試験の受験資格が得られる。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義（質疑応答を含む）が主体。必要に応じてプリント、視聴覚機器を使用。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	<p>高橋 徹：授業中に指示する 扇野綾子：月・金曜日午後12:00～14:00 他随時（要連絡）</p>
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>ttaka@hirosaki-u.ac.jp ohgino@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	医師・看護師としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	7
(2)区分番号	7
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	疾病論 I (Concepts of the diseases I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○和田一丸, 小林恒 (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的な到達目標	○主要な精神疾患 (含, 老年期精神疾患), 歯・口腔疾患の病態・検査・治療について理解する (見通す力) ○疾患の症状や検査, 治療に伴う日常生活への影響を理解する (見通す力)
(15)授業の概要	疾病や検査・治療が対象者の生活機能に及ぼす影響を理解するために、主要な精神機能の障害、認知症、歯・口腔機能の障害と治療について学びます。
(16)授業の内容 予定	第1回：主要な精神疾患の診断・治療 (1) 統合失調症 (担当 和田一丸) 第2回：主要な精神疾患の診断・治療 (2) うつ病、双極性障害 (担当 和田一丸) 第3回：主要な精神疾患の診断・治療 (3) 神経症性障害、パーソナリティ障害 (担当 和田一丸) 第4回：顎口腔の疾患について (担当 小林恒) 第5回：主要な精神疾患の診断・治療 (4) 摂食障害、児童・青年期の精神障害 (担当 和田一丸) 第6回：主要な精神疾患の診断・治療 (5) 精神作用物質による障害、てんかん (担当 和田一丸) 第7回：認知症をきたす疾患の診断・治療 (担当 和田一丸) 第8回：これまでの講義のまとめと試験 * 上記の精神疾患に関する内容には、統合失調症、気分障害 (高齢者特有のうつ病)、神経症性障害、アディクション、てんかん、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、パーソナリティ障害、発達障害、摂食障害、せん妄 (高齢者含む) 等が含まれる。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の 内容	* 各コマに関連する人体の形態・機能について、1年次に学習した「人体形態学」「人体機能学」のテキストや資料により必ず復習して講義に臨んでください。 * 「人体病理学」「薬理学」などについても関連内容について復習しておきましょう。

(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	口腔科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	使用しません。適宜講義資料を配付します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度を含む）：30% 期末評価（期末試験）：70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心です。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	疑問等は、直接、当該教員へ質問してください。それ以外にオフィスアワーは設けません。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	特になし
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	8
(2)区分番号	8
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	疾病論Ⅲ (Concepts of the diseases Ⅲ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所 属)	高橋 徹
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○小児の特徴、成長と発達の評価方法を理解する(見通す力) ○小児の基本的なフィジカルアセスメント(問診、身体所見の取り方)を理解し、実践できる(見通す力) ○小児の代表的疾患の病態、症状、診断、治療、予防について理解し、説明できる(見通す力)
(15)授業の概要	○小児の特徴について考え、成長・発達の評価方法を学びます。 ○新生児から思春期にいたる幅広い年齢層にあわせた小児のフィジカルアセスメントの基本を学びます。 ○小児期に発症する疾患について、病態、症状、診断、治療、予防の一連の流れを学び、代表的疾患や発症頻度の高い疾患の基本的事項を説明できることを目指します。
(16)授業の内容予定	第1回 小児の特徴、成長と発達 第2回 小児のフィジカルアセスメント 第3回 新生児の生理及び疾患 第4回 先天異常、代謝疾患 第5回 感染症(1): ウイルス感染症 第6回 感染症(2): その他の感染症、予防接種、感染制御 第7回 神経疾患・運動器疾患 第8回 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	講義はスライド、プリントを中心に進めますが、教科書による予習・復習を行ってください。 予習: 事前に講義内容の部分に目を通しておく。 復習: 講義内容の関連部分を読み、理解を深める。
(18)学問分野1(主学 問分野)	内科学一般関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	健康科学関連
	看護学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中、適宜プリントが配付されます。 教科書 ○ナースとコメディカルのための小児科学 日本小児医事出版社 ○系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院
(21)参考文献	授業中、適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、授業中の質問への回答など）：20% 期末評価（期末試験）：80% 合計で60%以上を合格とする。なお、講義を3回以上欠席した場合は期末試験受験の資格は得られない。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本は講義形式です。適宜プリント、スライド、ビデオを使用します。
(25)留意点・予備知識	疑問点は積極的に質問してください。
(26)オフィスアワー	授業中に指示します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ttaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医師としての実務経験を踏まえた授業内容にしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	9
(2)区分番号	9
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	生徒指導心理学 (Psychology of Education Guidance)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	田名場 忍 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○生徒の理解と指導について、その理論的背景を理解する (見通す力) ○学校不適応、非行、ならびにいじめの指導について基礎的な視点を獲得する (見通す力)
(15)授業の概要	生徒指導は、発達の視点もふまえて個々の生徒の適応・自己実現・社会性の伸張を図る教育活動です。生徒の理解と指導の方法について、心理的発達等に関する理論を基礎に、不登校を中心とした学校不適応、非行、ならびにいじめの予防や指導について考察します。
(16)授業の内容 予定	第1回 ガイダンス、生徒指導の定義 第2回 生徒指導の目標、生徒指導の沿革 第3回 生徒指導の現状 第4回 生徒指導の基礎理論 (1) : 自己に関する理論、自己実現 第5回 生徒指導の基礎理論 (2) : 自我同一性 第6回 生徒指導の基礎理論 (3) : 発達の理論 第7回 生徒指導の基礎理論 (4) : 発達課題、道徳性の発達 第8回 生徒指導における生徒理解と対応 第9回 生徒指導各論 (1) : 非行少年 第10回 生徒指導各論 (1) : 非行少年の指導 第11回 生徒指導各論 (2) : いじめ 第12回 生徒指導各論 (2) : いじめの指導 第13回 生徒指導各論 (3) : 不登校 第14回 生徒指導各論 (3) : 不登校の指導 第15回 学習状況の確認 (試験含む)と振り返り
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業内容はすべて、教員志望者としての自分自身のあり方と実習で関わる生徒の日々の行動を理解する鍵になります。授業内容と自らの体験を折に触れ照合し、自己分析と省察をおこなってください。
	心理学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	適宜資料を配布します。
(21)参考文献	「新教育心理学体系③ 生徒指導」小野直広編（中央法規出版） 「入門 生徒指導・相談」仙崎武編（福村出版）
(22)成績評価方法及び採点基準	最終試験によって評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式で実施します。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	田名場eメールアドレス： etanaba@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	10
(2)区分番号	10
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	看護教育学演習 (Nursing Education, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	○小倉能理子, 藤田あけみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○看護の教育的機能と患者指導技術について理解する(見通す力) ○患者や家族への模擬指導を通して, 指導技術を習得する(解決していく力)
(15)授業の概要	教育学的視点に立って, 患者指導を実践できる基礎的知識・技術を教授します。
(16)授業の内容予 定	<p>第1回(4/15); オリエンテーション(小倉・藤田・土屋) ; 講義; 看護における教育的・指導的活動の意義(小倉)</p> <p>第2・3回(4/22・5/11); GW; 健康問題をもつ成人への個別指導の計画 (小倉・藤田・土屋) * 提示した事例の中から, 各グループが選択して模擬指導を行う</p> <p>第4回(5/13); 成人への個別指導の実施と評価①(小倉・藤田・土屋) 第5回(5/20); 成人への個別指導の実施と評価②(小倉・藤田・土屋) 第6回(5/27); GW; 成人期の健康問題に対する集団指導の計画(小倉・ 藤田・土屋) * 課題は学生が設定して, 模擬指導を行う</p> <p>第7回(6/3); 成人への集団指導の実施と評価①(小倉・藤田・土屋) 第8回(6/10); 成人への集団指導の実施と評価②(小倉・藤田・土屋) 第9回(6/17); GW; 健康問題を持つ小児への個別指導の計画(小倉・藤 田・土屋) * 提示した事例の中から, 各グループが選択して模擬指導</p> <p>第10回(6/24); 小児への個別指導の実施と評価①(小倉・藤田・土屋) 第11回(7/1); 小児への個別指導の実施と評価②(小倉・藤田・土屋) 第12回(7/8); GW; 小児期の健康問題に対する集団指導の計画(小倉・ 藤田・土屋) * 課題は学生が設定して, 模擬指導を行う。</p> <p>第13回(7/18); 小児への集団指導の実施と評価①(小倉・藤田・土屋) 第14回(7/22); 小児への集団指導の実施と評価②(小倉・藤田・土屋) 第15回(7/29); 討論; [テーマ]よりよい患者指導に向けて(小倉・藤 田・土屋)</p> <p>第16回(8/5); まとめ; レポート作成</p> <p>定期試験は行わない</p>

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題は、学生が話し合っ て決めます。課題担当者は、十分準備学習をして臨んでください。 ・復習の一環として、演習での学びを記録し綴ってもらいます（ポートフォリオ）。教員が、記録内容について適宜コメントします。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜、資料を配布します。学生が演習課題に応じて教材を作成します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みど里: 看護教育学 医学書院 ・武山満智子訳: 患者教育のポイント アセスメントから評価まで 医学書院 ・安酸史子監訳: ナースのための患者教育と健康教育 医学書院 ・マルカム・S・ノールズ著: 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイド 明石書店 ・松本千明: 保健指導・患者指導のための行動変容実践アドバイス50 医歯薬出版 ・渡邊洋子: 生涯学習時代の成人教育学 学習支援へのアドヴォカシー 明石書店
(22)成績評価方法及び採点基準	筆記試験は行いません。評価は、演習への参加状況（50点）およびポートフォリオ、レポート（50点）で行います。演習への参加状況には、演習への取り組み、討論時の発言、出欠などを含みます。60点以上を合格とします。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループで課題について研究的に取り組み発表・討論します。模擬指導についてはVTRに撮影・再生して考察します。
(25)留意点・予備知識	自発的に演習課題に参加すること。研究的な取り組みができること。
(26)オフィスアワー	随時メールで予約をお願いします。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小倉: ogu1224@hirosaki-u.ac.jp 藤田: a_fujita@hirosaki-u.ac.jp 土屋:
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> * 受講学生の人数によっては、授業計画を変更することがあります。 * 看護師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示するなど理解が深まるよう工夫しています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	11
(2)区分番号	11
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	医療情報学 (Medical Information Sciences)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○柏倉幾郎, 松谷秀哉 (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	医療情報についての基礎的知識を身につける。 情報通信技術の基礎的知識を理解する。 医療政策と財政の歴史的な推移と医療改革(標準化等)の関連を理解する。 医療安全のためのセキュリティ対策やリスクマネジメントセキュリティにおける情報の役割について理解する。 臨床疫学、臨床統計の基礎について理解する。 学術論文を理解し、簡単な文献検索ができる。
(15)授業の概要	日本においては、医療財政の破綻と抑制政策、医療の標準化と質的保証、これらが医療の歴史の必然的なひとつの流れとして形成されてきた。この様な背景を踏まえて、医療の標準化や質的保証などにおいて、情報がどの様に用いられ、その役割を担っているのかを学ぶ。また、エビデンスに基づいた臨床疫学や医療統計学の基礎と臨床研究への応用、各種学術情報の活用法について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 4/15 情報機器のハードウェアとソフトウェア(構成と役割) {松谷} 第2回 4/22 情報通信の基礎 {松谷} 第3回 4/30 医療の歴史的背景(医療政策と財政、病院情報システム) {松谷} 第4回 5/9 医療の標準化(DPC制度:医療の質と医療費) {松谷} 第5回 5/13 医療の標準化(診療プロセス医療、診療記録)、セキュリティ {松谷} 第6回 5/20 EBM(1):臨床疫学の基礎(各種バイアス、システムティック・レビュー、メタ分析、コホート研究、無作為化比較試験、EBMの基礎等) {柏倉} 第7回 5/27 EBM(2):臨床統計の基礎(横断研究、観測値の特性や分布、感度・特異度、尤度比、検査前確率、帰無仮説、有意差検定等)、医療情報(学術論文、文献検索等) {柏倉}

	第8回 6/3 予備日
(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	前回の内容について小テストを冒頭で実施
(18)学問分野 1(主学問分野)	情報科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	教科書の指定なし
(21)参考文献	その都度、紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度）：40% 理解評価（期末試験の代わりに毎回の小テスト）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	松谷：随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	松谷：shu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	なし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	12
(2)区分番号	12
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産診断・技術学 I (Midwifery Diagnosis I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	樋口 毅
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○主に周産期の疾患の病態, 診断, 治療を理解する
(15)授業の概要	周産期疾患を解説する。
(16)授業の内容予定	1回目 4月15日 女性生殖器の発生 2回目 4月22日 女性のホルモンサイクル 3回目 5月11日 (日程変更の予定あり) 不妊症 4回目 5月13日 ハイリスク妊娠1 (絨毛性疾患、血液型愚弟号妊娠、多胎妊娠など) 5回目 5月20日 ハイリスク妊娠2 (TORCH症候群、流産、異所性妊娠、重症妊娠悪阻など) 6回目 5月27日 分娩中の異常 (胎児心拍監視装置に認められる異常、分娩停止など) 7回目 6月3日 分娩中の異常 (胎児や胎児付属物による異常など) 8回目 6月10日 学習状況の確認 (試験など含む) と振り返り 予定通りに進行しない場合はその都度説明がある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	当日に3-4回分の資料を配付するのでこれを元に予習復習を行う。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	病理病態学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業で紹介する予定。
(21)参考文献	授業で紹介する予定。

(22)成績評価方法及び採点基準	授業態度、試験結果から総合的に判断する。評価寄与率として、平常評価30%、期末評価（6月10日予定）70%を考えている。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	必要に応じてプリント、スライド、ビデオを使用する予定。
(25)留意点・予備知識	2年生後期の母性看護学方法論と重複する部分が多く、予習が効果的である。
(26)オフィスアワー	メールで随時受け付ける。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	higuchi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	13
(2)区分番号	13
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	公衆衛生看護方法論Ⅲ (Methods of Public Health Nursing Ⅲ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	北宮千秋
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○市町村および保健所，県で行われている地域看護診断の目的と理論を理解する(見通す力)</p> <p>○地域看護診断により得られた健康課題から地域特性を基盤とした施策化，システム化への展開過程を理解する(見通す力，解決する力)</p> <p>○地域保健活動におけるグループ支援と地区組織化活動について理解する(見通す力)</p>
(15)授業の概要	地域に顕在・潜在する健康問題を科学的に把握・評価し，これを組織的に解決するための実践的方法と技術を学ぶ
(16)授業の内容予定	<p>第1回 4月15日：オリエンテーション 活動・事業計画と地域保健計画</p> <p>第2回 4月22日：地域看護診断(地域をアセスメントする)</p> <p>第3回 5月11日：地域看護診断(地区踏査)</p> <p>第4回 5月13日：地域看護診断(地区踏査の成果の共有)</p> <p>第5回 5月20日：地域看護診断(地域の健康課題を抽出する)</p> <p>第6回 5月27日：地域看護診断(施策化と評価)</p> <p>第7回 6月3日：グループ支援と組織化</p> <p>第8回 6月10日：地区組織活動，試験</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>予習 各授業内容の該当部分のテキストは，必ず一度目をとおしてから，授業に望むこと</p> <p>復習 配付された資料とテキストを参考に，学んだ内容の確認を行うこと</p> <p>前回までの授業内容の理解を確認するため小テストを行うこともある</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	①厚生労働統計協会 ②国民衛生の動向 ③2019 ④奥村印刷株式会社 ①金川克子, 田高悦子 ②地域看護診断 ③2011 ④東京大学出版会 ①E. T. アンダーソン, 他 ②コミュニティアズパートナー ③2007 ④医学書院 他、適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	試験成績60点以上を合格とする 出席状況については3回以上休んだ場合、単位認定の対象とならないことに留意すること
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主である 地区踏査及びその共有はグループワークを含む
(25)留意点・予備知識	本科目は公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を選択する学生の選抜科目となっている 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮千秋 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	14
(2)区分番号	14
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	成人看護方法論Ⅴ (Methods in Adult Nursing Ⅴ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	○井瀧千恵子, 長内智宏, 北島麻衣子, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○がん患者の特徴を理解する(見通す力) ○がん化学療法を受ける患者と家族への看護を理解できる(見通す力, 学び続ける力) ○終末期の病態および患者と家族への看護が理解できる(見通す力, 学び続ける力) ○救急・災害医療と看護について理解できる(見通す力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	主にがんの病態・治療及び看護、救急・災害医療と看護について概説します。
(16)授業の内容予定	第1回(4/15): ターミナルステージの病態(長内) 第2回(4/22): がん患者のケア(井瀧) 第3回(5/11): がん化学療法を行う患者のケア(北島) 第4回(5/13): 終末期のケア(井瀧) 第5回(5/20): 救急・災害医療(伊藤・高度救命救急センター医師) 第6回(5/27): 救急看護(成田・高度救命救急センター看護師) 第7回(6/3): 災害看護(成田・高度救命救急センター看護師) 第8回(6/10): まとめ・定期試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	成人看護方法論Ⅰ~Ⅳの内容を復習しておきましょう。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業内容によっては、成人看護方法論Ⅰで使用した「成人看護学 慢性期看護 南江堂」を用います。 そのほか、適宜講義資料を配付します。
(21)参考文献	授業で適宜紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	3分の2以上出席の者に対し、期末試験による評価を行います。60点以上で合格です。本科目は、3年次後期の「成人看護学実習」を履修するために単位習得が必須となっています。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義中心で行います。クリッカーシステムを使用します。
(25)留意点・予備知識	複数教員によるオムニバスであり、試験範囲も広がりますので、予習・復習はこまめに行いましょう。
(26)オフィスアワー	決まった時間を設けていませんので、メールで問い合わせしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	井瀧 千恵子 itakichi@hirosaki-u.ac.jp 高度救命救急センターの教員については、井瀧が窓口です 長内 智宏 osanait@hirosaki-u.ac.jp 北島 麻衣子 kitajima@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医師、看護師として医療現場で勤務した経験を踏まえた講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理 番号	15
(2)区分 番号	15
(3)科目 種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業 科目名 〔英文 名〕	看護技術学 (Basic Nursing Methods (lecture))
(5)対象 学年	2
(6)必 修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜 日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当 教員(所 属)	佐藤真由美
(11)地域 志向科目	-
(12)難易 度(レベ ル)	レベル2
(13)対応 するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業 としての 具体的到 達目標	○看護の目的・目標と看護技術の関連を説明できる(見通す力) ○看護技術適用の目標、倫理的配慮について説明できる(解決していく力) ○看護技術と看護技術学の関連を理解できる(見通す力) ○看護技術学についての自己の見解を述べる(見通す力)
(15)授業 の概要	看護技術の理論的根拠が求められている。看護技術教育は、今日では科学的検証の眼が向けられ、しかも、看護者自身によって検証・言及されるようになった。そこで、看護技術を手順・方法・形として捉えることを脱し、学問の対象として見つめなおしてみたい。護技術提供の前提、技術の考え方、科学的根拠に基づく手順の視点から看護技術をとらえ、対象者に提供するための看護技術教育のあり方を考えてみたい。
	第1回：4月12日(金) 1. 技術・技能、技術学 ① ・技術の一般概念と看護技術

(16)授業 の内容予 定	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の独自性 ・看護過程の概要 <p>第2回：4月12日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術・技能、技術学 ② <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の適用 ・安全と看護技術 ・安全を守る技術とコミュニケーション <p>第3回：4月16日（火）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 看護技術の適用 <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術を適切に実践するための要素 ・看護技術の考え方（EBN） <p>第4回：4月19日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 看護技術の目的・目標と看護技術① <ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える援助技術 ・安全と看護技術 <p>第5回：4月19日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 看護技術の目的・目標と看護技術② <ul style="list-style-type: none"> ・安楽と看護技術 ・自立への過程 <p>第6回：4月23日（火）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 看護技術の適用と看護倫理 <p>第7回：4月26日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 看護技術の効果・評価① <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の概要の振り返り ・看護技術をめぐる研究の動向 <p>第8回：4月26日（金）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 看護技術の効果・評価② <ul style="list-style-type: none"> ・文献検索の方法 6. 試験、実習室ガイダンス
(17)準備 学習（予 習・復 習）等の 内容	<p>予習 事前に予習資料を配布し、予習を前提にして進める予定です。</p> <p>復習 看護技術学演習のテキストの該当部分とあわせて、各自理解を深めてください。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分 野)	看護学関連
(18)学問 分野2(副 学問分 野)	-
(18)学問 分野3(副 学問分 野)	-
(19)実務 経験のある 教員に よる授業 科目につ いて	実務教員

(20)教材・教科書	ヌーヴェルヒロカワ 考える基礎看護技術I 授業時、適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1.レポート（40%）、試験の成績（60%）によって評価します。 2.レポートと試験の成績を総合して科目の点数とします。60点未満は不合格とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義、演習等によって行ないます。
(25)留意点・予備知識	受身の姿勢ではなく、主体的な学習態度で臨んでください。 関連する看護技術学演習I・IIの学習では、その都度この科目の内容を復習し学習を積み上げてください。 1単位取得のためには、予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー：随時。但し、事前にメール等で予約してください。
(27)メールアドレス・HPアドレス	メールアドレス：sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	試験：4月26日（金） 4月12日（金）、4月19日（金）、4月26日（金）の5～8時限は、「看護技術学演習I」の時間であるが「看護技術学」を行います。 5月7日（火）、5月14日（火）、5月21日（火）、5月28日（火）、6月4日（火）、6月11日（火）は「看護技術学」の時間ですが、「看護技術学演習I」を行います。 看護師としての実務経験を踏まえ、事例を提示するなど理解が深まるような工夫をしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	16
(2)区分番号	16
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	成人看護方法論Ⅱ（2年）（Methods in Adult NursingⅡ）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日7・8時限
(10)担当教員（所 属）	○長内智宏， 富澤登志子， 漆坂真弓， 三上佳澄
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○ 呼吸器・循環器・消化器等の代表的な疾患の病態生理・検査・治療を理解する ○ 呼吸器・循環器・消化器等の代表的な疾患の慢性期にある患者と家族を理解する ○ 慢性期看護における予防と健康教育，療養環境の特徴を理解する
(15)授業の概要	慢性期にある患者と家族を理解するための代表的な疾患や治療の特徴、予防と健康教育、療養環境の特徴などを概説する。
(16)授業の内容予 定	<p>第1回(4月16日)：消化器疾患の病態 (担当 長内智宏)</p> <p>第2回(4月23日)：消化器疾患の検査と治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第3回(5月7日)：肝疾患患者のケア (担当 三上佳澄)</p> <p>第4回(5月14日)：感染症の検査法、病態と治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第5回(5月21日)：循環器疾患の病態 (担当 長内智宏)</p> <p>第6回(5月28日)：循環器疾患の検査と治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第7回(6月4日)：心筋梗塞患者のケア (担当 富澤登志子)</p> <p>第8回(6月11日)：心不全患者のケア (担当 富澤登志子)</p> <p>第9回(6月18日)：腎疾患の病態、検査、治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第10回(6月25日)：腎疾患患者のケア (担当 三上佳澄)</p> <p>第11回(7月2日)：呼吸器疾患の病態 (担当 長内智宏)</p> <p>第12回(7月9日)：呼吸器疾患の検査と治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第13回(7月16日)：慢性呼吸不全患者のケア (担当 漆坂真弓)</p> <p>第14回(7月23日)：膠原病の検査法、病態、治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第15回(7月30日)：血液疾患の検査法、病態、治療 (担当 長内智宏)</p> <p>第16回(8月6日)：定期試験</p>
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	<p>* 多くの内容を網羅するため、講義は要点を中心とした構成になります。テキストや資料、参考文献などに必ず目を通して、各自の理解を深めていきましょう。</p> <p>【各疾患のケアに関する講義について】</p> <p>・弘大Moodle https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.phpから</p>

	<p>ログインして、事前学習の課題を確認してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習は、前回の講義部分について聴衆応答システム（クリッカー）を用いてクイズ形式で確認をします。 また、講義の後、弘大Moodle https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.phpにて課題を提示しておきますので、各自指示に従って行ってください。 								
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連								
(18)学問分野2(副学問分野)	内科学一般関連								
(18)学問分野3(副学問分野)	-								
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員								
(20)教材・教科書	成人看護方法論Ⅰのテキスト使用（鈴木久美、野澤明子、森一恵 編：成人看護学・慢性期看護（改訂第2版） 南江堂 2015年） 講義時に資料を配付する								
(21)参考文献	病気がみえる循環器（第4版）Medic Media その他は適宜紹介します。								
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の出席者に対し定期試験を行い、60点以上の場合単位を認める。 ・60%に達しない学生は、不合格・再履修となり、後期開講の「成人看護学実習」を履修できません。 <p>①試験 ②聴衆応答システム（クリッカー）を使用し授業に参加する。e-learningの小テストを未受講の場合減点する。出席点およびe-learningの受講の有無を総合的に評価する</p>								
(23)授業形式	講義								
(24)授業形態・授業方法	聴衆応答システム（クリッカー）等を用いた双方向授業 授業の内容に関する問い合わせ先：担当教員 eラーニングに関する問い合わせ先：授業時間に担当教員に問わせてください。								
(25)留意点・予備知識	* 人体形態学・人体機能学・人体病理学、成人看護学概論などの復習を随時行い、積極的な姿勢で受講することを望みます。								
(26)オフィスアワー	* 特に設けませんので、研究室訪問の際は、事前にメールで連絡・予約をしてください。								
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<table> <tr> <td>長内智宏</td> <td>osanait@hirosaki-u.ac.jp</td> </tr> <tr> <td>富澤登志子</td> <td>tmtott@hirosaki-u.ac.jp</td> </tr> <tr> <td>漆坂真弓</td> <td>urushima@hirosaki-u.ac.jp</td> </tr> <tr> <td>三上佳澄</td> <td>k-mikami@hirosaki-u.ac.jp</td> </tr> </table>	長内智宏	osanait@hirosaki-u.ac.jp	富澤登志子	tmtott@hirosaki-u.ac.jp	漆坂真弓	urushima@hirosaki-u.ac.jp	三上佳澄	k-mikami@hirosaki-u.ac.jp
長内智宏	osanait@hirosaki-u.ac.jp								
富澤登志子	tmtott@hirosaki-u.ac.jp								
漆坂真弓	urushima@hirosaki-u.ac.jp								
三上佳澄	k-mikami@hirosaki-u.ac.jp								
(28)その他	医療機関での実務経験を踏まえた講義内容としている								

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	17
(2)区分番号	17
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	成人看護方法論Ⅲ (Methods in Adult Nursing Ⅲ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 9・10時限
(10)担当教員 (所属)	○川崎くみ子, 北島麻衣子, 三上佳澄, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的な到達目標	○主要な疾患の病態と手術療法, 麻酔の基礎を理解する (見通す力) ○周手術期にある成人および家族を総合的に理解する (見通す力) ○周手術期における看護の役割を理解し, 看護過程の展開に必要な知識・技術を修得する (見通す力・学び続ける力)
(15)授業の概要	周手術期にある患者及びその家族を理解し看護過程を展開するために、必要となる疾病や麻酔の基礎、周手術期看護について、基礎的な内容や臨床の現状を中心に教授します。
(16)授業の内容 予定	第1回 周手術期の全身管理と麻酔の基礎 (全身麻酔の3大要素、術前評価等) (麻酔科 工藤) 第2回 周手術期の全身管理と麻酔の基礎 (麻酔導入～術後管理、局所麻酔等) (麻酔科 工藤) 第3回 手術過程に応じた看護 (総論) (川崎) 第4回 手術過程に応じた看護 (術前) (北島) 第5回 手術過程に応じた看護 (術中) (北島) 第6回 手術過程に応じた看護 (術後) (北島) 第7回 消化器疾患 (胃がん・大腸がん等) の病態と手術療法 (つがる総合病院 平尾) 第8回 肝胆膵疾患 (肝がん・膵がん) の病態と手術療法 (つがる総合病院 平尾) 第9回 術式による特徴的な看護 (開腹術) (三上) 第10回 呼吸器疾患 (肺がん) の病態と手術療法 (胸部心臓血管外科 木村) 第11回 耳鼻咽喉疾患の病態と治療 (耳鼻咽喉科 佐々木) 第12回 循環器疾患 (虚血性心疾患・弁疾患) の病態と手術療法 (胸部心臓血管外科 齊藤) 第13回 術式による特徴的な看護 (開心術) (北島) 第14回 術式による特徴的な看護 (開胸術) (北島) 第15回 腎不全とその治療 (泌尿器)

	科 大山他) 第16回 期末試験 (川崎)
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	人体形態学、人体機能学、人体病理学、微生物学、薬理学などの基礎的な学びを踏まえ、当日の講義に関連のある項目は必ず予習・復習の上臨んでください。テキストや資料、参考文献を活用していきましょう。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授 業科目について	実務教員
(20)教材・教科 書	1. 成人看護学 周手術期看護論 雄西智恵美・秋元典子著 ニューベルヒロカワ 2. 適宜講義資料を配付します。
(21)参考文献	1年次に履修した科目のテキスト「成人看護学概論」「慢性期看護論」「成人看護技術」には、関連内容が多く掲載されていますので、活用していきましょう。
(22)成績評価方 法及び採点基準	3分の2以上出席の者に対し、期末試験による評価を行います。60点以上で合格です。 不合格の場合は再履修となりますので、3年次後期の成人看護学実習は履修できません。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	オムニバスで主に講義です。
(25)留意点・予 備知識	複数の教員が当該分野の内容をコンパクトにまとめて講義をしますので、試験範囲は広がります。 予習・復習はこまめに行っておきましょう。
(26)オフィスア ワー	特に時間を指定しません。 事前にメールで確認をしてください。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	川崎 くみ子 kawayu@hirosaki-u.ac.jp 医学科および外部病院の教員については、川崎が窓口です。
(28)その他	疾患の病態や治療、麻酔については、臨床でご活躍中の医師の皆さんが、医療の最前線の内容を中心に講義を行います。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	18
(2)区分番号	18
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神看護学演習 (Psychiatric Nursing, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	火曜日 7～10時限
(10)担当教員(所属)	○則包和也, 多喜代健吾, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○精神障がい者を取り巻く現状を理解し, 幅広い視野で援助を考え, 実施する基礎的な能力を修得する(見通す力) ○対人関係における理論を理解したうえで, 基本的なコミュニケーションの技術を修得する(解決する力) ○自己を客観視する姿勢を養うことによって, ストレスや不安に対する自己対処の学識を得ると共に, 自己洞察をする必要性と有効性について理解する(学び続ける力)
(15)授業の概要	○精神疾患についての基礎知識を基に, 精神科看護で行われている治療的な関わりの実際について経験する ○理論に基づいた実践を体験することによって, 様々な状況に臨機応変に対応できる構えを養う
(16)授業の内容予定	416 1回目(担当教員全員) 7・8時限 コラージュの概要と演習 9・10時限 ストレスと対処 423 2回目(担当教員全員) 7・8時限 認知行動療法の概要 9・10時限 認知行動療法の活用 514 3回目(担当教員全員) 7・8時限 コミュニケーション演習 9・10時限 プロセスレコードを活用する 521 4回目(担当教員全員) 7・8時限 精神科看護のコミュニケーション1(質問を使う) 9・10時限 精神科看護のコミュニケーション2(方向性を意識する) 528 5回目(担当教員全員) 7・8時限 ディベート演習 9・10時限 看護過程の展開: 課題提示

	<p>604 6回目（担当教員全員） 7・8時限 看護過程 グループワーク 9・10時限 看護過程 グループワーク</p> <p>611 7回目（担当教員全員） 7・8時限 看護過程課題発表会 9・10時限 看護過程課題発表会</p> <p>日程未定 8回目（担当教員全員） 演習の振り返りと学習状況の確認（試験含む） * 7/1～7/16までの期間に1コマ予定</p> <p>注）授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>予習…精神看護学に関連する基礎的知識が既習されていることを前提に演習を展開するので、関連する科目の復習をして臨んで下さい。</p> <p>復習…4年次実施の実習に備えることを意識して配付資料等で復習をして下さい。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	人間情報学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>1. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本</p> <p>2. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践</p>
(21)参考文献	白石裕子編, challenge the CBT 看護のための認知行動療法, 金剛出版. (弘大図書館分館で閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>○授業を3分の2以上出席した学生を評価し、30分以上遅刻した場合は欠席とみなす</p> <p>○課題レポート評価80%と学習態度・小レポートの評価20%を総合して評価する</p> <p>○評価が60点に満たない場合は不合格とし、再履修とします</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習を主体とし、グループワークやロールプレイを多く取り入れながら行います。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	事前に教員にメール等で連絡があると、時間の調整が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>則包和也</p> <p>norikane@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	精神科看護師としての実務経験を参考とした内容にしています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	19
(2)区分番号	19
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体機能学 (Human Body Physiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	山田順子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するC/P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生命現象のメカニズム(生理学)を理解する(見通す力) ○生命を維持する仕組みについての理解を深める(解決する力) ○国家試験合格に必要な知識を修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	細胞、組織、器官には固有の特徴があり、すべてを統合した生命複合体が個体である。神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、運動器系などの仕組みを学び、統合された生体システムとしての働きを理解する。
(16)授業の内容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の一般生理：細胞の構造と機能について 2. 神経系の基本的機能 3. 神経系の機能 中枢、末梢、自律神経系 4. 感覚 5. 筋・運動 6. 運動制御 7. 血液 8. 循環 1 9. 循環 2 10. 呼吸 11. 消化吸収 12. 消化吸収、代謝 13. 腎臓 泌尿器系 14. 内分泌

	15. 生殖 16. 試験
(17) 準備学習(予習・復習)等の内容	高校で生物を学習しなかった人達は(あまり勉強しなかった人達も含めて)生物選択者の大学入試レベルに達するように自学すること。講義は生物の基礎知識がわかっているものとして行います。 生物履修者から高校の生物の教科書を借りて勉強する、あるいは高校程度の参考書を見るなどがよいかと思いま す。 ”基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(第二版)”羊土社 ”シグマベスト”(文英堂) など
(18) 学問分野 1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18) 学問分野 2(副学問分野)	-
(18) 学問分野 3(副学問分野)	-
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	-
(20) 教材・教科書	新版メディカル専門基礎科目シリーズ 生理学(理工図書)
(21) 参考文献	スタンダード生理学(文光堂 第3版) シンプル生理学(南江堂、改訂第6版)
(22) 成績評価方法及び採点基準	試験の結果により評価する。 期末試験点数(合計100点)60点以上を合格とする。
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	プリント、教科書の内容を板書、パワーポイントにより説明する。国家試験前の勉強に備えてノートを作っておくことを勧める。
(25) 留意点・予備知識	高校生物習得レベルの知識が必要
(26) オフィスアワー	オフィスアワー: 随時、できるだけ事前に連絡をしてください。

(27)E	iyamada@hirosaki-u.ac.jp
メール アドレ ス・ HPア ドレス	
(28)	http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2285&head=&hid=&sid=&rev=&ssid=&fvid=18701&text=%8E%52%93%63+%8F%87%8E%71+&cal=
その他	

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	20
(2)区分番号	20
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	老年看護学概論 (Introduction to Gerontological Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6 時限
(10)担当教員(所属)	○大津美香, 米内山千賀子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○高齢者の心身および社会的特徴を理解する(見通す力) ○高齢社会とそれに伴う法制度の整備, 社会の課題を理解する(見通す力) ○老年看護の定義と役割について理解する(見通す力) ○高齢者の主な疾患・症状の特徴と看護を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	○老年期の特徴および高齢社会の課題と政策の理解を基に, 老年看護学の特殊性とケアの基盤を学ぶ ○加齢変化を踏まえたコミュニケーションや援助の基本について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回(5/15) 老年期を生きる人の理解(大津) 第2回(6/19) 高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステム1(高齢者を取り巻く社会の変化とヘルスケアシステムの変遷, 高齢者の暮らしを支える法律と制度・サービス(米内山)) 第3回(6/26) 高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステム2(地域包括ケアシステムと看護の課題)(米内山)

	<p>第4回 (7/ 3) 世界における日本の老年看護 (大津) 第5回 (7/10) 心身の加齢変化と健康アセスメント：多角的・包括的な健康アセスメントの枠組みと方法、感覚器系のアセスメント (大津) 第6回 (7/17) 心理・精神機能の加齢変化と生活への影響、認知症高齢者の看護1 (認知症対策の動向と制度、認知症の理解、認知症高齢者の看護の基本) (大津)</p> <p>厚生労働省 認知症施策推進総合戦略 (新オレンジプラン) の7つの柱 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html 第7回 (7/24) 認知症高齢者の看護2 (認知症高齢者のアセスメント、生活障害の看護、認知症高齢者を取り巻く人々へのアプローチ、認知症高齢者と家族が利用できるサービス) (大津) 第8回 (7/31) 期末試験 (40分) と振り返り (50分) (大津, 米内山)</p> <p>* 各回では、ミニレポートまたは小テストを行う予定です。 * 内容は一部変更になることがあります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>『最新老年看護学 第3版 2019年版』の予定範囲を事前に読んでおくこと。また、前回のテキスト、資料等を読み直しておくこと。</p> <p>第1回 : p. 2-27 第2回 : p. 346-367 第3回 : p. 368-375 第4回 : p. 30-50 第5回 : p. 74-97 第6回 : p. 126-134, 270-289 第7回 : p. 290-322 第8回 : 第1-7回の全ての内容</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	水谷信子：『最新老年看護学 第3版(2019年度版)』，日本看護協会出版会
(21)参考文献	厚生労働省 平成29年 国民生活基礎調査の概況， https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa17/ 内閣府 平成30年版高齢社会白書 (全体版)， https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/30pdf_index.html 高山成子『認知症の人の生活行動を支える看護』医歯薬出版株式会社 <p>他、授業の中で適宜紹介します</p>
(22)成績評価方法	平常評価 (小テスト, ミニレポート等) : 40% (大津30%, 米内山10%) 期末評価 (期末試験50% (大津30%, 米内山20%), レポート10%) : 60% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。

及び採点 基準	
(23)授業 形式	講義
(24)授業 形態・授 業方法	講義形式
(25)留意 点・予備 知識	日頃より、高齢化問題や地域の元気高齢者、認知症高齢者に関する情報に関心を持って下さい。
(26)オフ イスアワ ー	事前に連絡してから訪室して下さい。
(27)Eメ ールアド レス・HP アドレス	大津 h_otsu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	研究成果と看護師としての実務経験を踏まえた講義内容としています。 7月の授業では老年看護学実習I の事前課題についても提示する予定です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	21
(2)区分番号	21
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	セルフケア論 (self-care)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員 (所属)	工藤せい子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○学生自身が自己の健康上の問題点に気付くことができる(見通す力) ○自己の解決すべき健康上の問題に対して、具体的にひとつでも取り組むことができる(解決する力) ○対象となる人(主に慢性疾患とともに生きていく人)が自己の健康上の問題を受容し、セルフケアできる方向へ動機づけることの重要性を理解する(学び続ける力)
(15)授業の概要	対象となる人(主に慢性疾患とともに生きていく人)のセルフケアについての概念を学ぶ前に、学生自身が自己の健康上の問題を把握し受容して、問題解決のためのセルフケア能力を育む 身体的・精神的・社会的に様々な健康レベルにある対象となる人(主に慢性疾患とともに生きていく人)に対して、セルフケア能力を身につけていけるよう動機づけをし、問題に気づき受容し、その問題となる行動を変容させていくことの重要性を理解して関わり方を修得する
(16)授業の内容 予定	第1回：オリエンテーション、健康観とセルフケア 第2回：セルフケアという概念ができた経緯 第3回：学生自身の健康観について(演習活動) 第4回：セルフケアとケアリングの理論的關係 セルフケアと日本人独特の精神構造である「甘え」について 第5回：学生自身のなかのケアリング(演習活動) 第6回：対象となる人が、自己の健康問題を受容し、セルフケアできる方法を学ぶ 「食とセルフケア」 第7回：対象となる人が、自己の健康問題を受容し、セルフケアできる方法を学ぶ 「慢性疾患をもっている人とセルフケア」 第8回：試験またはレポート
	疑問点等については、その都度質問するなどして解決を試みることを望みます

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	毎回資料を配布します
(21)参考文献	紹介した文献を最低1冊は読むことを勧めます
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（演習活動と授業参加態度20%） 期末評価（理解度の確認80%） 上記を合算して成績評価を行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	基本は講義形式です 演習活動（4～5名を1グループとしてディスカッションを行う）も2回あります
(25)留意点・予備知識	受講にあたっては特段予備知識は必要ありません
(26)オフィスアワー	随時メール等で予約してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	Eメール： sei_koku@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ、実例を挙げながら講義をしています

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	22
(2)区分番号	22
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	精神看護学概論 (Introduction to Psychiatric Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	○則包和也
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○精神と身体の間連について理解する ○精神看護の基礎的理論についての学識を得る ○コミュニケーションや対人関係の知識と技術について理解する ○精神疾患の症状が及ぼす影響を精神・身体・社会の3つの視点で理解する ○精神医療の歴史的変遷の学識を得て、精神障がい者に関する法律・制度について理解する
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○精神についての関心を深める ○精神的健康が注目されている現状を踏まえながら、精神看護における治療的コミュニケーションについて学ぶ ○精神疾患への正しい知識を学び、施設や地域生活のなかでの援助の在り方について理解する
(16)授業の内容予定	第1回 心と精神看護 第2回 精神医療・看護の歴史 第3回 精神看護における患者-看護師関係 第4回 ストレスと心の問題について 第5回 精神看護におけるコミュニケーション 第6回 精神保健福祉の制度 第7回 地域で生活する精神障がい者の現状と今後 第8回 まとめと試験 注) 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習…各授業内容に関する内容について、教科書に目を通して授業に臨んで下さい。 復習…配付資料を参考にして、学んだ内容の確認を行って下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	心理学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	人間情報学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	1. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 2. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践
(21)参考文献	中井久夫, 山口直彦. 看護のための精神医学 第2版, 医学書院. (図書館本館・分館にて閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	○3分の2以上の出席を評価の前提とします。なお、30分以上の遅刻は1回の欠席とみなします ○平常評価(ミニレポート、学習態度)20%と試験評価80%を総合して、成績評価を行います ○評価が60点に満たない場合は不合格とし、再履修とします
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体となりますが、ミニグループワークの機会も多く取り入れます。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、Eメール等で事前の連絡があると時間の調整が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	則包和也 norikane@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	精神科看護師としての実務経験を参考とした講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	23
(2)区分番号	23
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	疾病論Ⅱ (Concepts of the diseases Ⅱ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	樋口 毅
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○女性特有の疾患を理解する
(15)授業の概要	女性特有の疾患を解説する。
(16)授業の内容予定	1回目 6月19日 女性骨盤臓器の解剖、生殖内分泌 2回目 6月26日 性周期の生理と病理 3回目 7月3日 女性のライフステージと疾患1(女性特有の炎症性疾患とSTI) 4回目 7月10日 女性のライフステージと疾患2(子宮の良性腫瘍と類腫瘍) 5回目 7月17日 女性のライフステージと疾患3(ウロギネコロジー疾患) 6回目 7月24日 女性のライフステージと疾患4(子宮頸癌、子宮体癌) 7回目 7月31日 女性のライフステージと疾患5(卵巣良性腫瘍、卵巣癌) 8回目 8月7日 学習状況の確認(試験など)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	3-4回分の資料を配付するのでそれを元に予習復習を心がける。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	内科学一般関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	講義で適宜紹介する。
(21)参考文献	講義で適宜紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業態度と試験成績から判断する。 成績評価寄与率は平常評価30%、期末試験評価70%を予定している。
(23)授業形式	講義

(24)授業形態・授業方法	配付資料とスライド を用いて講義をする。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	随時。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	higuchi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	24
(2)区分番号	24
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	保健医療福祉倫理学 (Ethics in Health Care and Medicine)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	川崎くみ子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会の医療状況と倫理的問題を理解する(見通す力) ○医療専門職に必要な倫理について理解する(見通す力) ○多様な専門職の役割とチーム医療のあり方を理解する(見通す力) ○チーム医療における多職種間の連携と協働について考える(見通す力・解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	高度化、複雑化した現代医療がもたらす様々な倫理的問題に注目し、今医療専門職に求められる専門性やチーム医療のあり方について考えていきます。
(16)授業の内容予定	<ul style="list-style-type: none"> (4/17) 1. 現代社会の医療状況 (4/24) 2. 倫理(倫理原則、守秘義務、個人の権利など) (5/08) 3. ケア・ケアリング (5/15) 4. 専門職とチーム医療の必要性 (5/22) 5. チーム医療の要素(講義)、価値観の多様性(GW) (5/29) 6. チーム医療におけるコミュニケーション(講義、GW) (6/05) 7. 各職種の専門性、役割および責任の理解(GW) (6/12) 8. チーム医療における連携と協働(GW)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>*これまでの学習内容を踏まえて、各自が目指す専門職の役割や望ましいあり方について、自分なりの考えをまとめておきましょう。</p> <p>*各自が目指す専門職者集団が公表している倫理綱領、倫理規定などを理解しておきましょう。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	思想関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	特にありません。適宜、資料を配付します。
(21)参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミルトンメイヤロフ著, 田村真/向野宣之訳 : ケアの本質, ゆみる出版, 2000年 2. 川本隆史編 : ケアの社会倫理学, 有斐閣選書, 2005年 3. 菊井和子他編 : ケースで学ぶ医療福祉の倫理, 医学書院, 2008年 4. 水本清久他編 : 実践チーム医療論, 医歯薬出版(株), 2011年 5. 細田満和子著 : 「チーム医療」とは何か, 日本看護協会出版会, 2012年 6. 田村由美編 : 新しいチーム医療, 看護の科学社, 2012年 7. 井部俊子監 : 医療倫理学のABC 第2版, メヂカルフレンド社, 2012年 8. 福原麻希著 : チーム医療を成功させる10か条, 中山書店, 2013年 9. 白髪昌世編 : チーム医療と現場力, 日本医療企画, 2016年 10. 鈴鹿医療科大学編 : 医療人の基礎知識 第2版, 三重大学出版会, 2017年
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>成績評価の方法は、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業の最後に各自の考えを問う課題を出します。(40%) 2. 最後にレポートを提出してもらいます。(60%) 詳細については、講義の後半で説明します。 <p>合計で、60%以上を合格とします。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> * 講義とグループワークを織り交ぜて行います。 * グループメンバーは、可能な限り5専攻の学生混合とします。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> * 5専攻共通の選択科目です。専門科目の学習が濃くなってきた今、他専攻の学生と話し合う機会が必要と考えます。 * みなさん自身の考えを問う機会を多くしますので、自分の考えを言葉や文字で表現することを心がけてください。
(26)オフィスアワー	特にオフィスアワーは設けていません。研究室へ来る場合には、事前にメールで連絡をして下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	* メールアドレス : kawayu@hirosaki-u.ac.jp (川崎くみ子)
(28)その他	特にありません。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	25
(2)区分番号	25
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	医療リスクマネジメント (Medical Risk Management)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	○野坂大喜, 高橋康幸, 吉田英樹, 澄川幸志, 野戸結花, 病院GRM (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	1)過去に我が国で起きた医療事故・医療過誤の実例をもとに、その背景、要因、防止対策を考察し、医療リスクを軽減させ、重大な医療過誤や医療事故を防ぐための取り組み、またリスク分析手法を理解すること。(見通す力) 2)医療事故の発生時には法的責任も生じることから、過去の判例をもとに医療従事者が抱える法的リスクについて理解すること。(見通す力) 3)医療リスクマネジメントの意義と内容について説明でき、かつ医療リスクマネジメント分析の基礎知識を習得し、自らが重大な医療過誤や医療事故の発生を防ぎ、安全な医療を提供できること。(見通す力、解決する力)
(15)授業の概要	医療事故や医療過誤対策は安全安心な医療を患者に提供する上で非常に重要な課題です。特に多職種連携においては、それぞれの専門部署の特性に合った医療リスクマネジメントに加え、他の専門部署の業務や特性をも理解して医療サービスを提供することが必要です。 本科目では、医療リスクマネジメントの意義を総合的に理解するため、医療リスクマネジメントが取り入れられた経緯、また異分野で行われているリスクマネジメント手法とその応用としての医療リスク解析方法を総論として学習します。各論としては多職種連携やチーム医療を踏まえ、看護学、放射線、臨床検査、理学療法、作業療法の各分野で発生した医療過誤や医療事件事例を資料としてリスク分析を行い、予防に対する考え方を習得します。
(16)授業の内容予定	第1回 6/19: 看護領域の医療リスクマネジメント (看護学専攻 野戸 結花) 第2回 6/26: 医療リスクマネジメント総論 (検査技術科学専攻 野坂 大喜) 第3回 7/03: 臨床検査領域の医療リスクマネジメント (検査技術科学専攻 野坂 大喜)

	第4回 7/10：放射線領域の医療リスクマネジメント1（放射線技術科学専攻 高橋 康幸） 第5回 7/17：放射線領域の医療リスクマネジメント2（放射線技術科学専攻 高橋 康幸） 第6回 7/24：医療現場の医療リスクマネジメント（医療安全推進室 山内 寿子） 第7回 7/31：理学療法領域の医療リスクマネジメント（理学療法学専攻 吉田 英樹） 第8回 8/07：作業療法領域の医療リスクマネジメント（作業療法学専攻 澄川 幸志）
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	各教員が提供する参考文献等あるいはパワーポイントでの事前学習と授業後の再点検（復習）を行うこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	感染・免疫学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	指定教科書はありません。 各専門領域の該当書籍を適宜使用してください。
(21)参考文献	1) WHO患者安全カリキュラムガイド メディカ出版 2) 患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門 メディカ出版 3) 医療安全ワークブック 医学書院 4) 医療安全ことはじめ 医学書院 5) リハビリテーションリスク管理 ケーススタディ メディカルビュー社
(22)成績評価方法及び採点基準	各担当教員毎に、授業終了時に記述試験を行い、それぞれの得点による総合評価を行います。 野坂大喜：筆記試験 60点以上を合格とします 野戸結花：筆記試験 60点以上を合格とします 吉田英樹：筆記試験 60点以上を合格とします 澄川幸志：筆記試験 60点以上を合格とします 高橋康幸：筆記試験 60点以上を合格とします 山内寿子：筆記試験 60点以上を合格とします 最終的に総合評価を行い、60点以上を合格基準とします。 再試験は行いませんので、最終評価における不合格者は再履修となります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	野坂大喜：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 野戸結花：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 吉田英樹：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 澄川幸志：講義形式 スライド・配布プリントにて行います

	高橋康幸：講義形式 スライド・配布プリントにて行います 山内寿子：講義形式 スライド・配布プリントにて行います
(25)留意 点・予備知 識	本科目はオムニバス科目であり、各担当教員が授業最後に試験あるいはレポート課題等の提出を求めます。 半数以上の担当教員が1回のみ講義となりますので、すべての講義を受講することが必要です。 病気などでやむを得ず欠席する場合は担当教員への連絡と対応方法について必ず問い合わせを行ってください。
(26)オフィ スアワー	各教員にメールにて問い合わせのこと。
(27)Eメー ルアドレ ス・HPアド レス	野坂大喜： hnozaka@hirosaki-u.ac.jp 野戸結花： noto@hirosaki-u.ac.jp 吉田英樹： ptyoshi@hirosaki-u.ac.jp 澄川幸志： ot_sumi@hirosaki-u.ac.jp 高橋康幸： ytaka3@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	講師都合により順番が入れ替わる場合がありますが、その場合第1回目に改めて変更の有無をお知らせします。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	26
(2)区分番号	26
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	母性看護学演習 (Maternity Nursing, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○五十嵐世津子, 高間木静香, 早狩瑶子, 鎌田璃沙
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○分娩期・産褥期にある女性の母体の変化と看護について理解する(見通す力) ○新生児の成長・発達, 子宮外生活適応のための生理的変化と看護について理解する(見通す力) ○事例を用いて看護過程の展開方法を習得し, 問題解決力をつける(解決する力) ○マタニティサイクル期にいる女性をアセスメントするために必要な看護技術の根拠と実際を理解し展開する力を修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	マタニティサイクル期にいる女性とその家族を理解するうえで必要な知識を学び, それをもとに, 母性看護に必要な情報収集・アセスメント・看護目標・ケア立案について事例を用いて具体的に学ぶ。さらに, 母性看護に特有な看護技術を習得する。
(16)授業の内容 予定	第1回:産婦と家族に対する看護実践1(産婦看護の基本原則, 分娩に関連した語句の定義)(五十嵐)4/17 第2回:産婦と家族に対する看護実践2(分娩の三要素, 分娩経過, 産婦看護の方向性, アセスメントの視点, 産婦と胎児の健康状態に関するアセスメント)(五十嵐)4/24 第3回:産婦と家族に対する看護実践3(分娩経過と看護, 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護, 分娩時に起こりやすい異常)(五十嵐)5/8 第4回:産婦と家族に対する看護実践1(産婦の特徴, 援助の方向性, 退行性変化)(五十嵐)5/15 第5回:産婦と家族に対する看護実践2(進行性の変化, 他)(五十嵐)5/22 第6回:産婦と家族に対する看護実践3(母乳育児確立への援助, 他)(五十嵐)5/29 第7回:産婦と家族に対する看護実践4(産婦の基本的日常生活に関するアセスメント)(五十嵐)6/5 第8回:新生児に対する看護実践1(新生児の特色, 援助の方向性, アセスメントの視点, 健康状態に関するアセスメント, 他)(五十嵐)6/12

	<p>第9回：新生児に対する看護実践2（新生児の行動の評価，全身の観察，他）（五十嵐）6/19* 事前学習課題提出 第10回：新生児に対する看護実践3（新生児の基本的ニード，生活環境，出生直後のケア，他）（五十嵐）6/26 第11回：学習状況の確認（試験含む）と振り返り7/3 1コマ目（8時40分～10時10分）講義室：第63講義室 第12回：看護過程演習1（母性看護における看護過程の理解，事例紹介）（高間木，五十嵐，早狩，鎌田）7/10 第13回：看護過程演習2（褥婦の事例グループ演習）（高間木，五十嵐，早狩，鎌田）7/17 第14回：看護過程演習3（事例のアセスメント・看護計画の発表会）（高間木，五十嵐，早狩，鎌田）7/24 第16回：看護過程演習4（新生児の事例のアセスメント）（高間木，五十嵐，早狩，鎌田）7/31</p> <p>註）講義の進行状態により，シラバスと実際の内容とが異なる場合には，その都度説明します。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>講義のテーマに関連した内容について，教科書や下記にあげた参考書をもとに自己学習する。 看護過程演習：毎回，次の演習に向けて課題を提示するので，自己学習する。 看護技術演習：沐浴・妊婦の観察・褥婦の観察の技術演習を行う時に使用するプリントをもとに自己学習する。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教科 書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
(21)参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎和子監修 前原澄子他 新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ・Ⅱ 中央法規 2. 東野妙子他 母性看護学1, 2 医歯薬出版株式会社 3. 横尾京子他編集 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 MCメディカ出版 4. 横尾京子他編集 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 MCメディカ出版 5. 氏家幸子監修 茅島江子他 母子看護技術Ⅰ 母性看護技術 廣川書店
(22)成績評価方 法及び採点基準	<p>○講義を3分の2以上出席した学生が評価の対象となる。 ○看護過程演習課題（10%），筆記試験（90%）とし総合的に評価する。筆記試験は6割以上の点数の獲得すること，また，すべての課題提出を条件とする。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	1から11回目までは講義が中心になる。13～16回目までは事例をもとに各自あるいはグループでアセスメント・看護計画立案を行う演習形式になる。
(25)留意点・予 備知識	演習は個人およびグループで進めるので準備をして出席すること。母性看護学実習に直結する科目なので時間内で習得できない場合は自己学習を行うこと。
	事前にメール等で日程の調整をお願いします。

(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	五十嵐 s123@hirosaki-u.ac.jp 高間木 takamagi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医療職者としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	27
(2)区分番号	27
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産学概論 (Foundation of Midwifery)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	三崎直子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○助産の変遷と母子保健の歴史および動向から、助産の本質について修得する ○助産を支える理論と助産師の倫理綱領について理解を深め、対象との関わりや専門職としての責務について修得する
(15)授業の概要	○女性と出産の歴史、母子保健の歴史と動向から助産の定義を学ぶ ○助産を支える理論と助産師の倫理と責務について理解し、母子に関わる課題に対して助産師としての援助の方向性について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 助産の概念 第2回 母子保健の動向と助産① 第3回 母子保健の動向と助産② 第4回 助産師の責務 第5回 ライフサイクルと助産活動 第6回 助産の歴史の変遷と助産師の専門性 第7回 助産師教育と助産師の将来 第8回 期末試験とまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業毎に十分に復習をして次の授業にのぞんでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	授業で紹介します。

(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価(期末試験): 100% 期末試験を受けるには、3分の2以上の出席時間が必要です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義です。適宜スライドを使用します。
(25)留意点・予備知識	助産学選択の希望者は必ず受講して下さい。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時～17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験をふまえた講義内容です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	28
(2)区分番号	28
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護方法論Ⅳ (Methods of Public Health Nursing Ⅳ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7～10時限
(10)担当教員(所属)	北宮千秋
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○保健指導への基本的姿勢を理解する(見通す力) ○対象を通して地域の健康問題をアセスメントする技法を理解する(解決する力) ○個人および集団への支援を行うための技法について理解する(解決する力)
(15)授業の概要	個人・家族・集団・組織への保健指導について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 4月24日 7・8時限 保健指導 第2回 5月 8日 7・8時限 家庭訪問の概要 第3回 5月 8日 9・10時限 家庭訪問の計画およびアセスメント、評価 第4回 5月15日 7・8時限 健康相談 第5回 5月29日 7・8時限 健康教育の概要 第6回 5月29日 9・10時限 健康教育計画および評価 第7回 6月 5日 7・8時限 地区組織の育成 第8回 6月12日 7・8時限 発達相談、試験 *青森県の健康課題を解決するために、食習慣や運動習慣などの地域特有の生活習慣にあわせた保健指導についても理解を深める。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 各授業の教科書の該当部分を一読した上で授業に臨むこと 授業の理解を高めるため事前課題を出す場合がある 復習: 授業で配布した資料、教科書の各授業内容について再度精読し、学んだ内容を確認すること。 授業の理解を確認するための小テストの実施や課題を出す場合がある
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	①宮本ふみ ②無名の語り ③2006 ④医学書院 他、適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	○試験の成績は、60点以上を合格とする ○出席状況については、3回以上休んだ場合に単位認定の対象とならないことに留意すること
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体となる 一部健康教育はグループワークを行う場合がある
(25)留意点・予備知識	科目は、公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を選択する学生の必修科目となっている 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	29
(2)区分番号	29
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	成人看護学演習 (Adult Nursing Care, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	水曜日 7～10時限
(10)担当教員(所属)	○漆坂真弓, 長内智宏, 野戸結花, 井瀧千恵子, 富澤登志子, 川崎くみ子, 北島麻衣子, 三上佳澄 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○科学的根拠に基づいて成人看護に必要な基礎的看護技術を理解し, 修得する(見通す力)(解決していく力) ○主体的学習態度, 思考・判断力を修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	成人看護学は、成人期にある人々を対象に、健康に関連した問題の解決を目指す学問です。対象者の健康レベルに応じた生命機能の回復・維持、セルフケア能力の最大限の発揮、最適健康の実現に向けて必要な看護技術について演習を通して教授します。これまで学んできた学問的知識を基盤におき、看護技術の提供にあたっては、対象者の健康レベルや状態を観察・アセスメントし、その状況に最も適した方法で看護術を提供する能力が求められます。授業では提供する看護技術の科学的根拠を理解するとともに、対象者の健康レベルや状態について判断し、対象者の健康問題を解決する能力の習得を目指しています。

(16)授業 の内容予定	<p>この授業では、皆さんが臨床現場でよく出会う看護技術や対象者の生命を守るために必要な看護技術を取り上げています。演習と一部講義により授業を行うことで、科学的根拠に基づいた看護技術の習得をねらいとしています。また、演習内容の看護技術に精通した専門家（講師）に看護技術を教授してもらいます。</p> <p>第1回 6月19日 創傷・失禁に必要な看護技術（担当：川崎くみ子） 第2回 6月26日 糖尿病患者の患者指導に必要な看護技術（担当：井瀧千恵子） 第3回 7月3日 呼吸を整えることに関連した看護技術（担当：三上佳澄，講師：石川玲先生） 第4回 7月10日 侵襲のある看護技術（経鼻経管栄養，真空管採血，CPR）（担当：北島麻衣子、三上佳澄、富澤登志子、漆坂真弓） 第5回 7月17日 術後ケア(1)（担当：三上佳澄）/事前課題の学習（担当：漆坂真弓） 第6回 7月24日 術後ケア(2)（担当：北島麻衣子） 第7回 7月31日 急変時の看護（担当：富澤登志子） 第8回 8月7日 運動に関連した看護技術（担当：野戸結花，講師：尾田敦先生、他）/生体機能管理技術（ECG）（講師：長内智宏先生）</p>
(17)準備 学習（予 習・復習） 等の内容	<p>[予習] 各授業前に予習として事前課題を提示し、授業開始時に確認します。 [復習] 授業終了後には、復習として関連した内容の課題レポートを課します。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	看護学関連
(18)学問 分野2(副 学問分野)	健康科学関連
(18)学問 分野3(副 学問分野)	-
(19)実務 経験のある 教員による 授業科目に ついて	実務教員
(20)教 材・教科書	特になし。学習に必要な教材・資料は適宜提示します。
(21)参考 文献	各成人看護方法論で使用したテキスト ・雄西智恵美・秋元典子編，周手術期看護論第3版，2014，ヌーベルヒロカワ ・鈴木久美・野澤明子・森一恵編，成人看護学 慢性期看護 改訂第2版，2015，南江堂 ・野崎真奈美・林直子・佐藤まゆみ・鈴木久美編，成人看護学 成人看護技術 改訂第2版，2017，南江堂 その他、学習に必要な教材・資料は適宜提示します。
(22)成績 評価方法及 び採点基準	出席、授業への参加態度、演習内容ごとの事前課題及び事後課題レポート、以上について総合的に判断し成績評価を行います。一定レベル(60%)に達しなければ不合格・再履修となります。
(23)授業 形式	演習

(24)授業 形態・授業 方法	学生の主体的学習活動としての演習が中心です。 演習に当たり必要な知識等の講義を一部取り入れ、理論と実践の統合を目指す内容です。
(25)留意 点・予備知 識	事前のオリエンテーションには出席してください。 必要な準備や服装は演習内容ごとに異なるため、その都度連絡します。 演習に臨むに当たり、演習内容に関連した学習項目について予習を行いましょう。
(26)オフ イスアワー	随時、事前にメールで日時を予約してください。
(27)Eメー ルアドレ ス・HPア ドレス	漆坂: urushima@hirosaki-u.ac.jp
(28)その 他	授業内容の看護技術に詳しい専門家（認定看護師、理学療法士等）から看護技術を教授していただく予定です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	30
(2)区分番号	30
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	看護教育学概論 (Nursing Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○藤田あけみ, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○看護教育の意義, 目的, 目標を理解する (見通す力、学び続ける力) ○看護専門職の実践の特徴, 看護援助の基本的役割, 教育的機能を理解する (見通す力、学び続ける力) ○看護学教育の基盤となる理論について理解する (見通す力) ○看護学の教育課程の編成について理解する (見通す力) ○看護教育制度及び歴史的変遷について学校教育制度と関連付けて理解する (見通す力)
(15)授業の概要	・教育の本質を理解するために, 教育の概念・目的を学びます。さらに, 看護専門職としての教育的能力を身につけるために, 看護教育学の意義, 目的, 目標を学びます。また, 看護専門職としての実践の特徴や看護援助の基本的役割と教育的機能を学びます。 ・看護を継続して学習し, 実践する上で基盤となる概念 (職業的アイデンティティ, クリティカルシンキング, リフレクション, キャリアマネジメント) について学び, 学んだ概念をもとに, 看護専門職としての自己の考えの深化を促します。 ・看護学教育における授業の形態の種類や授業形態による評価の違いを学びます。また, 諸外国の看護教育や日本と諸外国の看護教育の違いについて学び, 日本の看護教育の課題について考えを促します。 ・現在の教育課程の編成や看護教育制度及び歴史的変遷について学び, 学校教育制度と関連付けた理解ができるように学びを深めます。
(16)授業の内容 予定	第1回: 看護教育学の意義, 目的, 目標 (担当: 藤田) 第2回: 看護学教育の基盤となる理論 (担当: 藤田) 第3回: 看護実践における看護の教育的機能 (担当: 藤田) 第4回: 授業形態と教育評価 (担当: 藤田) 第5回: 日本と諸外国の看護教育の比較 (担当: 會津) 第6回: 看護教育制度の歴史的変遷 (担当: 會津) 第7回: 看護学教育の教育課程 (担当: 會津) 第8回: 試験とまとめ (担当: 藤田、會津)
	毎回の授業の内容について、自分なりの考えをもつことが大切です。

(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験の ある教員による 授業科目につい て	実務教員
(20)教材・教科 書	教科書は使用しません。授業中に適宜資料を配布します。
(21)参考文献	杉森みど里：看護教育学 第6版，医学書院 小山真理子：看護教育の原理と歴史，医学書院 小山真理子：看護教育のカリキュラム，医学書院 グレック美鈴：看護教育学，南江堂
(22)成績評価方 法及び採点基準	毎回の授業最後の小テスト（20%），8回目の授業での試験（80%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	基本は講義形式です。授業の最後に，その日の授業内容に関する小テストを行い，振り返りを行います。さらに，質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらい，時間の授業の際に紹介・回答する方法をとります。
(25)留意点・予 備知識	特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスア ワー	藤田あけみ：随時受け付けますが，事前にメールで予約をとってください。 會津桂子：随時受け付けますが，事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	藤田あけみ： a_fujita@hirosaki-u.ac.jp 會津桂子： aizu@hirosakiu.ac.jp
(28)その他	高等学校看護教員としての実務経験から，経験を踏まえた講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	31
(2)区分番号	31
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	在宅看護学概論 (Introduction to Home Care Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所 属)	木立るり子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○在宅看護学の背景を理解する(見通す力) ○在宅看護学の対象と方法の概要を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	在宅で療養する個人とその家族に対する看護活動に必要な基礎的知識として、在宅ケアの歴史、背景、法制度を学びます。 病院における退院支援、退院調整から訪問看護まで、地域包括ケアシステムの中で、多職種連携の下での看護の位置づけを理解します。
(16)授業の内容予定	1. 6/13(木) 日本の在宅看護の成立、日本の在宅看護を巡る社会文化的背景 2. 6/20(木) 在宅看護の法的基盤とシステム1(介護保険制度、地域包括ケアシステム等) 3. 6/27(木) 在宅看護の法的基盤とシステム2(医療保険、診療報酬、訪問看護ステーション等) 4. 7/4(木) 在宅看護における連携1(退院支援、退院調整等) 5. 7/11(木) 在宅看護における連携2(在宅看護と多職種の連携) 6. 7/25(木) 在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開1(ヘルスアセスメント、家族支援) 7. 8/1(木) 在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開2(看護過程の展開、倫理的課題) 8. 8/8(木) 学習状況の振り返りと期末試験
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	前の時間の資料を読み直すとともに予定範囲の教科書を読んで臨んでください。
(18)学問分野1(主学 問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学 問分野)	-
	-

(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	在宅看護論 南江堂 (石垣和子ほか)
(21)参考文献	テキストの参考文献、また、随時講義の中で紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価: 期末試験100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義形式で行います
(25)留意点・予備知識	<p>本科目の単位取得は、4年次在宅看護学実習を履修するための要件となっています。</p> <p>2年次後期の在宅看護方法論、3年次前期の在宅看護学演習、4年次前期の在宅看護学実習の基礎となる科目であるため、在宅看護の特徴をきちんと理解することを求めます。</p> <p>社会的にも地域医療・在宅ケアの重要性が増しています。厚労省の政策や多様なメディアの情報にも関心を持って学んでください。</p>
(26)オフィスアワー	4年生の実習中のためオフィスアワーは特に設けられませんが、学内メールにて日程調整の上であれば随時可能です
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kidachi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	32
(2)区分番号	32
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護学概論Ⅱ (Introduction to Public Health Nursing Ⅱ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	北宮千秋
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○公衆衛生看護活動の根拠となる法と制度などを理解する(見通す力) ○保健師および公衆衛生に関する歴史的変遷を理解する(見通す力) ○地域をアセスメントする視点について理解する(見通す力)
(15)授業の概要	公衆衛生看護活動の展開および法と制度などの理解を基盤とし、その歴史的変遷を理解する また、地域をアセスメントすることにより導かれた青森県民の健康課題を基に策定された保健事業計画について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回. 公衆衛生看護学概論Ⅰの概要(振り返り) 第2回. 公衆衛生看護に関する法令 第3回. 公衆衛生看護活動の法令 第4回. 公衆衛生看護活動の歴史 第5回. 公衆衛生活動におけるアセスメント・計画・実践・評価 第6回. 青森県の健康課題 第7回. 青森県の保健計画の策定、事業計画、実践例 第8回. 健康危機管理、試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと 復習 配付された資料とテキストを参考に、学んだ内容の確認を行うこと
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会医学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	

	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	試験成績60点以上を合格とする 出席状況については3回以上休んだ場合, 単位認定の対象とならないことに留意すること
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主に講義を行う 一部課題発表を行う
(25)留意点・予備知識	本科目は公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択する学生の選抜科目となっている 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィスアワー	月曜日12時~13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email: chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	33
(2)区分番号	33
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	母性看護学概論 (Introduction to Maternity Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8 時限
(10)担当教員 (所属)	五十嵐世津子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○母性看護学の基盤となる専門的な知識・技術・態度を修得する（見通す力） ○母性看護の視点や看護観を修得する（見通す力） ○変革する科学や社会の変動に対応できる基礎的な考え方を理解する（解決する力） ○卒業後に看護の専門性を拡大していくことができる基盤を修得する（解決する力）
(15)授業の概要	基礎看護学教育における母性看護学の位置付けと母性看護の展開に必要な理論と実践について学習する。さらに理論と実践の統合として、母性という基本概念を中心に、女性のライフサイクル上で直面する健康に関わるテーマについて学習する。
(16)授業の内容 予定	<p>第1回：6/13：母性看護学の学習目的，母性の定義，母性の二面性，母性感の変遷</p> <p>第2回：6/20：母性看護学の理解に必要な基本概念（マタニティサイクル・ヘルスプロモーション，リプロダクティブヘルス/ライツ他）</p> <p>第3回：6/27：母性に関する法律（母子保健法，児童福祉法，労働基準法，他）</p> <p>第4回：7/ 3：母子保健統計の動向（生涯未婚率，妊産婦死亡率，死産，周産期死亡，他）</p> <p>第5回：7/11：女性の各ライフステージにおける健康と看護1（思春期，更年期，他）</p> <p>第6回：7/25：女性の各ライフサイクルにおける健康と看護2（不妊，生殖医療，他）</p> <p>第7回：8/ 1：学習状況の確認（試験含む）と振り返り（第63講義室）</p> <p>第8回：8/ 8：母性看護における倫理的問題と新たな課題</p> <p>* 授業の進行状態により，シラバスと実際の内容が異なる場合には，その都度説明いたします。</p>

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	予習：シラバスを参考して、各回の講義に関連した内容について、教科書や資料等を読み予習をして臨んでください。 復習：講義内容をもとに、母子保健に関する課題について考えるとともに、テキスト・資料を確認して、自分なりの考えをもつようにしてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論、母性看護学① 医学書院
(21)参考文献	1. 村本淳子・森明子編：母性看護学概論，医歯薬出版 2. 吉沢豊予子・鈴木幸子編：女性の看護学，メヂカルフレンド社 3. 吉沢豊予子編：女性の生涯看護学，真興交易 4. 厚生省の指標 わが国の母子保健 国民衛生の動向
(22)成績評価方法及び採点基準	単位の評価は3分の2以上の出席者に対して行います。但し、学習状況の確認は60%以上の得点の獲得が必要です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	講義中心で行います。
(25)留意点・予備知識	日ごろから母子保健政策，環境，子育てに関する情報について，問題意識をもって考えてください。
(26)オフィスアワー	随時可能ですが，必ずメールで日程調整を行ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	五十嵐 s123@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医療職者としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	34
(2)区分番号	34
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	看護科教育法 I (Nursing Education Teaching I)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	木曜日 7～10時限
(10)担当教員(所属)	○藤田あけみ, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○高等学校の学習指導要領及び教育目的と目標, 看護科の歴史, 設置目的を踏まえ, 看護科の意義, 教育目的, 教育課程について理解する(見通す力)(学び続ける力) ○様々な学習指導理論を踏まえて, 看護科の授業科目の指導案を作成できる(解決する力)(学び続ける力) ○指導案に基づき模擬授業を行い, 授業展開技術の基本を理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力)
(15)授業の概要	高等学校の教育目的と目標, 看護科の意義・目的, 教育課程, 学習指導法, 指導案の作成について学びます。看護科の授業科目の指導案を作成し, 講義形式の模擬授業を行い, 自己の振り返り意見交換を通して, 授業展開技術の基本について学びます。また, 高等学校看護科の授業展開や教授方法の工夫の実際, 生徒の実態について理解を深めるために看護科の授業参観を行います。
(16)授業の内容予定	第1回: 高等学校の学習指導要領及び教育目的と目標, 看護科の歴史, 設置目的, 看護科の教科・科目(担当: 藤田) 第2回: 指導案の目的, 指導案の様式・概要・作成方法, 音声教材・映像教材・情報機器の活用(担当: 會津) 第3回: 模擬授業の指導案作成(グループワーク)(担当: 藤田) 第4回: 模擬授業の指導案作成(個人ワーク)(担当: 藤田) 第5回: 模擬授業指導案の評価と指導(担当: 藤田・會津) 第6回: 模擬授業指導案の評価と指導, 準備(担当: 藤田・會津) 第7回: 模擬授業1: 人体と看護(担当: 藤田・會津) 第8回: 模擬授業2: 疾病と看護(担当: 藤田・會津) 第9回: 模擬授業3: 生活と看護(担当: 藤田・會津) 第10回: 模擬授業4: 基礎看護(担当: 藤田・會津) 第11回: 模擬授業5: 成人看護(担当: 藤田・會津) 第12回: 模擬授業6: 老年看護(担当: 藤田・會津) 第13回: 模擬授業7: 在宅看護(担当: 藤田・會津)

	<p>第14回：模擬授業8：小児看護（担当：藤田・會津） 第15回：模擬授業9：母性看護（担当：藤田・會津） 第16回：模擬授業10：精神看護（担当：藤田・會津）</p> <p>選択学生の人数により授業計画を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	年次に学習した看護教育学概論について、復習しておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 看護編（平成30年7月告示 文部科学省）</p>
(21)参考文献	<p>高等学校学習指導要領 総則編（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領 看護編（平成30年3月告示 文部科学省） その他、授業中に適宜資料を配布、または提示します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート及び授業への参加状況（模擬授業の計画・実施、意見交換など）によって行います。目安として、指導案の作成・模擬授業：60点、意見交換：20点、まとめのレポート：20点で評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と学生による模擬講義を行います。
(25)留意点・予備知識	特段の予備知識は必要としません。
(26)オフィスアワー	藤田あけみ：随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。 會津桂子：随時受け付けますが、事前にメールで予約をとってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	藤田あけみ： a_fujita@hirosaki-u.ac.jp 會津桂子： aizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	高等学校教諭の実務経験を踏まえた講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	35
(2)区分番号	35
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	臨床栄養学 (Clinical Nutrition and Biochemistry)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	○野坂大喜, 七島直樹
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○医療機関, 福祉施設, 在宅医療等での疾病の予防, 治療, 増悪防止や介護予防の観点からの栄養管理の基礎知識を修得する(見通す力)</p> <p>○傷病者や要支援者, 要介護者のQOLを向上させるための栄養マネジメント知識を修得する(見通す力)</p> <p>○臨床栄養学の役割を踏まえ, 生体内における栄養物質の代謝機序, また栄養リスク評価を通じた栄養療法の基礎的知識を理解する(見通す力)</p> <p>○効果的な看護のために, 生化学, 栄養代謝, 患者の病態に応じた病院食のコンセプトと実際を理解する(見通す力)</p> <p>○臨床検査データの読み方, 栄養アセスメントの考え方を理解する(解決していく力)</p>
(15)授業の概要	<p>臨床栄養学は, さまざまな疾患, 病態の成因, 進展, 治療において栄養がどのように関わっているかを理解するための学問であり, おのおのの疾患, 病態に対して適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行うことを目的としています。</p> <p>七島: 三大栄養素(糖, 脂質, タンパク質)の構造と代謝の生化学を講義します。</p> <p>これらの基礎的な生化学の知識は, 一般的な疾患に加え, 生命科学の基本問題の理解にも欠かせないものとなっています。</p> <p>野坂: 栄養と病態の関わり, また栄養状態を把握するための臨床検査データの読み方, 栄養アセスメントを講義します。</p>
(16)授業の内容予定	<p>第01回 04/12 生体の成り立ちと生体分子(七島)</p> <p>第02回 04/19 タンパク質の性質(七島)</p> <p>第03回 04/26 酵素の性質と働き(七島)</p> <p>第04回 05/10 糖の性質(七島)</p> <p>第05回 05/17 糖の代謝(七島)</p> <p>第06回 05/24 脂質の性質(七島)</p> <p>第07回 05/31 脂質およびタンパク質の代謝(七島)</p>

(26)オフィスアワー	七島直樹：メール等で連絡下されば適宜対応します。 野坂大喜：水曜日12:00-18:00 なおメール等で連絡下されば適宜対応します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	七島直樹： e-mail: nnaoki@hirosaki-u.ac.jp 野坂大喜： e-mail: hnozaka@hirosaki-u.ac.jp http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/hp1/
(28)その他	保健師資格取得には必須です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	36
(2)区分番号	36
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	看護技術学演習 I (Basic Nursing Methods (lecture and campus lab) I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5～8時限
(10)担当教員 (所属)	○佐藤真由美, 工藤せい子, 藤田あけみ, 小倉能理子, 會津桂子, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○健康, 病むこと, 健康回復, 安寧と関連づけながら各項目の援助の必要性と方法を理解する (見通す力) ○科学的根拠に基づいて技術を理解し, 正確に実施できるように修得する (解決していく力) ○基本的な技術を, 対象の状態に応じて応用的に適用する方法を考え, 実践できるようになる (学び続ける力) ○基礎的知識・技術の習得を基に, 看護技術・技術学をより創造的に発展できる能力の向上を目指す (学び続ける力) ○対象を主体的・全体的存在者として理解し, 相手を尊重する態度, 倫理観を養う (見通す力) ○対象の健康保持・回復・安寧への援助に関わるすべての人とそのチームワークについて理解する (学び続ける力)
(15)授業の概要	看護実践のための基礎・基本となる技術 (看護基本技術) 中の生活環境の調整技術, 衣生活援助技術, 体位, 安楽保持の援助技術, 活動・休息の援助技術, 清潔の援助技術, 食事の援助技術, 排泄の援助技術等について, その理論と方法を学ぶとともに看護専門職者としての態度を養う。
(16)授業の内容予定	◇5月7日～5月17日 生活環境の調整 (工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子) 1. 5月7日 (火) 講義 (工藤せい子) : 生活環境と健康, 病者と生活環境, 病者の生活環境としての病院・病棟・病室と設備・備品, 医療従事者の働く場としての病院・病室環境, 設備・備品, 病者環境の安全対策, 環境整備の技術 (採光・照明・音の調整, ッドメーカーキング, シーツ交換) 2. 5月10日 (金) 学内実習 : リネンのたたみ方, ベッドメーカーキング (工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子) 3. 5月14日 (火) 学内実習 : シーツ交換 (工藤せい子, 佐藤真由美, 會

津桂子, 土屋涼子)
4. 5月17日(金) 学内実習: 生活環境 (照明, 臭気, 騒音, 細菌等):
(工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子)

◇5月21日~5月24日 衣生活の援助技術・寝衣交換法 (會津桂子, 工藤せい子, 佐藤真由美, 土屋涼子)

5. 5月21日(火) 講義(會津桂子): 衣生活の援助・寝衣交換法

6. 5月24日(金) 学内実習: 寝衣交換法 (會津桂子, 工藤せい子, 佐藤真由美, 土屋涼子)

筆記試験①(生活環境)、②(衣生活の援助)

◇5月28日~6月7日 ボディメカニクス, ボディメカニクス理論の看護技術への応用(体位, 安楽保持, 活動の援助技術)

(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

7. 5月28日(火) 講義(佐藤真由美): ボディメカニクスと看護技術への応用, 体位の保持と体位変換, 移動・移送の援助

8. 5月31日(金) 学内実習: 体位, 体位変換技術, 安楽のための物品の使用(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

10. 6月7日(金) 学内実習: 車椅子・ストレッチャー移動・移送の援助(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

11. 6月11日(火) 筆記試験③(ボディメカニクス)

講義(佐藤真由美): 手洗いの基礎①(DVD)

◇6月14日 栄養・食事の援助, 経管栄養法(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

12. 6月14日(金) 講義(佐藤真由美): 栄養・食事の援助, 経管栄養法

学内実習: 食事介助・口腔ケア (佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

◇6月4日, 6月21日 休息・睡眠の援助技術, 罨法(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

9. 6月4日(金) 講義(佐藤真由美): 休息・睡眠の援助, 罨法, バイタルサイン①

13. 6月21日(金) 学内実習: 罨法(冷罨法, 温罨法)(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

◇6月28日 排泄の援助技術(佐藤真由美)

14. 6月28日(金) 講義(佐藤真由美): 排泄の援助

学内実習: 床上での排泄援助(便器・尿器の使用方法)(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

◇7月5日~7月19日 清潔の援助技術

健康と清潔, 病者と清潔援助, 清潔援助の理論と技術(皮膚・粘膜の清潔方法, 頭髮・口腔・陰部の清潔方法)

(工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子)

15. 7月5日(金) 講義(工藤せい子): 清潔の援助技術

学内実習: 清潔の援助①物品配置と体位の整え方(工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子)

16. 7月12日(金) 学内実習: 清拭(工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子)

17. 7月19日(金) 学内実習: 洗髪(工藤せい子, 佐藤真由美, 會津桂子, 土屋涼子)

18. 7月26日(金) 筆記試験④(栄養・食事の援助, 休息・睡眠の援助技術, 罨法, 排泄の援助技術, 清潔の援助技術)

総合学内実習: 白衣を着用して行う

(佐藤真由美, 工藤せい子, 會津桂子, 土屋涼子)

19. 8月2日(金) 実技試験(佐藤真由美, 工藤せい子, 藤田あけみ, 小倉能理子, 會津桂子, 土屋涼子)

予習
事前に予習資料を配布し, 予習を前提にして講義・演習を進めていきます。

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	復習 それぞれの看護基本技術については、実習室を土日以外は開放しています。試験内容や時期に関わらず、各自練習を重ねて正確な知識・技術の習得に結びつけてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	坪井良子, 松田たみ子編. 考える基礎看護技術 I. II. 第3版. ニューヴェルヒロカワ, 2019. 三上れつ, 小松万喜子編. 基礎看護技術. 第3版. ニューヴェルヒロカワ, 2018.
(21)参考文献	随時紹介します.
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 成績評価は、筆記試験と実技試験により評価します。 2. 筆記試験、実技試験はそれぞれ50点満点とし、各30点以上を合格とします。いずれか一方でも30点未満であれば科目の成績評価は不合格となります。 3. 筆記試験は、上記のとおり4回にわけて各授業担当者の授業終了時に行います。各担当者の授業時数の2/3以上出席しなければ、当該担当者の試験を受験できません。 4. 実技試験は、学内実習総時数の2/3以上出席しなければ受験できません。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義, 学内実習, レポート 等によって行ないます。
(25)留意点・予備知識	1. 各自目標を持って、主体的に授業に参加してください。 2. 学内実習時は実習に適した服装で参加してください（詳細はガイダンスで説明します）。 3. 学内実習を円滑に展開するために、準備・後始末の役割を決め、当番は教員と連絡を取って授業以外の時間に準備・後始末を行います。 4. レポート等の提出期限は遵守してください。また、レポートをまとめる際は、基礎ゼミナールで学習した「レポートのまとめ方」を活用してください。 *1単位取得のためには、予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー：随時。但し、事前にメール等で予約してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	佐藤真由美： sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	5月7日（火）、5月14日（火）、5月21日（火）、5月28日（火）、6月4日（火）、6月11日（火）の5～8時限は「看護技術学」の時間ですが、「看護技術学演習Ⅰ」を行います。 看護師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示するなど理解が深まるように工夫している。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	37
(2)区分番号	37
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小児看護学演習 (Pediatric Nursing, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	○扇野綾子, 橋本美亜
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○小児の主な症状の観察と看護について理解する(見通す力) ○健康問題をもった小児の看護について理解する(解決する力) ○小児の健康問題について、既存の知識をもとに筋道を立てて主体的に考える力を修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	健康な小児の日常生活を基礎とし、低出生体重児を含む新生児から思春期にいたる小児期の多様な健康問題とそれらに対する援助方法について理解を深める。
(16)授業の内容予定	第1回: 小児の症状の観察と看護(1) (扇野・橋本) 第2回: 小児の症状の観察と看護(2) (扇野・橋本) 第3回: グループ演習 (扇野・橋本) 第4回: 低出生体重児の看護 (扇野・橋本) 第5回: 呼吸器疾患のある小児の看護 (扇野・橋本) 第6回: 消化器疾患のある小児の看護 (扇野・橋本) 第7回: 離乳食に関する演習 (扇野・橋本) 第8回: 化学療法を受ける小児の看護 (扇野・橋本) 第9回: 腎・泌尿器疾患のある小児の看護 (扇野・橋本) 第10回: 循環器疾患のある小児の看護 (扇野・橋本) 第11回: 神経疾患のある小児の看護 (扇野・橋本) 第12回: 感染症のある小児の看護 (扇野・橋本) 第13回: 障がいのある小児の看護 (扇野・橋本) 第14回: 試験 (扇野・橋本) 第15回: 看護過程に関する演習 (扇野・橋本) 第16回: 小児看護技術に関する演習 (扇野・橋本) * 内容を変更して行うことがある。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習として事前に教科書に目を通しておくこと 講義の際に、予習・復習のための教材を配布することがある
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書：系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学総論（小児看護学①），医学書院。 系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論（小児看護学②），医学書院。 ナースとコメディカルのための小児科学。日本小児医事出版社。
(21)参考文献	講義の際に紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験(60%)及び毎回の記録・授業への参加度(10%)、プレゼンテーション・演習(20%)、レポート課題(10%)により総合して評価する。 講義の3分の2以上の出席で期末試験受験資格が得られる。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義、演習形式。学生によるプレゼンテーションを含む。 必要に応じてプリント、視聴覚機器を使用。
(25)留意点・予備知識	疾病論・小児看護方法論（高橋先生担当）の復習をして臨むこと。 欠席・遅刻をしないよう留意すること。 この科目は小児看護学実習及び統合実習Ⅰの履修要件科目である。
(26)オフィスアワー	扇野綾子：月・金曜日午後12:00～14:00 他随時（要連絡）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	扇野綾子： ohgino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	38
(2)区分番号	38
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	在宅看護学演習 (Home Health Nursing, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5～8時限
(10)担当教員(所 属)	○木立るり子, 大津美香, 北嶋 結, 山田基矢 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○在宅看護の事例のアセスメントを修得する(見通す力) ○在宅看護に求められる対人関係構築のスキルを修得する(解決していく力) ○地域ケアシステムにおける看護職の果たす役割を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	在宅看護を実践するために必要な知識, 技術を基に, 演習等を通して考察し, それを共有します。 地域における在宅療養者と地域包括ケアシステムの現状について触れます。
(16)授業の内容予 定	第1回: 4/12(金) 5.6 ガイダンス(見学実習の説明を含む)(木立、大津、北嶋、山田) 第2回: 4/12(金) 7.8 訪問看護過程(木立) 第3・4回: 4/19(金) 5-8 パネルディスカッション「在宅における援助技術」(木立、大津、北嶋、山田) 「ALS患者の在宅移行について」 外部講師 「子どもの在宅移行の現状について」 外部講師 「在宅の緩和ケアにおける外来看護」 外部講師 「在宅における褥瘡管理」 外部講師 「診療所の現状と訪問看護の連携」 外部講師 第5・6・7・8回: 4/26(金) 5/10(金) 5-8 事例にみる訪問看護(助言者分担あり)(木立、大津、北嶋、山田) 第9・10回: 5/17(金) 5-8 見学実習の時間に充てる 第11・12回: 5/24(金) 5-8 事例にみる訪問看護(ロールプレイ発表)(木立、山田) 第13回: 5/31(金) 5.6 見学実習資料作成時間に充てる 第14回: 5/31(金) 7.8 見学実習発表会「在宅療養を支える多様な場の役割について」(木立、大津、北嶋、山田) 第15回: 8/2(金) 5-8 4年生実習報告会に参加・質疑応答(木立、大津、北嶋、山田) ※地域ケアの見学実習は本授業科目の時間外に予定を組みます。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>制度やシステムのことが多くなります。予定範囲の教科書を読んで臨んでください。</p> <p>第1・2回：p.109-129 第3・4回：p.166-177, 186-197, 208-216, 284-290, 74-79, 85-87 第5-14回：p.109-216</p> <p>見学実習の際にはその目的にそって復習してから臨んでください。社会的にも地域医療・在宅ケアの重要性が増しています。厚労省の政策や多様なメディアの情報にも関心を持って学んでください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	概論で使用したテキスト 在宅看護論 南江堂
(21)参考文献	随時講義の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価：演習のテーマごとのレポート内容 上記を合算して最終的な成績評価を行う 予定です
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義，グループワーク，見学実習，発表等多様な授業を行います。
(25)留意点・予備知識	概論，方法論で学習したことが基盤となっている演習であり，4年次の実習にむけてより具体的な実践に近い内容を行います。 グループワークや個人への課題がありますので，主体的参加を求めます。課題の内容をきちんと理解したうえで取り組んでください。 また，提出期限は必ず守ることを心がけてください。
(26)オフィスアワー	4年生の実習期間中のためオフィスアワーは特に設けられませんが，学内メールにて日程調整の上であれば随時可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	木立るり子: kidachi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	第3回と第4回(4/19)では，在宅看護を実践する医療職をゲストスピーカーとしてお迎えし，パネルディスカッションを行います→実務経験のある教員による授業科目に該当 地域ケアシステムの理解を深めるために，青森県内における地域包括支援センター，病院の地域連携室のいずれかを見学する予定を組んでいます→地域志向科目にも該当

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	39
(2)区分番号	39
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	老年看護学演習 (Gerontological Nursing, Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日 5～8時限
(10)担当教員(所属)	○米内山千賀子, 大津美香, 北嶋 結
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○老化に伴う心身の状態・社会的立場について理解する(見通す力, 解決していく力)</p> <p>○高齢者の主な疾患・徴候と看護の要点を理解する(見通す力, 解決していく力)</p> <p>○高齢者の日常生活の状態をアセスメントするための技術を修得する(見通す力, 解決していく力)</p> <p>○高齢者に生じやすいリスクを踏まえ, 安全に配慮した環境について理解する(見通す力, 解決していく力)</p> <p>○高齢者の健康レベル(ニーズ)に応じた看護過程を理解し, 計画立案するための技術を修得する(見通す力, 解決していく力)</p>
(15)授業の概要	<p>○認知症看護のVTR学習, 高齢者疑似体験学習を通して, 加齢・疾患・後遺症が高齢者の生活の自立・QOLに及ぼす影響を理解し, その基本的な看護について学ぶ</p> <p>○老年看護過程演習におけるペーパーペイシエントを通して, より個別的, 具体的な看護計画を目指す</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 4/11 (1・2): 講義「高齢者の人生の最終段階における看護(第8章)」(米内山)</p> <p>第2回 4/11 (3・4): 講義「老年看護の倫理的課題と対応(第3章)」 「高齢者と医療安全(当日資料配布)」(大津)</p> <p>第3回 6/14 (5・6): 講義「治療を受ける高齢者への看護①: 薬物・手術療法における看護(第5章)」 「褥瘡(当日資料配布)」(大津)</p> <p>第4回 6/14 (7・8): 講義「治療を受ける高齢者への看護②: リハビリテーションにおける看護, 在宅療養に向けた退院支援(第5章)」(北嶋)</p> <p>第5回 6/21 (5・6): 講義「高齢者とその家族への看護(第6章)」(北嶋)</p> <p>第6回 6/21 (7・8): 6/28からの課題説明, 講義「看護活動の場における高齢者事例の展開(第5章)」(米内山)</p> <p>第7回～第14回 6/28～7/19 (5-8): 認知症の看護(VTR), 高齢者疑似体験, お</p>

	<p>むつ体験、看護過程演習（担当者全員） 高年齢者疑似体験では日常生活動作（起居・補高・移乗・食事・排泄・行為・入浴等）の場面を設定し、白内障・難聴・片麻痺状態の高年齢者とその介助者の両方を演じてもらいます 第15回、第16回 7/26（5-8）：期末テスト（45分）、高年齢者疑似体験発表会（担当者全員）</p> <p>*第1回～第5回では、ミニレポートまたは小テストを行う予定です *内容は一部変更になることがあります</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>『最新老年看護学 第3版(2018年版)』（下記）の予定範囲を事前に読んでおく。また、前回のテキスト、資料等を読み直しておく。</p> <p>第1回： p. 322-340 第2回： p. 52-72 ・厚生労働省「平成29年度 高年齢者虐待の防止、高年齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」資料1参照 https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989.html ・平成30年版高年齢社会白書（全体版）平成30年度 高年齢社会対策 第2節 分野別の高年齢社会対策 4 生活環境 https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/3s2s_04.pdf 第3回： p. 217-226 第4回： p. 227-236 第5回： p. 248-268 第6回： p. 237-245 「看護過程論演習(2年後期)」の基礎知識 第7回～第14回：車椅子操作、体位変換等について復習して臨んで下さい 第15回、第16回：第1回～第5回の講義内容</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	水谷信子 監：最新老年看護学 第3版(2018年版)、日本看護協会出版会。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正木治恵, 真田弘美 編：老年看護学概論 改訂第2版. 2016, 南江堂. ・ 正木治恵, 真田弘美 編：老年看護学技術 改訂第2版. 2016, 南江堂. ・ 山田律子 編：生活機能からみた 老年看護過程+病態機能関連図 第3版. 2016, 医学書院. ・ 亀井智子 編：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版. 2016, 医学書院. <p>その他、必要時、授業時間内に提示します。</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常評価（レポート：①VTR学習：認知症の看護5%、②おむつ体験5%、③高年齢者疑似体験レポート（個人）およびグループワークレポート・発表20%、④老年看護過程20%）：50% ・ 期末評価（期末試験）：50% <p>上記について合算し、最終的に評価を行います。平常評価、期末評価は各々30%以上を合格とします。</p>
(23)授業形式	演習

(24)授業形態・授業方法	講義形式および演習形式
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	事前に連絡してから訪室下さい。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	米内山 cyonai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえた授業内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	40
(2)区分番号	40
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産診断・技術学Ⅱ (Technology of MidwiferyⅡ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	金曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	三崎直子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○助産診断および助産技術の定義と意義, 範囲について理解する(見通す力) ○科学的根拠をもとに, 正常な助産診断について理解する(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	○妊娠期, 産褥期, 新生児期にある母子の正常な経過診断について学ぶ(妊娠期, 産褥期, 新生児期) ○正常からの逸脱の助産診断について学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 助産診断、助産技術学の定義と意義、範囲 第2回 妊娠期の助産診断 第3回 妊娠期の助産診断、 第4回 産褥期の助産診断 第5回 産褥期の助産診断 第6回 新生児期の診断 第7回 正常逸脱時の助産診断 第8回 期末試験とまとめ
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	授業毎に十分に復習をして次の授業にのぞんでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価(期末試験): 100% 期末試験を受けるには, 3分の2以上の出席時間が必要です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義です。適宜スライドを使用します。

(25)留意点・予備知識	助産学選択の希望者は必ず受講して下さい。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時～17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HP アドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験をふまえ、臨床事例を提示する等により、理解が深まるように工夫をしています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	41
(2)区分番号	41
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	人間発達論 (Human Development)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	則包和也
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○“人間とは何か”という問いについて、様々な視点から考え、人間を包括的に理解しようとする学びの姿勢を修得する</p> <p>○人の発達を誕生から死までの一連の過程として捉え、発達の各段階の特徴や課題を理解する</p> <p>○知覚、感情、認知など人間の内面の動きについて学習し、他者との関係性の中でどのように機能しているのかを理解する</p> <p>○上記目標を踏まえながら、“看護とは何か”を深く考える学識を得る</p>
(15)授業の概要	<p>○人間についての様々な切り口を紹介しながら、人類の進化に伴う人の成長と発達についての学識を深める</p> <p>○発達理論における各段階について心理・社会的側面から考え、各段階で起こる可能性がある問題について理解する</p>
(16)授業の内容予定	<p>第1回 人間の進化1(人間の特殊性)</p> <p>第2回 人間の進化2(人間についての様々な視点)</p> <p>第3回 人の発達1(発達に影響を与える要因)</p> <p>第4回 人の発達2(心の機能について)</p> <p>第5回 発達段階の特徴・課題1(授精～幼児期)</p> <p>第6回 発達段階の特徴・課題2(学童期～成人期初期)</p> <p>第7回 発達段階の特徴・課題3(成人後期～成熟期)</p> <p>第8回 発達障害、各発達段階におけるメンタルヘルスの問題</p> <p>注) 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します</p>
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	特になし。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	文化人類学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	心理学関連
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書は使用せずに、資料を配付します。
(21)参考文献	服部祥子, 生涯人間発達論, 医学書院, 2000年 (本館・医学部分館で閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価 (毎回授業後の小レポート、授業態度、授業貢献度など) 40%と最終レポート 評価60%を総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	集中講義で2日間に渡って、講義を主に行いますが、適宜グループワークや発表も行います。 掲示板で授業の日程を周知しますので、注意してください。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡をして下さい。時間の調整が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	nori.kane@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	精神科看護師としての実務経験を参考とした内容も含まれます。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	42
(2)区分番号	42
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育原理
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	須川公央（学外非常勤講師）
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル1~2
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○教育の本質，機能，目的，方法などについての基本的な考えを理解し，昨今の学校教育をめぐる課題について，自分なりに深く考えることができる（見通す力，解決していく力）
(15)授業の概 要	本講義は，科目名にもあるように，教育を原理的に捉え直すことを目的とするものである。そもそも教育とは何であるのか，あるいは教えることと学ぶことはどういう関係にあるのか等々，我々が何気なしにこれまで受けてきた「教育」という営みを徹底解剖し，その内実を深く歴史的・思想的な観点から考えていくことにしたい。
(16)授業の内 容予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「教える」と「学ぶ」ということ：教育の本質と目的をめぐって 3. 教育の両義性：教育は果たして善き営みか 4. 教育空間論：近代学校空間の基本構造とその歴史的変容 5. 教育の歴史（1）：明治期から戦前まで 6. 教育の歴史（2）：戦後教育の歴史 7. 教育と経済・政治：教育の経済的・政治的機能 8. 教育の思想：ソクラテスからデューイまで 9. 現代教師論：熱血教師かプロ教師か 10. 教育と階層格差：教育の再生産機能について考える 11. 学力問題とは何か 12. 教育方法論：教師はどのようにして教育を行っているのか 13. いじめ問題について考える：いじめの実態とそのメカニズム 14. 社会教育と家庭教育 15. 学校教育の新たなるかたち：シュタイナー教育の実践から <p>定期試験は行わない。</p>
	参考文献を予め読んでおくことが望ましい。

(17)準備学習 (予習・復習)等の内容	
(18)学問分野 1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	-
(20)教材・教科書	教科書は使用しない。主にプリント資料を中心とした講義形式で授業を進める。
(21)参考文献	西平直『教育人間学のために』東京大学出版会、2005年。 柴田義松ほか『新版 教育学を学ぶ：発達と教育の人間科学』有斐閣、1987年。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	授業参加状況(25%)およびレポートの結果(75%)を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、レポート作成上の基本的作法を守り、論理的かつ明晰な文章を記述できているか、の2点を重点的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式を中心に授業を進めるが、受講者諸君が能動的に参加できるよう、適宜ディスカッションなども行う。また授業によっては、DVD視聴なども行う予定である。なお、各回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらう。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要なし。ただし、講義後に各自、自分なりに関連領域に関する知識を深めることが重要である。
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	講義に関する質問は、 hkkft@nifty.com まで * 講義内容以外の質問は ogu1224@hiroasaki-u.ac.jp まで
(28)その他	* 1単位取得のためには予習復習を含めて45時間の学習が必要であることを踏まえたうえで、講義に臨むこと。 * 掲示に注意してください。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	43
(2)区分番号	43
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	発達と学習 (Development and Learning)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	安達知郎 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○児童・生徒の運動, 認知, 言語, 自己, 社会性がどのような過程を経て, 発達するのか, あるいは, 発達に困難が生じるのかを理解する ○児童・生徒の学習支援の基礎となる心理学的知見 (学習意欲, 学習行動, 教育評価, 教授学習法) について理解する
(15)授業の概要	乳児期, 幼児期, 児童期, 青年期, 成人期初期の運動, 認知, 言語, 自己, 社会性の発達, および, それらの発達に見られる困難について講義を行う。その上で, 学校現場で必要となる学習意欲, 学習行動, 教育評価, および, 教授学習法についての講義を行う。
(16)授業の内容 予定	第1回: ガイダンス 第2回: 発達とは 第3回: 発達心理学の諸理論 第4回: 青年期の発達 第5回: 成人初期の発達 第6回: 乳児期の発達 運動, 認知, 言語 第7回: 乳児期の発達 社会面 第8回: 幼児期の発達 認知, 言語 第9回: 幼児期の発達 自己, 社会性 第10回: 児童期の発達 第11回: 乳児期, 幼児期, 児童期の発達の困難 第12回: 学習意欲 (動機付け) 第13回: 学習行動の基礎 第14回: 教育評価 第15回: 教授学習法 * 授業の内容, 進度は状況によって変更になる場合があります。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	とくにありません

(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	授業中に適宜，配布します
(21)参考文献	よくわかる発達心理学第2版（無藤・岡本・大坪、ミネルヴァ書房、2009） よくわかる発達臨床心理学第4版（麻生・浜田、ミネルヴァ書房、2012）
(22)成績評価方法及び採点基準	期末レポート（100%）
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義
(25)留意点・予備知識	授業は9/24-26に行います。 とくにありません
(26)オフィスアワー	水曜日 12：00～12：30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	adachiあっとまー<hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	44
(2)区分番号	44
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	社会福祉学 (Social welfare)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	高橋和幸 (学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○社会福祉の分野における法律・制度の改正の現状を説明できる (見通す力) ○看護職に必要な社会福祉の関係法律と制度を理解する (解決する力)
(15)授業の概要	人々の生活にとって社会福祉の諸サービス利用は特別なものではなく、身近なものである。しかし、患者本人あるいは家族が知らないとその利用が難しい場合が発生する。医療費の支払い困難ケースや退院後の在宅福祉サービスの利用方法等がわからず不安になる等が代表例である。 患者や家族の生活問題は多岐にわたるが、個々の問題に最も適した福祉サービス利用が見つけられるよう行政機関や施設への橋渡し役となれること。つまり、看護専門職の福祉への関わり方を、講義を通じて実感してほしい。
(16)授業の内容 予定	2019年8月7日, 8月8日 : 8:40-15:50 第1回目 現代社会と社会福祉 第2回目 社会福祉の分野 (児童) 第3回目 社会福祉の分野 (障害者) 第4回目 社会福祉の分野 (高齢者) 第5回目 社会福祉の分野 (低所得者) 第6回目 患者と家族を支える社会福祉制度 第7回目 保健医療福祉活動 第8回目 まとめと試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	[予習] 予習箇所については適宜指示します。 [復習] 試験は学習範囲から網羅的に出題しますので、毎回の講義で出題箇所を聴き漏らさないようにしてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	社会学関連
	看護学関連

(18)学問分野 2(副学問分野)	
(18)学問分野 3(副学問分野)	法学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	テコム編集委員会編(2018)看護国試シリーズ『みるみるナーシング健康支援と社会保障制度 2018～2019(第2刷)』テコム出版社
(21)参考文献	必要に応じて掲示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業の参加状況と小テスト・レポート、試験による総合評価とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	日本の社会福祉制度の全般を網羅的に把握できるよう資料(プリント・プロジェクター等)の使用によりわかりやすく解説します。
(25)留意点・予備知識	社会福祉に関心を持つため、新聞・テレビを見てください。
(26)オフィスアワー	(質問に関する連絡先)弘前学院大学社会福祉学部 高橋研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	公開しない。学務課を通じて連絡をとるようにしてください。
(28)その他	実務経験を踏まえた講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	45
(2)区分番号	45
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	基礎看護学実習 I (Basic Nursing, Practice I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所 属)	○工藤せい子, 藤田あけみ, 小倉能理子, 佐藤真由美, 會津桂子, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○対象となる人の生活状況や療養環境を理解できる(見通す力, 解決していく力) ○対象となる人の心理を知ることができる(見通す力) ○対象となる人の、病むこと、入院・治療を受けることの概要を理解できる(見通す力) ○対象となる人への看護活動の概要が理解できる(見通す力, 解決していく力) ○対象となる人を取り巻く医療チームメンバーの役割や連携の概要について理解できる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	本実習は、学生が看護実践の場に参加し、看護実践を直接体験的に学ぶことを通して、これまでの学習内容の理解をより深め、学習意欲および看護専門職者としての倫理観、態度の育成を目指しています 夏休みに入る前に事前に課題を示すので、看護学専攻の掲示板を注意してみてください
(16)授業の内容予 定	すべての期間、担当教員全員が担当します。 9/ 9(月) 8:30~10:10 全体オリエンテーション 10:20~16:00 病院・病棟オリエンテーション 16:00~17:00 自己学習 9/10(火) 8:30~9:30 DVD学習 9:30~17:00 看護部による講義と各部署見学 9/11(水) 8:30~16:00 Aグループ病院実習 (16:00~17:00はまとめ等自己学習) 9/12(木) 8:30~16:00 Aグループ病院実習 (16:00~17:00はまとめ等自己学習) 9/13(金) 8:30~12:00 Aグループまとめのカンファレンス 9/17(火) 8:30~16:00 Bグループ病院実習 (16:00~17:00はまとめ等自己学習) 9/18(水) 8:30~16:00 Bグループ病院実習 (16:00~17:00はまとめ等自己学習) 9/19(木) 8:30~12:00 Bグループまとめのカンファレンス

	なお、7/1(月)、7/8(月) 7. 8時限の栄養管理部の講義を実習時間に含みます
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	夏休みに入る前に事前に課題を示しますので、看護学専攻の掲示板を注意してみてください
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	これまでの既習の教科書・テキスト、あるいは並行して学んでいる専門科目の教科書・テキスト等です
(21)参考文献	随時紹介します
(22)成績評価方法及び採点基準	1) 100点満点で ①出席、②実習態度、③記録、④反省会、⑤レポートから総合的に評価します 3分の1以上欠席の場合は評価の対象から除外します 2) 配点について ①出席、②実習態度、③記録、④反省会 …65点 ⑤レポート …35点
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	2年次前期(平成31年9月9日(月)～9月19日(木))に集中実習を行います)
(25)留意点・予備知識	これまでの既習事項を身に付けておくことが必要になります
(26)オフィスアワー	工藤せい子: 随時メールで予約してください
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	工藤せい子: seikoku@hirosaki-u.ac.jp その他の教員の連絡先等については、実習病棟別に担当教員から提示されます
(28)その他	まとめのカンファレンスにおいて、看護師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示するなど理解が深まるよう工夫しています

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	46
(2)区分番号	46
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	老年看護学実習 I (Gerontological Nursing, Practice I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○大津美香, 米内山千賀子, 北嶋 結
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○高齢者の現在の思いを傾聴するための技術を修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○高齢者がこれまで歩んでこられた生活歴を通して, その人の全体を理解する姿勢を修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○老年期において人生を振り返ることの意義について理解する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	高齢者ケアにおいては, 長い生活経験や人間関係等が大きく関わっているため, 対象者を個人として捉える姿勢が不可欠となる。本実習では, 高齢者の語る生活歴を傾聴し, 記録し, 解釈する方法を通して, その基礎と実践を学ぶ。
(16)授業の内容 予定	1回目: 学内一斉ガイダンス (8/16) (担当者全員) 方法についての学習, 「看護コミュニケーションスキル I」および「懐かしい話」についてのVTR学習, インタビューガイドの作成 2回目: (担当者全員) ①臨地実習: 原則として70歳以上の高齢者1名を学生2-3名で受け持ち, インタビューを実施し, 記録をとる。 ②学内実習: 記録の内容をまとめる。 3回目: 学内実習 (担当者全員) 記録から対象者の生活歴を解釈し, 個々に聞き書き冊子を作成する。 4回目: (担当者全員) ①臨地実習: 同対象者を受け持ち, インタビューを実施し, 記録をとる。 ②学内実習: 記録の内容をまとめる。 5回目: 学内実習 (まとめの発表会) (担当者全員) インタビューを通して学んだことを全体で共有し「まとめ」とする。 発表後, 学んだことを各自レポートする。 *臨地実習施設は, サービス付高齢者住宅, デイケア, デイサービス, 介護老人保健施設等のうち1か所となります。 *実習時間以外にも課題提出日までの期間に, 高齢者の理解および冊子作成のために, 担当教員と面談します。

(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	事前課題については、7月頃にお知らせします。 老年看護学概論、コミュニケーション論等で学習した内容を復習して臨んでください。 ・認知症の方への対応・接し方 ・介護老人福祉施設、介護老人保健施設、デイサービス、デイケア、介護予防事業などの社会保障の特徴 ・施設入所者、通所サービス、介護予防事業の利用者の特徴 ・高齢者が生きた時代背景 等
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科 書	・老年看護学概論で使用したテキスト：水谷信子 監修『最新老年看護学 第3版』日本看護協会出版会 ・「看護学専攻臨地実習要項」（2年次購入） *老年看護学実習Ⅰ要項は、8/16学内一斉ガイダンス時に配布します。
(21)参考文献	・小田豊二 著『「聞き書き」をはじめよう』木星舎, 2012 ・中井浩一, 古宇田栄子 編著『「聞き書き」の力』大修館書店, 2016 ・志村ゆず 編『ライフレビューブッカー-高齢者の語りの本づくり』弘文堂, 2005 ・正木治恵, 真田弘美 編『老年看護学概論 改訂第2版』, 南江堂, 2016 ・その他, 適宜, 紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	・平常評価（実習への参加態度等）：30% ・期末評価（聞き書き冊子30%、老年看護学実習Ⅰ記録（VTR学習を含む）40%）：70% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・ 授業方法	実習（学内実習を含む）
(25)留意点・予 備知識	・老年看護学概論（2年前期）を履修していることが条件です。 ・津軽地区の施設に出向きますので、日頃から津軽弁に触れる機会をもってください。津軽弁を学習するための書籍も貸出します。活用してください。 ・実習配置が決定しても、施設の都合により臨地実習期間や場所が変更になることがあります。また、実習中の課題作成もあるため、8月16日～8月30日までは、他の予定を入れしないでください。課題の提出期限は9月3日を予定しています。 ・教職選択の学生については、実習期間に開講される集中講義を履修できるよう調整を行います。
(26)オフィスア ワー	事前に連絡してから訪ねるようにしてください。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	大津 h_otsu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ、高齢者理解が深まるよう工夫している。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	47
(2)区分番号	47
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教職入門 (Introduction Teachers Theory)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	全学教職入門実施委員会
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○教職の意義や教員の役割について理解を深め、学校を職場として見直すことによって、教職に対する心構えを築く(見通す力)
(15)授業の概要	講義や学校観察実習、討論などを通して、教職の意義や教員の役割について理解を深め、教職への心構えを築くことを目的とする。
(16)授業の内容予定	9月中の4日間に集中的に実施する。 1・2日目：大学教員による講義 2日目：弘前市内と周辺の高등학교での学校観察実習および当該高校教員による講話 3日目：討論と発表会
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	特に必要ない。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に必要ない。
(21)参考文献	随時紹介する。
(22)成績評価方法及び採点基準	講義および観察実習への参加態度、討論、レポート等で総合的に判断する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	集中授業。講義、学校観察実習および討論会、発表会を含む。

(25)留意点・予備知識	集中授業の日程に注意。事前ガイダンスで授業の内容や準備に関して詳しく説明するので、必ず出席のこと。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、事前にメール等で予約すること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	會津 : aizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> * 7月にガイダンスを行います。ガイダンスの欠席は履修放棄と見なします。 * 掲示に十分注意してください。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	48
(2)区分番号	48
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	特別活動 (Special Activity)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	林尚示(学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○特別活動の動態を理解する(見通す力) ○学級活動, ホームルーム活動, 生徒会活動, 学校行事の立案・実施に関する基礎的な技能を体得する(解決していく力)
(15)授業の概要	学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であることがわかる。
(16)授業の内容予定	第1回 授業オリエンテーション 第2回 特別活動と学級活動の概要説明 第3回 学級活動の指導案作成 第4回 学級活動の模擬授業 第5回 学級活動レポート 第6回 学級活動のDVD視聴と分析 第7回 生徒会活動の概要説明 第8回 生徒会活動の指導計画作成 第9回 模擬生徒会活動 第10回 生徒会活動・学校行事レポート 第11回 学校行事の概要 第12回 学校行事のDVD視聴と分析 第13回 学校行事の指導計画作成 第14回 模擬学校行事 文化的行事、等 第15回 模擬学校行事 健康安全・体育的行事、等 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習]各自の経験してきた特別活動について振り返って経験をまとめておいてください。 [復習]授業内容の要点をまとめて次回の授業につなげてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	教育学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	林尚示編, 2016『教師のための教育学シリーズ9特別活動—理論と方法—』学文社.
(21)参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 2017年。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験(60%)・レポート(20%)・積極的授業参加度(20%)を目安として総合的に評価する。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	一斉学習、個別の指導案作成、グループ討議、グループでの指導案作成、模擬授業、等
(25)留意点・予備知識	遅刻せずに出席してください。
(26)オフィスアワー	授業の間の休み時間に教室で対応する。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	所属学部の教務・学務担当を經由してご連絡ください。 haya5510@gmail.com
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	49
(2)区分番号	49
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育相談の理論及び方法（カウンセリング基礎論）（Introduction to School Counseling）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	吉中 淳（教育学部） 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○生徒理解の基本的視点を理解する（見通す力） ○生徒の自己実現・適応・メンタルヘルスを促す技法を修得する（解決する力） ○理論に裏打ちされた実践力をつける（解決する力）
(15)授業の概要	教育相談やカウンセリングの基礎となる考え方と人間関係の理論等を講じます。また、教育現場でそれぞれの技法を実践してきた非常勤講師3名が、自らの実践技法や事例理解の方法を伝えます。
(16)授業の内容予定	○集中講義で実施します。 第1回：オリエンテーション（担当：吉中） 第2回：学校における教育相談の意義と課題（担当：吉中） 第3回：組織的教育相談の必要性（担当：吉中） 第4回：教育相談に関する基礎的理論（担当：松田） 第5回：いじめ・不登校と教育相談（担当：松田） 第6回：教育相談の基礎的概念（担当：長野） 第7回：子どもにとっての問題行動の意味（担当：長野） 第8回：学校教育におけるカウンセリングマインド（担当：長野） 第9回：学校不適應の理解と対応（担当：小玉） 第10回：年間計画作成、児童生徒・保護者面談の進め方（担当：小玉） 第11回：支援計画作成演習（事例検討）（担当：小

	<p>玉) 第12回：チーム支援、学校内外の資源の活用 (担当：小玉) 玉) 第13回：子どもの発するシグナルの把握 (担当：立原) 原) 第14回：カウンセリングの基礎的技法 (担当：立原) 原) 第15回：傾聴スキルトレーニング (担当：立原)</p> <p>※順番や内容を変更する場合があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義内容の復習と、演習体験の熟成に努めてください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある 教員による 授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	テキストは使用しません。適宜資料を配布します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石隈利紀 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 2004年刊 誠信書房 ・上地安昭 学校教師のカウンセリング基本訓練—先生と生徒のコミュニケーション入門— 1990年刊 北大路書房 ・桑原知子 教室で生かすカウンセリング・マインド—教師の立場でできるカウンセリングとは— 1999年刊 日本評論社
(22)成績評価方法 及び採点基準	評価は、学部教員と非常勤講師とが各々に提示する課題の成績を、担当時間数に応じ按分して総合的に行います。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	土曜日に大教室で集中講義を行います。1日、3～4コマ。 1ヶ月に1回ないし2回程度。
(25)留意点・予 備知識	非常勤講師のスケジュールに合わせて日程調整がなされます。調整結果はできる限り早く掲示しますので、掲示に注意してください。 * 例年、講義の日程や開始時刻を間違える学生が後を絶たないのでくれぐれも注意してください。
(26)オフィスア ワー	吉中のオフィスアワー：木曜日 12:00～13:00
(27)Eメールア ドレス・HPアド レス	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp * 授業内容以外の質問は、小倉： ogu1224@hirosaki-u.ac.jp まで。
(28)その他	教育現場でそれぞれの技法を実践してきた非常勤講師3名が、自らの実践技法や事例理解の方法を伝えます。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	50
(2)区分番号	50
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	基礎看護学実習Ⅱ (Basic Nursing, Practice Ⅱ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所 属)	○工藤せい子, 藤田あけみ, 小倉能理子, 佐藤真由美, 會津桂子, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○患者を受持ち, 受持患者への看護実践を通して看護の基礎的・基本的知識, 技術, 態度を修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○患者の理解, 観察やコミュニケーション等, 基礎的・基本的看護技術の修得, 看護過程の理解, および看護専門職者としての倫理観, 態度を修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	<p>病院での実習を通して, 以下について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象となる人とコミュニケーションをとることができる <ol style="list-style-type: none"> 1-1 コミュニケーションの目的を明確にすることができる 1-2 コミュニケーションに応じた環境や雰囲気づくりができる 1-3 対象となる人と自己の反応を把握・確認できる 1-4 対象となる人の状態や反応に合わせてコミュニケーションをとることができる 2. 対象となる人を包括的に理解することができる <ol style="list-style-type: none"> 2-1 どのような価値観・健康観をもっているかを知ることができる 2-2 身体的外観, 生理的徴候などを観察・測定できる 2-3 器質的・機能的障害の原因を説明できる 2-4 心理的状況や心理的变化をとらえることができる 2-5 家族・地域・社会の一員としての役割およびその変化を把握できる 2-6 基本的ニーズがどのように脅かされているかを把握できる 3. 対象となる人に援助を行う看護の過程を理解できる <ol style="list-style-type: none"> 3-1 情報を総合的に分析・解釈して, 援助を要する問題の把握ができる 3-2 問題の優先順位を考慮することができる 3-3 問題について計画を立案し, 援助することができる 3-4 援助した結果について評価できる 4. 対象となる人に基礎的・基本的な看護技術を適切に行うことができる <ol style="list-style-type: none"> 4-1 対象となる人に必要な日常生活の援助を把握することができる 4-2 対象となる人が援助を受けやすい環境の調整と準備ができる 4-3 安全・安楽を保ちながら日常生活の援助ができる

	<p>4-4 適切な物品を使用し、原則に準じて日常生活の援助ができる 4-5 対象となる人の状態に合わせて日常生活の援助ができる 4-6 実施した看護行為を評価することができる</p> <p>5. 専門職者としての倫理観を培うことができる 5-1 対象となる人を一人の人間として尊重してかかわることができる 5-2 対象となる人を擁護する役割があることを認識できる 5-3 責任ある行動をとることができる 5-4 他者の意見を謙虚に受け止めることができる 5-5 積極的に専門的知識を身につけようと努力できる 5-6 自己をみつめ、自己を知るための努力ができる</p>																								
(16)授業の内容予定	<p>すべての期間、担当教員全員が担当します</p> <p>1週目 6/11 (火) 8: 30~10: 20 ABCグループ 学内オリエンテーション 10: 30~11: 50 ABCグループ 病棟オリエンテーション</p> <p>6/13 (木) 事前学習(技術や知識確認)、受持患者紹介(実習病棟により異なるため、指導教員に確認する)</p> <p>7/16 (火) 8: 30~11: 50 ABCグループ 学内演習</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aグループ</th> <th>Bグループ</th> <th>Cグループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病棟実習 2週目</td> <td>(6/18火. 6/20木)</td> <td>(7/ 2火. 7/ 4木)</td> <td>(7/23火. 7/25木)</td> </tr> <tr> <td>3週目</td> <td>(6/25火. 6/27木)</td> <td>(7/ 9火. 7/11木)</td> <td>(7/30火. 8/ 1木)</td> </tr> <tr> <td>看護過程演習 4週目</td> <td>(7/ 2火. 7/ 4木)</td> <td>(7/23火. 7/25木)</td> <td>(8/ 6火. 8/ 8木)</td> </tr> <tr> <td>まとめ 5週目</td> <td>(7/ 9火)</td> <td>(7/30火)</td> <td>(8/ 8木)</td> </tr> <tr> <td>ファイル提出 6週目</td> <td>(7/16火)</td> <td>(8/ 6火)</td> <td>(8/10土)</td> </tr> </tbody> </table>		Aグループ	Bグループ	Cグループ	病棟実習 2週目	(6/18火. 6/20木)	(7/ 2火. 7/ 4木)	(7/23火. 7/25木)	3週目	(6/25火. 6/27木)	(7/ 9火. 7/11木)	(7/30火. 8/ 1木)	看護過程演習 4週目	(7/ 2火. 7/ 4木)	(7/23火. 7/25木)	(8/ 6火. 8/ 8木)	まとめ 5週目	(7/ 9火)	(7/30火)	(8/ 8木)	ファイル提出 6週目	(7/16火)	(8/ 6火)	(8/10土)
	Aグループ	Bグループ	Cグループ																						
病棟実習 2週目	(6/18火. 6/20木)	(7/ 2火. 7/ 4木)	(7/23火. 7/25木)																						
3週目	(6/25火. 6/27木)	(7/ 9火. 7/11木)	(7/30火. 8/ 1木)																						
看護過程演習 4週目	(7/ 2火. 7/ 4木)	(7/23火. 7/25木)	(8/ 6火. 8/ 8木)																						
まとめ 5週目	(7/ 9火)	(7/30火)	(8/ 8木)																						
ファイル提出 6週目	(7/16火)	(8/ 6火)	(8/10土)																						
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	<p>実習前に課題があります。課題は掲示板に提示します 各グループの第一週の木曜日を中心に事前学習(技術や知識確認)が提示されます 詳細については別途伝達します</p>																								
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連																								
(18)学問分野2(副学問分野)																									
(18)学問分野3(副学問分野)																									
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員																								
(20)教材・教科書	これまでの既習の教科書・テキスト、あるいは平行して学んでいる授業内容すべてが必要な知識とになります																								
(21)参考文献	1・2年次までの既習事項を統合した実習となります。よって、これまでのテキスト・ノート 全てが参考になります																								
(22)成績評価方法及び採点基準	出席状況、実習内容、記録物等から総合的に判断します。詳細については別途伝達します																								
(23)授業形式	実習																								
(24)授業形態・授業方法	病棟実習(病棟) 看護過程演習(学内)																								
(25)留意点・予備知識	自己学習や練習を十分行って実習の臨むこと、不安なときや疑問があるときは、1人で判断して行動せず、指導者に確認して行うようにしましょう																								

(26)オフィスアワー	工藤せい子: 随時メールで予約をお願いします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	工藤せい子: seikoku@hirosaki-u.ac.jp その他の教員の連絡先等については、実習病棟別に担当教員から提示されます
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示するなど理解が深まるよう工夫しています

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	51
(2)区分番号	51
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	看護教育課程論 (Curriculum of Nursing Education)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	小倉能理子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○看護教育課程の歴史的変遷と現在の教育課程の種類ならびに看護学教育の将来展望について理解できる(見通す力)
(15)授業の概要	教育課程に関する基礎理論に基づき、看護教育課程の意義や編成等について学びます。また看護教育課程の歴史的変遷や現在の教育課程の種類ならびに看護学教育の将来展望についても学びます。特に既習した看護教育学概論、看護教育方法論の講義内容と関連させながら進めます。看護学教育の将来展望に関しては、日本の超高齢多死社会という社会情勢とも密接に関連することから、2025年看護問題と関連させながら学びます。講義を中心としますが、一部ではグループ学習も取り入れて行います。
(16)授業の内容予定	第1回：教育課程の基礎理論と看護学教育における教育課程の特徴 第2回：看護教育課程の種類と具体的内容1：保健師課程，助産師課程，看護師3年課程 第3回：看護教育課程の種類と具体的内容2：看護師2年課程，5年一貫教育課程，准看護師課程 第4回：看護教育における歴史的変遷1：明治初期から第二次世界大戦前後まで 第5回：看護教育における歴史的変遷2：保健婦助産婦看護婦法制定以降現在まで

	<p>第6回：看護職に求められる社会的ニーズと看護教育課程 第7回：看護学教育課程の将来展望 第8回：レポート 課題作成</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> 看護教育学概論および看護教育方法論の講義内容について復習をして下さい。 授業の最後に課題を提示し、次回の講義で確認します
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定はありません。
(21)参考文献	平尾真智子：資料にみる日本看護教育史，看護の科学社 小山真理子：看護教育の原理と歴史 その他、随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況（20%），グループ学習（30%），レポート（50%）を総合して評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主体としますが，グループ学習も取り入れて行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> 2年次に履修した看護教育概論，看護教育方法論の講義内容を基本として進めます。 看護教育を取り巻く社会情勢についても把握して下さい。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが，メールで予約ください。
(27)Eメールアドレス	ogu1224@hirosaki-u.ac.jp

ス・HPアド レス	
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえた講義内容にしています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	52
(2)区分番号	52
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	看護管理学 (Nursing Administration)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○佐藤真由美, 小林朱実
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○看護管理の定義, 目的, 機能を説明できる(見通す力) ○組織の成り立ちと構造を理解し, 組織の中の一員として活動するための留意事項を説明できる(見通す力) ○看護に関する法律や医療制度をもとに, 看護職の責務と役割について説明できる(解決していく力) 質の高い看護サービスを提供するためのキャリア教育, 質の保証・評価, リーダーシップについて説明できる(学び続ける力)
(15)授業の概要	看護の対象者によりよい看護を提供するためには管理的な視点が必要です。看護管理の概念, 看護業務, 看護職員のキャリア教育, 臨床における看護管理の実際など, 看護管理の基本的な知識について理解し, 組織の中の看護職の一員として自分たちのこれからの役割を考えていきます。
(16)授業の内容 予定	集中講義によって行います。 1日目 : 8月5日 (月) 第1回 : 看護管理の概念(佐藤) 第2回 : 看護部の組織(佐藤) 第3回 : 看護業務管理, 看護体制(佐藤) 第4回 : 看護のマンパワー, 医療・看護の質(佐藤) 2日目 : 8月6日 (火) 第5回 : 看護におけるリーダーシップ(佐藤) 第6回 : 看護職と倫理, 危機管理等(佐藤) 第7回 : 看護職員の教育とキャリア開発(佐藤) 第8回 : 看護部の運営の実際(小林看護部長) 定期試験
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	授業内容を確認し, 関連するテーマについて情報収集して参加して下さい。講義のプリントを読んで復習して下さい。学習した内容を身近な事柄と結びつけて考えられるよう適宜課題を出します。
	看護学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	看護学概論：ヌーヴェルヒロカワ
(21)参考文献	系統看護学講座 統合看護 看護管理：医学書院 看護管理：MCメディカ出版 看護管理：ヌーヴェルヒロカワ
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況，筆記試験で評価します。成績評価は，授業への参加状況（30%），筆記試験（70%）の結果から評価します。合わせて一定のレベル（60%）に達しなければ不合格とします。評価は，3分の2以上出席した人が対象になります。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義（集中）
(25)留意点・予備知識	留意点・予備知識 今までの実習体験を振り返り，授業内容に結びつけてください。また，医療に関するニュースに関心を持ち現在の状況を理解することで授業が理解しやすくなります。
(26)オフィスアワー	適宜。事前にメールにてご連絡ください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	佐藤真由美： sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ，臨床事例を提示するなど理解が深まるように工夫している。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	53
(2)区分番号	53
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	精神看護学実習 (Psychiatric Nursing, Practice)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○則包和也, 多喜代健吾 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル3~4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○精神障がい者とその家族の特徴を理解する (見通す力) ○精神科に入院している患者への看護過程を展開できる (解決する力) ○地域で生活する精神障がい者への援助を理解し, 精神医療・保健・福祉における看護の役割・機能を修得する (学び続ける力) ○患者-看護師関係の重要性を理解でき, 治療的な関わりを修得する (見通す力, 解決する力) ○看護場面を振り返ることによって, 自己洞察を行うことができる (学び続ける力)
(15)授業の概要	○精神疾患患者を受持ち、看護過程を展開する ○受持ち患者への看護を通して、多職種チームとしての援助の方法を学ぶ ○社会復帰施設の見学実習によって、地域で生活をする患者への援助を体験する
(16)授業の内容 予定	1. 学内ガイダンス、病院ガイダンス (担当教員全員) 2. 学内オリエンテーション、病棟オリエンテーション (担当教員全員) 3. 臨地実習…各実習施設で、以下の内容を行う (担当教員全員) ○受持ち患者の看護過程の展開 ○カンファレンスへの参加 (学内と実習施設内) ○実習記録様式への記録と提出 ○面接 (必要時に教員が行う) 4. 学内でのまとめと発表 (担当教員全員) 5. 施設見学…社会復帰施設 (弘前市内の2施設: 則包が日程調整をして、学生が主体的に実施する)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習…精神看護学に関する概論、方法論および演習で習得した知識・技術の活用のために予習を必ずしてください。 復習…実習終了後は、習得した知識や臨床経験を整理統合し、実習記録の整理や課題レポートの作成を行ってください。
	看護学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	心理学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	精神看護学概論、精神看護方法論および精神看護学演習で使用した教科書とプリント等を活用して下さい。
(21)参考文献	随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. ガイダンスと、臨地実習（オリエンテーションを含む）に2/3以上出席し、記録を期限までに提出した学生を評価します。 2. 評価は、実習要項「精神看護学実習評価表」に基づいた評価を、教員、病棟実習指導者、学生の3つの評価を総合的に判断して行います。 3. 評価が60点に満たない場合は、再履修とします。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	弘前大学医学部附属病院、藤代健生病院、および、弘前愛成会病院のうちの1施設において行う臨地実習は、1病棟あたり2～4人の小グループに分かれて行います。実習方法は、1人の学生が精神疾患患者を1人受持ち、実際に看護過程を展開して行います。
(25)留意点・予備知識	1. 実習目標が達成できるように、受持ち患者に関する自己学習をして、主体的・積極的態で臨んで下さい。 2. 患者の情報が流出しないよう、プライバシーの保護と機密保持に留意して下さい。 3. 詳細は『精神看護学実習要項』を参照して下さい。
(26)オフィスアワー	事前にメール等で連絡があれば、時間の調整が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	則包和也 norikane@hirosaki-u.ac.jp 多喜代健吾 takidai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師の実務経験を踏まえて、効果的な実習ができるように工夫をしています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	54
(2)区分番号	54
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	老年看護学実習Ⅱ (Gerontological Nursing, Practice Ⅱ)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	3
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○米内山千賀子, 大津美香, 北嶋 結, 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3~4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解する（見通す力，解決していく力，学び続ける力） ○生活の援助やコミュニケーションを通して，高齢者と家族を支持する方法を修得する（見通す力，解決していく力，学び続ける力） ○認知症の状態にある高齢者の生活行動を支えるための看護を理解する（見通す力，解決していく力，学び続ける力） ○高齢者に関わる地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの現状を理解し，高齢者看護の課題について学識を得る（見通す力，解決していく力，学び続ける力）
(15)授業の概要	老年看護学で学んだ知識・技術を基に，自宅や施設において療養する高齢者のQOLの向上を目指した援助および地域包括ケアシステムを学ぶ。
(16)授業の内容 予定	ガイダンスは一斉に実施する。3グループに分かれて，介護老人保健施設/介護老人福祉施設および病院（一般病棟，回復期病棟，地域包括ケア病床等）にて実習する。 概略日程は以下の通りです。 ・4月15日(月) 学内一斉ガイダンス（担当者：全員） ・4月16日(火) 施設ガイダンス・見学（病院、介護施設）（担当者：全員） ・4月23日(火) より順次実習する。（担当者：全員） 介護老人施設では施設サービス・通所サービスなどについて実習する。 病院では原則として75歳以上の高齢者を受け持ち，看護過程を展開して実習する。中間学内実習日に，看護計画立案のため担当教員と面接する。 ・各グループの最終日は、各施設での体験と学びを発表しあい，共有し，「振り返り」とする。
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	・老年看護学概論，老年看護方法論，老年看護学演習，老年看護学実習Ⅰ，看護過程論演習等で学習した内容を復習して臨んで下さい。 ・地域における施設実習を通して高齢者ケアを理解するため，既習の疾患とその看護，社会福祉学（2年次前期必修），保健医療福祉行政論（2年次後期選択した人のみ），地域保健学（1年次後期），在宅看護学での学びを活かして主体的に臨んでください。

(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	「看護学専攻臨地実習要項」（2年次購入）、「老年看護学実習Ⅱ要項」（4月に販売予定）
(21)参考文献	適宜，紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常評価（参加態度等）：20% ・ 期末評価（知識20%，看護過程30%，看護技術30%）：80% 実習指導担当教員が「老年看護学実習Ⅱ要項」掲載の評価観点に基づき，上記について最終的に評価します。 看護過程については展開プロセスを含めて評価します。 実習記録には，自己学習した資料も綴じて提出してください。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	実習（学内実習を含む）
(25)留意点・予備知識	実習記録用紙は弘大moodleの「2019 老年看護学実習Ⅱ」から電子ファイルをダウンロードして用いてください。
(26)オフィスアワー	事前に連絡してから訪ねるようにしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	米内山 cyonai@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ、臨地実習を指導するなど老年看護の理解が深まるよう工夫している。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	55
(2)区分番号	55
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	公衆衛生看護学実習 I (Public Health Nursing, Practice I)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	3
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○北宮千秋, 山田基矢, 多喜代健吾, 山本美由紀
(11)地域志向 科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル3~4
(13)対応する C P / D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○地域に顕在・潜在する健康問題を科学的に評価する(見通す力, 解決する力) ○組織的に解決するための実践的方法と技術を習得する(解決する力, 学び続ける力) ○公衆衛生看護の対象の多面的背景および健康問題を理解する(見通す力) ○保健師活動の展開方法と技術を習得する(解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概 要	○公衆衛生看護活動の実際を理解するとともに, 活動の展開に必要な基礎的知識, 技術ならびに態度を習得する ○保健所実習4日間, 市町村実習8日間, 各施設の保健事業に参加するとともに, 家庭訪問指導および地域看護診断を実践的に取り組み, 保健師から具体的な指導を受ける
(16)授業の内 容予定	4月12日 公衆衛生看護学実習オリエンテーション 6月 公衆衛生看護学実習オリエンテーション 保健所実習 4日 間 7月 市町村役場や市町村保健センター等での実習 8日間 7月25日 グループ発表 グループディスカッション(学内) 各施設での実習計画は5月中旬以降に各施設の実習指導者が学生の希望を取り入れ計画する予定 *担当教員は全てのプログラムに参加する。
(17)準備学習 (予習・復 習)等の内容	※実習期間前に実習施設の実習指導者と実習内容について十分に指導, 助言を受けてから実習に望むこと 地域保健学, 保健統計学, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学方法論, 公衆衛生看護学演習, 疫学等より学んだ内容について, あらかじめ十分復習の上参加すること また、公衆衛生看護学実習前には、健康教育指導案、模造紙案が完成して臨地に赴くこと。

	<p>市町村の健康課題をグループ内で十分に検討し、各自治体の実状に沿った事業の提案ができるように地域看護診断作成することになる。必要な1次資料および2次資料を実習中に得ることが可能かを事前に教員および実習指導者と相談の上、計画的に進めること。</p> <p>実習終了後は、個人では実習記録の整理、課題レポートの作成、グループ作成する資料は、グループリーダーが取りまとめ、期日までに提出すること。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教 科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル 公衆衛生看護学実習要項 授業で使用した教科書および資料 公衆衛生看護学関連の書籍等を参照すること
(21)参考文献	適宜、図書館等で借用すること
(22)成績評価 方法及び採点 基準	公衆衛生看護学実習要項を参照すること
(23)授業形式	実習
(24)授業形 態・授業方法	保健所での実習 青森県内の保健所において実習を行う 実習では保健所職員の実習指導者が直接的に学生の指導を行 い、教員は巡回により指導する 市町村での実習 青森県内の市町村役場または保健センターにおいて実習を行 う 実習では市町村職員が直接的に学生の指導を行い、教員は巡 回により指導する
(25)留意点・ 予備知識	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィス アワー	月曜日12時～13時
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	北宮 Email: chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた指導を実施している

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	56
(2)区分番号	56
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	在宅看護学実習 (Home Health Nursing, Practice)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○木立るり子, 大津美香, 北嶋 結, 山田基矢
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○在宅看護の対象者および実践の場による特徴について理解する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○在宅看護の方法について修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○在宅療養のケアシステムおよび関連職種間連携について学識を得る(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	青森県内における居宅介護支援事業所, および訪問看護ステーションを実習の拠点として, 在宅療養者に対する看護実践を学ぶ。
(16)授業の内容予定	1日目 全員合同で4/17(水) オリエンテーション(学内)(担当者: 全員) 2日目 3Gに分かれて18(木), 22(月) 学内実習(担当者: 全員) 3日目 居宅介護支援事業所における見学実習 4日目 訪問看護ステーションにおける実習 5日目 訪問看護ステーションにおける実習 6日目 学内実習 7日目 訪問看護ステーションにおける実習 8日目 訪問看護ステーションにおける実習, 反省会 9日目 学内まとめ発表会 8/2(金) 12:40~15:50(担当者: 全員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	在宅看護学実習要項をよく読んで臨んでください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-

(19)実務経験のある 教員による授業科目に ついて	実務教員
(20)教材・教科書	(概論で使用したテキスト) 在宅看護論 南江堂
(21)参考文献	概論, 方法論, 演習にて紹介しています。
(22)成績評価方法及 び採点基準	平常評価: 実習指導者による実習内容の評価20% 期末評価: 実習目標達成度(実習レポート) 80% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業 方法	臨地実習
(25)留意点・予備知 識	実習前の課題があります。1-2月頃にメール等で連絡をします。 実習の概要については、在宅看護学実習要項(4月に購入)を参照して ください。 各自が実習する場所、時期を間違わないように、実習場所と日程の確 認、交通手段(所要時間を含む)の準備をしておいてください。 臨地実習では身だしなみ、接遇に気をつけてください。 安全安楽なケアを心掛けてください。
(26)オフィスアワー	学内メールにて日程調整の上であれば随時可能です。
(27)Eメールアドレス ・HPアドレス	木立るり子: kidachi@hirosaki-u.ac.jp 大津美香: hotsu@hirosaki-u.ac.jp 北嶋結: yuui3@hirosaki-u.ac.jp 山田基矢: yama3010@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	青森県内における居宅介護支援事業所、および訪問看護ステーション を実習の拠点として、在宅療養者に対する看護実践を学ぶ。→地域志 向科目に該当 実習では実務経験者より直接の実習指導を受けます。→実務経験のある 教員による授業科目に該当 看護師としての実務経験を有する教員が担当します。→実務経験のある 教員による授業科目に該当

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	57
(2)区分番号	57
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産学実習 (Midwifery Practice)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	8
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	○三崎直子, 早狩瑤子, 鎌田璃沙
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○対象とその経過を理解し、助産診断ができる(見通す力, 解決していく力)</p> <p>○助産診断に基づき、助産実践を展開できる(解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○多様化する社会や対象のニーズを捉え、対象の価値観を尊重することができる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○法的責務に基づいた助産活動と助産師の役割について理解することができる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	<p>○妊娠期にある女性とその家族に対する助産実践を展開できる</p> <p>○分娩期にある母子とその家族に対する助産実践を展開できる</p> <p>○出生直後の新生児に対する助産実践を展開できる</p> <p>○産褥期にある母への助産実践を展開できる</p> <p>○育児期にある母子とその家族に対する助産実践を展開できる</p> <p>○母性準備期, 母性継承期にある女性に対する助産実践を考えることができる</p> <p>○産科施設における助産業務管理について説明できる</p> <p>○助産所における助産師の役割について考えることができる</p>
(16)授業の内容予定	<p>○実習(前半) (6月) (三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>(1) 妊娠期の健康診査と保健指導</p> <p>(2) 育児期の親役割・乳幼児の発達と健康教育</p> <p>(3) 母性準備期への健康教育</p> <p>(4) 分娩期の診断と助産実践</p> <p>(5) 出生直後および新生児期の診断と保健指導</p> <p>(6) 産褥期の診断と保健指導</p> <p>○実習(後半) (8~10月) (三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>(1) 分娩期の診断と助産実践</p> <p>(2) 妊娠期の健康診査と保健指導</p> <p>(3) 産褥期の診断と保健指導</p> <p>(4) 出生直後および新生児期の診断と保健指導</p> <p>(5) 育児期の診断と保健指導</p> <p>(6) 助産業務管理</p> <p>(7) 助産所実習</p> <p>実習開始の前にガイダンスを行います。ガイダンスの日程については、学生と相談して決めます。</p>
	<p>これまでの助産学の科目について十分復習をしてください。 詳しくは、ガイダンスで説明します。</p>

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	これまでの助産学の科目で使用した教科書，配布プリント，紹介した参考書等です。
(21)参考文献	必要に応じて，実習内で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	実習経験症例数，実践評価，助産計画，実習参加度等多方面から評価します。 最終評価について，学生と教員で話し合っ て決定します。 詳細については，ガイダンスで説明します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	助産学実習要項を参照ください。
(25)留意点・予備知識	長期間および長時間の実習のため，体調を整えて実習に臨んでください。
(26)オフィスアワー	随時受け付けます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp 早狩瑤子 yokoy@hirosski-u.ac.jp 鎌田璃沙 kamata@hirosski-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	58
(2)区分番号	58
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育実習 (Teaching Practice)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	3
(8)学期	前期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○會津桂子, 藤田あけみ
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○教科の指導技術, 生徒指導の指導技術, 学級運営の技術等の専門的技術を修得する(見通す力) ○教育理論の実践を通して, 教育理論の再構成を図る(解決する力) ○教職についての自覚と使命感を体得する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	高等学校看護科において看護教育の理念、目標、教育内容及び教育の方法などの基礎的理論を実際に即して学び、教育職員として必要な資質も学びます。
(16)授業の内容予定	1. 教育実習合同オリエンテーション: 4月9日(火) ・医学部保健学科・人文学部・理工学部・農学生命科学合同 2. 事前指導: 4月11日(木)・12日(金) ・教育実習(高等学校看護科)における目的・目標および内容・方法 ・教育実習勤務要領 ・看護科における教育活動の実際 3. 事前出校: 実習校の指定日に出校し、実習打ち合わせ 4. 教育実習: 5月13日~6月14日のうち2週間 5. 事後指導: 7月31日(水)・8月1日(木) ・教育実習での学びについて、資料を作成し発表・討論 ・発表会には、教職担当教員および3年次学生も参加 ・詳細は別紙でお知らせします
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	看護科教育法Ⅰ・Ⅱの他、教育関連科目について復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	事前・事後指導および教育実習について総合的に評価します。 事前・事後指導（50％）の演習参加状況、教育実習（50％）の教科指導、学級経営、特別活動、勤務態度等を総合的に評価します。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	【 講義・演習・実習】 事前・事後指導は、講義及び演習形式とします。
(25)留意点・予備知識	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、Eメールで事前に予約を取ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	會津： aizu@hirosaki-u.ac.jp 藤田： a_fujita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	59
(2)区分番号	59
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	地域保健学 (community health)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1・2時限
(10)担当教員(所属)	○山本美由紀, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域保健の包括的概念と理念に関する基礎的な知識を理解できる ○様々な健康課題に対して理解と解決するための視点を修得する
(15)授業の概要	・健康と環境、疫学について学ぶ。 ・主要な地域保健問題とその対策について学ぶ。 ・国際保健について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 10月7日(月) : 健康の概念と公衆衛生(担当:宮崎) 第2回 10月21日(月):人口静態統計と人口動態統計(担当:宮崎) 第3回 10月29日(火):生命表・健康指標・疾病統計(担当:宮崎) 第4回 11月6日(水) : 疫学(担当:宮崎) 第5回 11月11日(月) : 国民栄養・食品衛生(担当:宮崎) 第6回 11月18日(月) : 環境保健(担当:宮崎) 第7回 11月25日(月) : 振り返りと試験1(担当:宮崎) 第8回 12月2日(月) : 衛生行政と地域保健(山本) 第9回 12月9日(月) : 母子保健(山本) 第10回 12月16日(月) : 成人保健(山本) 第11回 12月23日(月) : 高齢者保健(山本) 第12回 1月6日(月) : 精神保健・障害者保健(山本) 第13回 1月15日(水) : 感染症(山本) 第14回 1月20日(月) : 社会保障と社会福祉(山本) 第15回 1月27日(月) : 国際保健(山本) 第16回 2月3日(月) : 振り返りと試験2(山本)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 : 各授業の教科書の予定範囲を一読した上で授業に臨むこと。 復習 : 授業で配布した資料、教科書の各授業内容について再度精読し、学んだ内容を確認すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	社会学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	松木秀明, 他『よくわかる 専門基礎講座 公衆衛生』金原出版
(21)参考文献	厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2019-2020 柳川洋, 他：公衆衛生マニュアル2019
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>平常評価(小テスト等)：10%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻については、厳しく対応する。30分以上の遅刻は欠席として取り扱う。 ・また30分以内の遅刻は2回で1回の欠席として取り扱う。 ・授業の理解を確認するための小テストの実施やレポートを出す場合がある。 <p>中間評価(試験1)・期末評価(試験2)：90%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験は、前半(第1回～第6回)2回以上の欠席、後半(第8回～第15回)3回以上の欠席で単位認定の対象にならないことに留意すること。 ・試験1と試験2については、それぞれ60点以上で合格とする(試験1と試験2の平均点が成績評価となる)。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・1回毎に異なる授業内容であるため、欠席の場合は留意すること。 ・日頃から社会情勢に関心を持ってください。
(26)オフィスアワー	随時実施する。事前にE-mailで連絡をください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>前半担当：宮崎 航 miya@hirosaki-u.ac.jp 内線5955 研究室D-2-17</p> <p>後半担当：山本 美由紀 miyukiya@hirosaki-u.ac.jp 内線5943 研究室A-2-3</p>
(28)その他	後半(第8回～第15回)は、保健師としての実務経験を踏まえた講義内容となっている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	60
(2)区分番号	60
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	微生物学 (Microbiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所 属)	藤岡美幸
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○微生物学の学問的な範囲による分類と種類を理解し、それぞれの相違点や特徴を理解する(見通す力) ○各微生物における生態や検査方法を理解し、感染症3大要素(感染源、感染経路、宿主)の関係を把握することで、早期発見早期治療に繋げる学識を得る(解決する力)
(15)授業の概要	微生物学の概要をパワーポイントで示しながら、実習と連動して微生物検査の重要な点が確実に理解できるように、時間毎に課題を与えてモチベーションを高める
(16)授業の内容予 定	第1回：ヒトと感染症 第2回：感染症の種類 第3回：免疫と防御機構 第4回：免疫異常 第5回：予防接種 第6回：細菌の生活現象 第7回：細菌感染症の治療と予防 第8回：グラム陰性菌 第9回：スピロヘータ・マイコプラズマ・リケッチア 第10回：ウイルス感染症(1) 第11回：ウイルス感染症(2) 第12回：真菌感染症 第13回：寄生虫感染症 第14回：総括 第15回：まとめ・復習 第16回：試験
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	授業前に教科書の該当部位を読了し、次回講義までに前回分と次回該当部位をまとめて読了するとともに、内容をノートに整理すること
(18)学問分野1(主 学問分野)	感染・免疫学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	病原体・感染・免疫 改訂2版 藤本秀士他 南山堂
(21)参考文献	吉田眞一、柳雄介：「戸田新細菌学」、南山堂
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は「授業への参加度20%」と「筆記試験70%」、「提出物10%」を合わせて100点満点で評価し、60点以上を合格とする 60点未満の場合は不合格となる 合格には3分の2以上の出席が必要であるため、5回欠席した場合は上記評価の結果にかかわらず不合格とする 不合格の場合は再履修となる 再試験の予定はない
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	PGプロジェクターによる映写と質疑応答を多用する
(25)留意点・予備知識	教科書を事前に読了すること
(26)オフィスアワー	随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(E-mailアドレス) mfujioka@hirosaki-u.ac.jp (質問に関する連絡先等) D-5-3研究室 (ホームページアドレス) http://www.mt.hirosaki-u.ac.jp/
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	61
(2)区分番号	61
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体形態・機能学演習(Seminar of Human Body Anatomy and Physiology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○樋口 毅, 長内智宏, 高橋 徹
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○人体の形態と機能や疾病の病理を理解する
(15)授業の概要	数人のグループに分かれ、臓器の機能や疾病の病理について分担し系統的に調べまとめる。まとめたものはプレゼンし、レポートとして提出する。
(16)授業の内容予定	<p>1回目はこの演習の進め方についてのオリエンテーションを行う。 2-16回を3分割して3名の教員が各々担当する。</p> <p>共通する基本方針は、1学年前期で学習した前期で学習した人体形態学、人体機能学の知識をもとに、さらに人体や疾患のしくみを理解できるようになることである。特に医学的、臨床的な観点から、からだの様々なしくみや異常を理解することを心掛けてグループ学習を行う。</p> <p>1回目 10月7日 オリエンテーションなど 2-6回目 10月21日から11月18日まで (樋口担当) 生殖器、血液、免疫内分泌系、またはホメオスタシス 領域でテーマを選び、一つのプレゼン、一つのレポートにするための役割分担を決め、そのための検索や他のメンバーとの情報の摺り合わせを行う。教員は学生が決めたテーマについての説明や現代社会における問題点などを明示しつつ、プレゼンやレポート作成のアシストを行う。進行状況にも寄るが、担当の4回目もしくは5回目に発表会を行い、各グループの発表について全体で議論する。</p> <p>7-11回目 11月25日から12月23日まで (高橋担当)</p>

	<p>循環器、肝・胆・膵系、神経系領域でテーマを選び、以下は前のコースと同じ。 12-16回目 1月6日から2月3日まで（長内担当） 呼吸器、消化器、腎・泌尿器系 領域でテーマを選び、以下は前のコースと同じ。 内容などに変更のある場合はその都度説明がある。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	人体形態学、人体機能学の復習が望ましい。
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	内科学一般関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特になし。
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価30%、プレゼン評価30%、レポート評価40%の寄与率で総合評価する予定である。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	スライドを使うこともあるが、教員との質疑応答と自己学習を通じてプレゼンやレポート作成を共同作業として行うのが主体である。
(25)留意点・予備知識	特になし
(26)オフィスアワー	随時メールで受け付ける。

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<u>higuchi@hirosaki-u.ac.jp</u> <u>ttaka@hirosaki-u.ac.jp</u> <u>osanait@hirosaki-u.ac.jp</u>
(28)その他	医師としての実務経験を踏まえた授業内容にしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	62
(2)区分番号	62
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	看護倫理学（1年）（Nursing Ethics）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日7・8時限
(10)担当教員（所属）	○工藤せい子，川崎くみ子，佐藤真由美
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○看護倫理の基本となるケアリングとは何かが理解できる（見通す力） ○看護倫理の歴史的背景，倫理原則，倫理綱領等の概要が理解できる（学び続ける力） ○患者の権利と意思決定支援のための基本的な知識が理解できる（学び続ける力） ○医療・看護における守秘義務と個人情報の保護について理解できる（学び続ける力） ○倫理的問題へのアプローチと意思決定のためのモデルが理解できる（解決する力）
(15)授業の概要	看護職者として、医療・看護における倫理的問題へのアプローチに必要な基礎的な考え方や態度を培う科目です 看護倫理の基礎的知識、専門職と倫理、ケアリング、倫理的意思決定のためのモデルなどについて、具体的な事例を提示しながら概説します
(16)授業の内容予定	第1回10/ 7 歴史的背景(倫理とは、価値とは、倫理と法律を含む)(工藤) 第2回10/21 倫理原則、倫理綱領(佐藤) 第3回10/29 情報とプライバシー、守秘義務、意思決定支援(佐藤) 第4回11/ 6 医療倫理の基本となるケアリング(工藤) 第5回11/11 専門職と倫理の関わり(川崎) 第6回11/18 医療・看護における倫理的問題へのアプローチ(急性期患者・周手術期患者の倫理的問題)(川崎) 第7回11/25 医療・看護における倫理的問題へのアプローチ(慢性期患者・家族の倫理的問題)(境、工藤) 第8回12/ 2 試験とまとめ(工藤)
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	医療場面をメインにした映画・ドラマなどを、医療者・看護学生としての視点で見てほしいと思います
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
	思想関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	言語学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中に資料を配布します
(21)参考文献	2回目にリストを配布します
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価: 授業参加態度20%により評価します 期末評価: 筆記試験・レポート 80%により評価します 総合して60%以上に達しなければ不合格となります
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主となりますが、臨床現場での実例を挙げながら、臨場感のある講義を目指しています 第7回11/25は、ゲストスピーカーとして附属病院看護部看護師長境美穂子氏を迎えて「身体拘束について」お話ししていただきます
(25)留意点・予備知識	医療場面をメインにした映画・ドラマなどを、医療者・看護学生としての視点で見てほしいと思います
(26)オフィスアワー	随時メールで予約をお願いします
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	工藤せい子: seikoku@hirosaki-u.ac.jp 川崎くみ子: kawayu@hirosaki-u.ac.jp 佐藤真由美: sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師として実務経験を踏まえ、臨床事例を提示しながら理解が深まるような工夫をしています

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	63
(2)区分番号	63
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	成人看護学概論（1年）（Introduction to Adult Nursing）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日9・10時限
(10)担当教員 （所属）	○野戸結花，川崎くみ子
(11)地域志向 科目	-
(12)難易度 （レベル）	レベル1
(13)対応する CP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業とし ての具体的到 達目標	○成人の特徴を理解する（見通す力） ○成人をとりまく健康課題を理解する（見通す力） ○成人の健康レベルと看護援助を理解する（見通す力） ○成人看護学に用いられる基本的な概念及び理論を理解する（見通す力） ○成人看護における倫理的課題を理解する（見通す力）
(15)授業の概 要	成人看護学は，社会で重要な役割を担っている成人期にある人とその家族の最適健康の維持・増進を具現化できるよう，専門的知識、技術、態度を培うことを目的にしている。成人看護学概論では，成人看護学の基盤となる知識として，成人期の特徴や健康課題，健康レベルと看護援助，成人看護学に用いられる主要概念や理論について学習する。
(16)授業の内 容予定	第1回 成人看護学の概念 第2回 ライフサイクルと成人期の特性（野戸） 第3回 成人の生活と健康課題（野戸） 第4回 成人の健康レベルと看護援助：急性期、慢性期（野戸） 第5回 成人の健康レベルと看護活動：リハビリテーション期，ターミナル期（野戸） 第6回 成人の健康レベルと看護活動：主要概念と理論（野戸） 第7回 成人看護活動における倫理的課題（川崎） 第8回 学習状況の確認（試験を含む）と振り返り（野戸）
(17)準備学習 （予習・復 習）等の内容	〔予習〕 各回の授業予定に応じて，関連内容をテキストで自己学習すること。 〔復習〕 授業終了時に学習内容の復習のための課題を提示する。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験 のある教員に よる授業科目 について	実務教員
(20)教材・教 科書	大西和子・岡部聡子編集 成人看護学概論 ヌーヴェルヒロカワ
(21)参考文献	授業中に適宜提示する。
(22)成績評価 方法及び採点 基準	平常評価（レポート、授業への参加態度）：30% 期末評価（期末試験）：70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形 態・授業方法	テキスト及び配布資料による講義を行います。
(25)留意点・ 予備知識	特になし
(26)オフィス アワー	オフィスアワーは随時であるが、事前に必ずサイボウズメールで予約を取って下さい。
(27)Eメール アドレス・HP アドレス	noto@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験から学修内容に関連する事例等の紹介を行う。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	64
(2)区分番号	64
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	成人看護方法論Ⅰ（１年）（Methods in Adult NursingⅠ）
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員（所 属）	○富澤登志子，長内智宏，川崎くみ子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベ ル）	レベル2～3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○主な疾患の病態生理・検査・治療について理解できる（見通す力，学 び続ける力） ○慢性期・急性期にある患者の特徴を理解できる（見通す力，学び続け る力） ○慢性期・急性期看護の特徴を理解できる（見通す力，学び続ける力） ○慢性期・急性期看護について事例をもとに看護ケアを考えることができ る（見通す力，解決する力，学び続ける力）
(15)授業の概要	主な疾患と治療法概論、慢性期・急性期看護の基本的な考え方などについ て概説します
(16)授業の内容予 定	第1回（12/2）：疾病の原因と治療法概論（担当 長内智 宏） 第2回（12/9）：内分泌疾患の検査法，病態と治療（担当 長内智 宏） 第3回（12/16）：代謝性疾患の検査法，病態と治療（担当 長内智 宏） 第4回（12/23）：慢性疾患で用いる理論（担当 富澤登志 子） 第5回（1/6）：メタボリックシンドローム（担当 富澤登志 子） 第6回（1/20）：糖尿病患者のケア（担当 富澤登志子） 第7回（1/27）：急性期看護で用いる概念，他（担当 川崎くみ 子） 第8回（2/3）：まとめと定期試験（担当 富澤，長内，川崎）
(17)準備学習（予 習・復習）等の内容	○多くの内容を網羅するため，講義は要点を中心とした構成になります。 テキストや資料，参考文献などに必ず目を通して，各自の理解を深めていき ましょう。 【各疾患のケアに関する講義について】 ○弘大oodle https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php から ログインして，事前学習の課題を確認してください。

	<p>○復習は、前回の講義部分について聴衆応答システム（クリッカー）を用いてクイズ形式で確認をします。</p> <p>○講義の後、https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.php にて課題を提示しておきますので、各自指示に従って行ってください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野2(副学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木久美, 野澤明子, 森一恵編：成人看護学・慢性期看護（改定第2版）南江堂 2015年 2. 野崎真奈美他：成人看護技術：南江堂 3000円 3. 講義時に資料を配付します
(21)参考文献	<p>講義内容に関連した文献などを適宜紹介します</p> <p>病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 vol.3 Medic Media</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>○3分の2以上の出席者に対して定期試験を行い、60点以上の場合単位を認めます。</p> <p>事前、事後学習としてMoodleで小テストを受講してもらいます。受講していない方は減点されます。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<p>聴衆応答システム（クリッカー）を用いた双方向授業</p> <p>授業の内容に関する問い合わせ先：担当教員</p> <p>eラーニングに関する問い合わせ先：富澤 tmtott@hirosaki-u.ac.jp</p>
(25)留意点・予備知識	<p>本科目は成人看護学実習を受講するための必修科目です。</p> <p>期末試験は1回限りで再試験はありません。</p>
(26)オフィスアワー	メールで訪問日時を確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>富澤登志子 tmtott@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>長内智宏 osanait@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>川崎くみ子 kawayu@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	臨床経験のある医師及び看護教員から実際の事例などを含めた実践的な教育になるように組み立てている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	65
(2)区分番号	65
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	老年看護方法論 (Methods of Gerontological Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	○大津美香, 米内山千賀子, 北嶋 結
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/D/P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○高齢者の特徴とそれらを踏まえたアセスメント(生活機能面に基づく)を理解する(見通す力) ○高齢者の主な疾患・症状の特徴と看護を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	老い(老化)とは何かを身体的, 心理的, 社会的側面から考察し, 高齢者の家庭や社会における役割および健康のレベルに応じた援助方法を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回(10/7)(月): 「高齢者の健康障害の臨床的特徴(第5章)」, 「主な健康障害と看護: 脱水症・熱中症(5章)」(大津) 第2回(10/21)(月): 「身体機能・構造の加齢変化と生活への影響: 外皮系, 呼吸器系, 血液・免疫系, 内分泌・代謝系, 性・生殖器系(第4章)」 「主な健康障害と看護: 掻痒症, 感染症(第5章)」(大津) 第3回(10/29)(火): 「身体機能・構造の加齢変化と生活への影響: 腎・泌尿器系(第4章)」 「主な健康障害と看護: 排尿障害, 排便障害(第5章)」(米内山) 第4回(11/6)(水): 「高齢者と災害看護」(米内山) 第5回(11/11)(月): 「身体機能・構造の加齢変化と生活への影響: 消化器系(第4章)」 「主な健康障害と看護: 摂食・嚥下障害, 低栄養(第5章)」(北嶋) 第6回(11/18)(月): 「身体機能・構造の加齢変化と生活への影響: 運動器系(第4章)」 「主な健康障害と看護: 転倒, 骨粗鬆症・骨折, パーキンソン病・パーキンソン症候群(第5章)」(北嶋) 第7回(11/25)(月): 「身体機能・構造の加齢変化と生活への影響: 循環器系(第4章)」 「主な健康障害と看護: 睡眠-覚醒リズムの障害, うつ病, せん妄, 心不全(第5章)」(大津) 第8回(12/2)(月): 授業の総括(50分)と期末試験(40分)(担当者全員) * 各回では、ミニレポートまたは小テストを行う予定です。 * 内容は一部変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	『最新老年看護学 第3版(2019年版)』の予定範囲を事前に読んでおくこと。また, 前回のテキスト, 資料等を読み直しておくこと。 第1回: p. 136-158 第2回: p. 98-101, 106-109, 120-125, 168-171, 212-216

	第3回： p.117-119, 171-181 第4回：資料配布（予定） 第5回： p.113-116, 158-167 第6回： p.102-105, 186-196, 208-212 第7回： p.110-112, 181-186, 196-208 第8回：第1-7回の全ての内容
(18)学問分野1(主 学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	-
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	水谷信子：『最新老年看護学 第3版(2019年版)』，日本看護協会出版会
(21)参考文献	その都度紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（小テスト，ミニレポート等）：30% 期末評価（期末試験60%，レポート10%）：70% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	講義形式
(25)留意点・予備 知識	既習の看護技術の関連箇所について，主体的に復習してください。
(26)オフィスアワ ー	事前に連絡してから訪室して下さい。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	大津 h_otsu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	研究成果と看護師としての実務経験を踏まえた講義内容としています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	66
(2)区分番号	66
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	在宅看護方法論 (Methods of Home Care Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	○木立るり子, 大津美香, 北嶋 結 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての 具体的到達目標	○在宅看護を展開する上でアセスメントの特徴を理解する(見通す力) ○在宅看護に特徴的な方法を具体的に修得する(見通す力)
(15)授業の概要	これまで専門基礎分野, 専門分野Ⅰ(基礎看護学), 専門分野Ⅱ(小児, 母性, 成人, 老年, 精神)等の科目で学んだ知識を学生自身が用い, 在宅看護学の特徴を理解して, 統合させる。 地域における在宅療養者と地域包括ケアシステムの現状について触れる。
(16)授業の内容予定	第1・2回 12/ 9 (月) 1・2・3・4 専門職者によるパネルディスカッション(非常勤講師)(木立、大津、北嶋) 第3回 12/16 (月) 第7章ヘルスアセスメントと看護技術1, 2-在宅医療支援: 服薬管理, 在宅輸液療法, 経管栄養, 低栄養予防(大津) 第4回 12/23 (月) 第7章ヘルスアセスメントと看護技術1-在宅医療支援: 腹膜透析, 膀胱留置カテーテル管理, 疼痛管理(北嶋) 第5回 1/ 6 (月) 第8章ヘルスアセスメントと看護技術2-在宅療養支援: 清潔ケア, フットケア, 移動(北嶋) 第6回 1/15 (水) 第8章ヘルスアセスメントと看護技術2-在宅療養支援: 肺炎予防, 感染予防, 口腔ケアと嚥下訓練, 排泄ケア(北嶋) 第7回 1/20 (月) 第7章ヘルスアセスメントと看護技術1, 2-在宅医療支援: 在宅酸素療法, 在宅人工呼吸療法, 呼吸リハビリテーション, 心不全予防(大津) 第8回 1/27 (月) 授業の総括(50分)と期末試験(40分)(大津、北嶋) ※各回では, ミニレポートまたは小テストを行う予定です。 ※内容が一部変更になることがあります。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	制度やシステムのことが多くなります。予定範囲の教科書を読んで臨んでください。社会的にも地域医療・在宅ケアの重要性が増しています。厚労省の政策や多様なメディアの情報にも関心を持って学んでください。 第1回, 第2回: p. 73-97, 130-134 第3回: p. 218-224, 234-240, 258-266, 355-362 第4回: p. 250-257, 267-272, 277-283 第5回: p. 311-330

	第6回：p. 331-346, 292-310 第7回：p. 225-233, 241-249, 273-276, 347-354 第8回：第1-7回の全ての内容
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による授業 科目について	実務教員
(20)教材・教科書	概論で使用したテキスト 在宅看護論 南江堂
(21)参考文献	随時講義の中で紹介します。
(22)成績評価方法 及び採点基準	平常評価（小テスト+ ミニレポート20%、パネルディスカッションのレポート10%）：30% 期末評価（期末試験60%、レポート10%）：70%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授 業方法	主として講義です。統合分野の科目であるため、既存知識の確認と併用して行います。 地域ケアの現状を理解するためのパネルディスカッションを行います（第1・2回）。
(25)留意点・予備 知識	本科目の単位取得は、4年次在宅看護学実習を履修するための要件となっています。 2年次前期の在宅看護学概論で学んだ在宅看護の背景と考え方を基盤とし、3年次前期の在宅看護学演習、4年次前期の在宅看護学実習にむけて具体的な方法の基礎を学ぶ科目です。
(26)オフィスア ワー	学内メールにて日程調整の上であれば随時可能です。
(27)Eメールアド レス・HPアドレ ス	木立るり子: kidachi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	弘前において地域ケアを実践している専門職をゲストスピーカーに招き、パネルディスカッションを行います。 →実務経験のある教員による授業科目にも該当、地域志向科目にも該当 授業担当者はすべて看護師として実務経験を有します。→実務経験のある教員による授業科目に該当

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	67
(2)区分番号	67
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	看護過程論演習 (Nursing Process (theories and methods))
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日5・6時限
(10)担当教員(所属)	○佐藤真由美, 會津桂子, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○看護過程の概念, 概要, 意義を理解する(見通す力) ○看護過程各段階の意味, 具体的展開方法を理解する(解決していく力) ○看護過程を使って事例の情報収集, 情報分析, 看護診断, 看護計画を立案できるようにする(解決していく力)
(15)授業の概要	看護過程の概念, 概要, 各段階の具体的な展開について学ぶ。 本授業は, 看護実践にとって必要不可欠な対象の健康状態の判断, 看護問題の特定, 看護介入の必要性・方法の判断, 看護計画の立て方, 看護実践および看護経過の記録, 看護実践の評価に関する内容を含んでいる。 看護職者が対象の健康保持・増進・回復・疾病予防, 安寧のために専門職者として介入するには, 習得し活用できなければならない知識であり技法である。本授業では, 講義と並行して演習を行ない, 理論を学習しながら事例を使って展開の仕方を学ぶ。学生一人一人が, 看護過程を使って看護計画を立てられるようになることをめざす。
(16)授業の内容予定	以下に示す内容毎に講義と演習を行なう。 ◇10月7日～11月25日 講義を主として, 事例Aを用いた演習を行う。 1.10月7日(月) 講義(佐藤真由美) 1. 看護における看護過程の位置づけ 2. 看護過程の概要 3. クリティカルシンキング 4. 看護過程と看護理論の関係 5. 看護過程の各段階 1) アセスメント (1) 情報収集と分析 □主観的情報と客観的情報、 □情報の分析看護過程の概念、概要、意義

	<p>2. 10月21日（月） 講義（佐藤真由美） (2)情報間の関連付け <input type="checkbox"/>全体像 <input type="checkbox"/>優先順位の決定</p> <p>3. 10月29日（火） 講義（佐藤真由美） (2)情報間の関連付け <input type="checkbox"/>看護上の問題の抽出</p> <p>4. 11月 6日（水） 講義（佐藤真由美） 2) 看護診断</p> <p>5. 11月11日（月） 講義（佐藤真由美） 3) 看護計画の立案</p> <p>6. 11月18日（月） 講義（佐藤真由美） 4) 看護の実施、結果の記録</p> <p>7. 11月25日（月） 講義（佐藤真由美） 5) 評価</p> <p>◇12月2日～1月27日 事例Bを用いた演習（グループワーク） 進捗状況を見てこの間 1～2回は講義を入れる。</p> <p>8. 12月2日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ① 情報収集と分析: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>9. 12月9日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ② 全体像と問題の明確化: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>10. 12月16日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ③ 問題の優先順位: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>11. 12月23日（月） 講義・演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子）アセスメントの復習と確認</p> <p>12. 1月6日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ④看護計画の立案: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>13. 1月15日（水） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ⑤実施と評価: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>14. 1月20日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ⑥アセスメントと計画: 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>15. 1月27日（月） 演習（佐藤真由美， 會津桂子， 土屋涼子） ⑦アセスメントと全体像、看護計画の立案 事例Bを用いたグループワーク</p> <p>16. 2月3日（月） 筆記試験</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>事前に予習資料を配布する。予習資料は、基本的には各授業内容のテキストの該当部分とリンクさせ作成します。テキストを精読して、授業に臨んでください。復習 講義資料を確認し、講義内容と演習を関連づけて理解を深めてください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	任和子. 改訂版 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイドーヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによるー. 照林社, 2017. リンダJ. カルペニート. 看護診断ハンドブック. 第8版. 医学書院, 2016. 江川隆子編. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断. ヌーヴェルヒロカワ, 2016.
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価はレポート（60%）、期末試験（40%）により行います。一定のレベル（60%）に達しなければ不合格とします。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	講義・演習 講義・演習 看護過程の各段階について、一斉授業（講義）に引き続きその内容に関する演習を2～3回ずつ行います。授業後半は、事例を用いてグループで演習を行います。 授業終了時に、演習でグループワークを通して学習した内容を整理し、レポートとして個人で提出してください。
(25)留意点・予備知識	主体的な学習態度で授業に参加してください。 授業時には、当該科目のテキストの他に、解剖学、生理学、栄養学その他既習の関連科目のテキストを持参してください。 講義時間内に、その日の知識の確認のため小テストを行うことがあります。
(26)オフィスアワー	オフィスアワー：随時。但し、事前にメール等で予約してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	佐藤真由美： sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	1単位取得のためには、予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。 看護師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示するなど理解が深まるように工夫している。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	68
(2)区分番号	68
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	家族看護学（2年）（Family Nursing）
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 7・8時限
(10)担当教員（所属）	木立るり子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○看護学における家族へのかかわりの重要性を理解する（見通す力） ○家族アセスメントのための理論を理解する（見通す力） ○家族援助計画について学識を得る（解決する力）
(15)授業の概要	看護の対象者は、多くは家族の一員であり、家族はその成員の健康上の問題によりシステマ的、力動的に変動します。そのため、家族へのかかわりが必要となる場面では、家族社会学などの理論に基づいたアセスメントが有用であり、このようなニーズから家族看護学が発展してきました。現代の家族形態や家族機能の多様化にともない、家族看護の考え方はますます重要となっています。本科目では、家族看護学の理論的背景を知り、その知識を基にアセスメントできるようになることをねらいとしています。
(16)授業の内容予定	(1) 12/2（月）ガイダンス 家族看護学とは (2) 12/9（月）日本人と家族、家族看護学における対象理解（家族発達理論） (3) 12/16（月）家族看護学における対象理解（家族システム理論、家族ストレス対処理論） (4) 12/23（月）カルガリー家族アセスメント・介入モデル、イルネス・ビリーフモデル (5) 1/6（月）～（6）1/15（月）グループワーク家族看護過程：アセスメントモデルを中心に (7) 1/20（月）プレゼンテーション・討議
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	家族社会学の理論やストレス対処、発達など心理学的理論が関係してきます。事前に予習して臨むと理解しやすいと思います。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	川崎あけみ、原礼子：家族看護学 南江堂
(21)参考文献	小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論第2版、医歯薬出版株式会社 森山美智子訳（ロレイン M ライト）、癒しのための家族看護モデル（病と苦悩、スピリチュアリティ）、医学書院 小林奈美訳（ロレイン M ライト）：病の苦悩を和らげる家族システム看護 イルネスビリーフモデル、日本看護協会出版会 このほか講義の中で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	期末評価：期末レポート 100%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義と討議形式で行います。 対人面接場面はできるだけVTRを用います。 受講人数により授業形態を変える場合があります。
(25)留意点・予備知識	2年次開講ですが、4年生の選択は可能です。 グループワークには積極的に参加してください。
(26)オフィスアワー	随時、学内メールで連絡の上で対応が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	kidachi@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	69
(2)区分番号	69
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	小児看護方法論 (Methods of Pediatric Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	○高橋 徹, 扇野綾子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具 体的到達目標	○代表的な小児疾患の病態を理解する(見通す力) ○健康障害のある子どもがおかれている状況と看護の特徴を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	小児の成長・発達及び小児期各期の特徴を理解し代表的な小児疾患の病態を学ぶ。 健康障害のある子どもがおかれている状況を知り、それぞれへの看護の方法を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回~4回：高橋徹, 第5回~8回：扇野綾子 第1回：10/7 循環器疾患 第2回：10/21 内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー疾患 第3回：10/29 消化器疾患、腎疾患 第4回：11/5 血液・造血器疾患、小児悪性腫瘍、造血幹細胞移植 第5回：11/11 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 第6回：11/18 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 第7回：11/25 疾病の経過と看護 第8回：12/2 ふりかえり、試験
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	予習として、事前に教科書に目を通しておくこと。 講義の際に、予習・復習のためのプリントが配布される場合があります。
(18)学問分野1(主学問 分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問 分野)	内科学一般関連
(18)学問分野3(副学問 分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教 員による授業科目につ いて	実務教員

(20)教材・教科書	教科書：系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学総論（小児看護学①），医学書院。 系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論（小児看護学②），医学書院。 ナースとコメディカルのための小児科学。日本小児医事出版社。
(21)参考文献	講義中に指示します
(22)成績評価方法及び採点基準	期末試験の結果（高橋担当・扇野担当で90%）及び毎授業前の質問に対する解答・態度・記録・授業への参加度（10%）により総合して評価する。 講義の3分の2以上の出席で期末試験受験資格が得られる。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体。必要に応じてプリント，視聴覚機器使用。
(25)留意点・予備知識	出席確認を兼ねた質問を毎講義前にするので復習が大切。 遅刻・欠席をしない。 小児看護学実習及び統合実習Ⅰの履修要件科目である。
(26)オフィスアワー	高橋 徹：授業中に指示する 扇野綾子：月・金曜日午後12:00～14:00 他随時（要連絡）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	高橋 徹： ttaka@hirosaki-u.ac.jp 扇野綾子： ohgino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医師・看護師としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	70
(2)区分番号	70
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産管理論 (Midwifery Management)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	月曜日 1～4時限
(10)担当教員(所属)	三崎直子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○助産管理に必要な基本的理論および助産師業務に関わる関係法規と責務、倫理を修得する(見通す力、解決していく力) ○助産実践および助産教育に関わる課題に応じた助産管理ができる(解決していく力、学び続ける力)
(15)授業の概要	○助産業務に関わる関係法規と責務、倫理とともに助産ケアのマネジメントについて学ぶ ○助産学実習での学びをもとに周産期管理、助産所管理、他職種連携、専門職としての課題について学びを深める
(16)授業の内容予定	第1・2回 助産管理の基本的理論、意義および助産業務と法的義務(三崎) 第3・4回 助産業務と周産期管理(三崎) 第5・6回 助産所の管理運営(三崎) 第7・8回 地域および国際助産活動と他職種連携(三崎) 第9・10回 助産実践と評価、課題および助産師教育と課題(三崎) 第11・12回 演習(三崎) 第13回 演習(三崎) 第14・15回 助産師のキャリアアップ(吉川)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	これまでに学んできた助産学の知識や臨地実習での学びを整理し理解しておいてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員

(20)教材・教科書	助産学講座10 助産管理 2018 医学書院 我が国の母子保健 平成31年 母子保健事業団
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 20% 期末評価(期末レポート): 80% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的には講義ですが、一部演習を含みます。 助産学実習での学びを紹介してもらったり 学習に活用してもらいます。
(25)留意点・予備知識	これまでに学んできた助産学の知識や臨地実習での学び、看護管理の知識を踏まえて授業に望んでください。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時~17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hiroskai-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を挙げながら理解を深めていく講義内容です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	71
(2)区分番号	71
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	看護技術学演習Ⅱ (Basic Nursing Methods (lecture and campus lab) Ⅱ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	3
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 3～8時限
(10)担当教員 (所属)	○佐藤真由美, 工藤せい子, 藤田あけみ, 小倉能理子, 會津桂子, 工藤ひろみ, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	<p>○健康, 病むこと, 健康回復, 安寧と関連づけながら各項目の援助の必要性と方法を理解する (見通す力)</p> <p>○科学的根拠に基づいて技術を理解し, 正確に実施できるように学識を得る (解決していく力)</p> <p>○基本的な技術を, 対象の状態に応じて応用的に適用する方法を考え, 実践できるようになる (学び続ける力)</p> <p>○基礎的知識・技術の習得を基に, 看護技術・技術学をより創造的に発展できる能力の向上を目指す (学び続ける力)</p> <p>○対象を主体的・全体的存在者として理解し, 相手を尊重する態度, 倫理観を養う (学び続ける力)</p> <p>○対象の健康保持・回復・安寧への援助に関わるすべての人とそのチームワークについて理解する (学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	看護実践のための基礎・基本となる技術 (看護基本技術) 中の感染予防の技術, 観察・情報収集の技術, 創傷管理技術, 呼吸・循環を整える技術, 排泄の援助技術, 与薬の技術等について, その理論と方法を学ぶとともに看護専門職者としての態度を養う。
(16)授業の内容 予定	<p>◇10月1日から10月15日 包帯法, 安全・感染予防, 滅菌操作 (工藤せい子・藤田あけみ・佐藤真由美・會津桂子・土屋涼子)</p> <p>1. 10月1日 講義 (工藤せい子) : 感染予防, 滅菌と消毒, 無菌操作 学内実習 : 手洗い, 滅菌手袋の着脱, 無菌操作 (滅菌パックのあけ方, 手洗い前後の培地スタンプ)</p> <p>2. 10月8日 学内実習 : 創部の消毒, 無菌操作 (滅菌物の取り扱いと創部の消毒, ガウンテクニック)</p> <p>3. 10月15日 講義 : 包帯法 (工藤せい子) 筆記試験① 学内実習 : 包帯法とまとめ</p>

	<p>◇11月5日～11月26日 観察・情報収集，記録・報告，診察・検査時の看護 身体各部の測定，フィジカルアセスメント，バイタルサインの測定 (藤田あけみ・佐藤真由美・小倉能理子・會津桂子・土屋涼子)</p> <p>4. 11月5日 講義 (佐藤真由美) : 観察・情報収集，記録・報告，診察・検査時の看護</p> <p>5. 11月12日 講義 (藤田あけみ) : フィジカルアセスメント 講義 (會津桂子) : バイタルサインの測定 学内実習 : バイタルサインの測定</p> <p>6. 11月19日 学内実習 : フィジカルアセスメント</p> <p>7. 11月26日 筆記試験② 学内実習 : フィジカルアセスメント (バイタルサインを含む)</p> <p>◇12月3日～12月17日 排泄の援助，浣腸・導尿 (佐藤真由美・藤田あけみ・會津桂子・土屋涼子)</p> <p>8. 12月3日 講義 (佐藤真由美) : 排泄の援助 (浣腸) 学内実習 : グリセリン浣腸</p> <p>9. 12月10日 講義 (佐藤真由美) : 排泄の援助 (導尿) 学内実習 : 一時的導尿</p> <p>10. 12月17日 筆記試験③ 排泄の援助のまとめ (持続的導尿，高圧浣腸などDVD学習を含む)</p> <p>講義 (佐藤真由美) : 穿刺と看護 講義 (小倉能理子) : 与薬と看護</p> <p>11. 12月24日 実技試験</p> <p>◇12月17日～1月28日 穿刺・洗浄，与薬と看護，注射と看護，採血・注射に関するその他の技術 (佐藤真由美・藤田あけみ・小倉能理子・會津桂子・土屋涼子)</p> <p>12. 1月7日 講義 (藤田あけみ) : 吸入・吸引 学内実習 : 吸入・吸引</p> <p>13. 1月14日 講義 (佐藤真由美) : 注射と看護①注射実施に伴う法的責任，注射実施に伴う危険性，注射法のための準備，安全な注射の実施 (皮内・皮下・筋肉) 学内実習 : 注射器の取り扱い (薬剤の吸い上げ方法)</p> <p>14. 1月21日 講義 (佐藤真由美) : 注射と看護②静脈内注射と採血実施について，安全な注射 (静脈内) ・採血の実施方法 学内実習 : 皮下注射，筋肉注射</p> <p>15. 1月28日 筆記試験④ 学内実習 : 静脈内注射，採血 (採血モデル使用)</p> <p>◇2月4日 危篤・死亡時の看護 (佐藤真由美・會津桂子・土屋涼子)</p> <p>16. 2月4日 講義 : 危篤・死亡時の看護 (佐藤真由美) 演習 : 危篤・終末時の家族への援助についてグループワークを通して考える (佐藤真由美・會津桂子・土屋涼子)</p>
<p>(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容</p>	<p>事前に予習資料を配布し，予習を前提にして講義・演習を進めていきます。 復習 それぞれの看護基本技術については，実習室を土日以外は開放しています。 試験内容や時期に関わらず，各自練習を重ねて正確な知識・技術の習得に結びつけてください。</p>
<p>(18)学問分野 1(主学問分野)</p>	<p>看護学関連</p>
<p>(18)学問分野 2(副学問分野)</p>	<p>-</p>

(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	坪井良子, 松田たみ子編. 考える基礎看護技術I . II. 第3版. ヌーヴェルヒロカワ, 2016. 三上れつ, 小松万喜子編. 基礎看護技術. 第3版. ヌーヴェルヒロカワ, 2016. 松尾ミヨ子他編. ナーシング・グラフィカ基礎看護学2 ヘルスアセスメント. メディカ出版, 2018.
(21)参考文献	随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	1. 成績評価は, 筆記試験と実技試験により評価します. 2. 筆記試験, 実技試験はそれぞれ50点満点とし, 各30点以上を合格とします. いずれか一方でも30点未満であれば科目の成績評価は不合格となります. 3. 筆記試験は, 上記のとおり4回, 各授業担当者の授業終了時に行います. 各担当者の授業時数の2/3以上出席しなければ, 当該担当者の試験を受験できません. 4. 実技試験は, 学内実習総時数の2/3以上出席しなければ受験できません. 5. 学内実習は, 上記16の各授業担当者全てが関わります.
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	1. 各自目標を持って, 主体的に授業に参加してください. 2. 学内実習時は実習に適した服装で参加してください(詳細はガイダンスで説明します). 3. 学内実習を円滑に展開するために, 準備・後始末の役割を決め, 当番は教員と連絡を取って授業以外の時間に準備・後始末を行います. 4. レポート等の提出期限は遵守してください. また, レポートをまとめる際は, 基礎ゼミナールで学習した「レポートのまとめ方」を活用してください.
(25)留意点・予備知識	1単位取得のためには, 予習・復習を含めて45時間の学習が必要です.
(26)オフィスアワー	佐藤真由美: 随時. 但し, 事前にメール等で予約してください.
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	佐藤真由美: sato-ma@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師としての実務経験を踏まえ, 臨床事例を提示するなど理解が深まるように工夫している.

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	72
(2)区分番号	72
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	がん看護論 (Cancer Nursing)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○井瀧千恵子, 野戸結花, 北島麻衣子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○がんの特性について理解する(見通す力) ○がん患者を全人的に理解する(見通す力) ○がん患者ががんとともに生きるための援助方法を理解し、グループで発言する(解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	がんは多彩な側面をもっている疾病であり、病状経過も多様である。これに対する看護活動は、がん予防や早期発見のための保健教育、医療機関でのケア、在宅ケア、ホスピスケアなど場と内容の拡がりをもっている。本教科では、がんに罹患した人々が生涯にわたって「がんとともに生きること」を総合的に支えるための、がんの基本的知識と援助方法について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 (10/15) (野戸) 第2回 (11/5) (野戸) 第3回 (11/12) (野戸) 第4回 (11/19) (野戸) 第5回 (11/26) (北島) 第6回 (12/3) (北島) 第7回 (12/10) (井瀧) 第8回 (12/17) (井瀧) 【内容】 1)がんの特性とがん医療 2)がん患者の症状コントロール 3)がん患者のトータルペインと緩和ケア(ターミナルケア) 4)がん治療の伴う看護活動の実際-放射線療法, 化学療法, リハビリテーション 5)がん患者・治療をめぐる倫理的課題 6)がんとともに生きる患者と家族のサポート 7)グループワーク(課題レポートに関連)

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	疾病論、成人看護方法論I～V、成人看護学実習等の経験を踏まえ、授業に臨んで下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況（20%）レポート（80%）を総合して評価します。全体で60%以上で合格となります。第8回目のグループワークが課題レポート提出に関わりますので必ず出席してください。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義 グループワーク
(25)留意点・予備知識	疾病論、成人看護方法論I～V、成人看護学実習、他
(26)オフィスアワー	必ずメールで時間の約束をしてください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	itakichi@hirosaki-u.ac.jp（井瀧）
(28)その他	看護師として医療現場で勤務した経験を踏まえた講義内容としています。1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	73
(2)区分番号	73
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	親役割援助論 (Nursing Intervention for Parental Role)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	三崎直子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフサイクルの側面からみたメンタルヘルスをもとに、親として育っていく過程を理解する(見通す力、解決していく力) ○性役割の形成と親役割の関係について理解する(見通す力、解決していく力) ○専門職としての関わりについて意見を述べるができる(解決していく力) ○ライフサイクルの側面からみたメンタルヘルスをもとに、親として育っていく過程を理解する(見通す力、解決していく力) ○性役割の形成と親役割の関係について理解する(見通す力、解決していく力) ○女性とその家族が安心して妊娠、出産をし子育てができるように専門職としての援助能力の向上を図る(解決していく力)
(15)授業の概要	ライフサイクルの側面からみたメンタルヘルスをもとに、親になること、母性・父性意識と親役割、性役割の形成と葛藤などから親役割取得過程を理解し、女性とその家族が安心して妊娠、出産を通して地域での子育てができるように専門職としての関わりについて学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 女性のライフサイクルとメンタルヘルス(三崎) 第2回 性役割の形成と親役割取得(三崎) 第3回 親役割・家族と社会との関わり、母性と父性(三崎) 第4～6回 演習(三崎) 第7～8回 発達心理学と親子関係(高梨) ○第4～6回の演習については、授業で説明します。
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	特にありません。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 30% 期末評価(課題発表): 70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	適宜資料配布し、スライドを使用します。
(25)留意点・予備知識	特にありません。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時~17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	公衆衛生看護学選択、助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験をふまえた講義内容です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	74
(2)区分番号	74
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	救急・蘇生医学 (Emergency and Resuscitative Medicine)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	火曜日9・10時限
(10)担当教員(所属)	高橋 徹
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○医療従事者として必要な救急蘇生の概念を理解する(見通す力) ○救急医療の対象となる代表的疾患の病態, 診断, 治療・対処, 予防を理解する(見通す力) ○病院内外で一次救命処置を実践できる(解決する力)
(15)授業の概要	○救急・蘇生医学の概念、システム、現状について学びます。 ○代表的な救急疾患について病態、診断、治療・対処、予防に必要な知識・技術を学びます。 ○病院内外で一次救命処置を積極的に行うことができること(救命処置に躊躇しない)を目指します。
(16)授業の内容予定	第1回: 救急・蘇生医学総論(救急医療の概念、歴史、現状、トリアージ、脳死と臓器移植) 第2回: 救命処置(一次救命処置) 第3回: 救命処置(二次救命処置) 第4回: 救命処置(小児・新生児) 第5回: 内因性救急疾患 第6回: 外因性救急疾患 第7回: 実習(一次救命処置) 第8回: 学習状況の確認(試験含む)と振り返り
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	次回授業の資料をあらかじめ配付するので、参考に予習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	授業中、適宜プリントが配付されます。
	授業中、適宜紹介します。

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価（授業への参加度、授業中の質問への回答など）：20% 期末評価（期末試験）：80% 合計で60%以上を合格とする。なお、講義を3回以上欠席した場合は期末試験受験の資格は得られない。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	プリント・スライド・ビデオ等を使用した講義が中心ですが、患者シミュレーター、医療器具を使用した実技訓練もあります。
(25)留意点・予備知識	疑問点は積極的に質問してください。
(26)オフィスアワー	授業中に指示します。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ttaka@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	医師としての実務経験を踏まえた授業内容にしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	75
(2)区分番号	75
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護学概論Ⅰ (Introduction to Public Health Nursing I)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	北宮千秋
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○公衆衛生看護・地域看護の理念および概念を理解する(見通す力) ○社会の抱える健康問題と公衆衛生看護の役割を理解する(見通す力) ○公衆衛生看護の個人・家族・集団・組織といった対象や地域や学校などの場の特性を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	看護の役割の多様性、活動の広がり等、視野を広げることが目的とし、将来の職業選択として保健師を考える機会とする *青森県と弘前市のデータを基に、公衆衛生看護学の基礎的理解を目指す
(16)授業の内容予定	第1回 10月 2日：オリエンテーション 保健師の仕事 第2回 10月 9日：公衆衛生看護・公衆衛生の理念・概念、目的 第3回 10月30日：生活環境の変化と健康問題 第4回 11月13日：公衆衛生看護活動の対象 1. 対象としての個人・家族 2. 対象としての集団・組織 第5回 11月27日：公衆衛生看護の対象と場 3. 発達段階による対応 第6回 12月 4日：公衆衛生看護の場 1. 行政機関 保健 2. 医療・在宅 3. 学校保健 4. 産業保健 第7回 12月11日：行動変容 第8回 12月25日：地区組織活動 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと 復習 配付された資料とテキストを参考に、学んだ内容の確認を行うこと
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメ ディカル
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	試験成績60点以上を合格とする 出席状況については3回以上休んだ場合, 単位認定の対象とならないことに留意すること
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体となる
(25)留意点・予備知識	本科目は公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択する学生の選抜科目となっている 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です
(26)オフィスアワー	月曜日12時~13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	76
(2)区分番号	76
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	保健統計学 (Statistics for Health Science)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	未定
(11)地域志向科目	
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力
(14)授業としての具体的な到達目標	○保健統計を行う上での基本的な統計の考え方と手法について学識を得る(見通す力) ○日本国内で利用される保健統計について理解する(見通す力) ○様々な統計データについて適切な統計手法を用い、解析する手法を修得する(解決する力)
(15)授業の概要	統計の基本的な考え方と手法を学び、保健統計の現場において生きる力を養う。
(16)授業の内容予定	第1回：統計の基礎 第2回：保健における統計 第3回：データの取り扱いかた 第4回：関連と指標 第5回：統計分析(1) 第6回：統計分析(2) 第7回：演習 第8回：人口静態統計 第9回：人口動態統計，生命表 第10回：基幹統計 第11回：その他の統計調査 第12回：情報処理の基礎 第13回：保健医療情報の収集と管理 第14回：保健医療情報に関する法令・指針・原則 第15回：演習 第16回：筆記試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	統計に関する理解に易しい書籍を用いて予習する。講義後，教科書ならびにスライド資料を用いて復習する。
(18)学問分野1(主学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	人間情報学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学（医学書院）
(21)参考文献	国民衛生の動向2019-2020（厚生労働統計協会）
(22)成績評価方法及び採点基準	成績評価は受講態度（15%）、試験（85%）により総合的に評価する。一定のレベル（60%）に達しなければ不合格、再履修となる。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	スライド（パワーポイント）を用いた授業。アクティブラーニングを行う。
(25)留意点・予備知識	統計に苦手意識のある場合は、講義前に統計に関する基礎的な書籍を一読する。
(26)オフィスアワー	随時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	miya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	わからない点はわからないままにせず、積極的に質問し解決しましょう。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	77
(2)区分番号	77
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	公衆衛生看護方法論Ⅰ (Methods of Public Health Nursing I)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○北宮千秋, 新谷ますみ(教育学部), 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○個人・家族・集団・組織を対象とし, 公衆衛生看護活動の主にライフサイクルへの展開方法を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	ライフサイクルに応じた保健活動について 特に母子保健, 成人保健, 高齢者保健, 学校保健活動について
(16)授業の内容予定	第1回 10月2日: オリエンテーション選択制について 家族の発達段階と保健サービス(北宮) 第2回 10月9日: 母子保健活動(北宮) 第3回 10月16日: 学校保健活動の目的と組織体制(新谷) 第4回 10月23日: 学校保健活動の方法と展開(新谷) 第5回 10月30日: 成人保健活動(北宮) 第6回 11月13日: 市町村保健師の活動(田中非常勤講師) 第7回 11月20日: 高齢者保健活動(北宮) 第8回 11月27日: 歯科保健活動(北宮) 試験 *青森県のライフサイクル別の健康課題やそれに対する公衆衛生看護活動についても理解を深める
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 各授業の教科書の該当部分を一読した上で授業に臨むこと 公衆衛生看護学概論Ⅰ, Ⅱ, 地域保健学の授業内容を理解した上での授業内容であるため, 復習した上で授業に臨むこと 復習: 授業で配布した資料, 教科書の各授業内容について再度精読し, 学んだ内容を確認すること 授業の理解を確認するための小テストの実施や課題を出す場合がある
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	○試験は100点のうち地域保健80点, 学校保健20点とし, 60点以上を合格とする ただし, 講義内で実施した小テストや課題についても成績に含まれる ○出席状況については, 3回以上休んだ場合, 単位認定の対象とならないことに留意すること 学校保健は, 2回の欠席により その範囲の受験資格を失う
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義を行う
(25)留意点・予備知識	本科目は, 公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格), 助産学(助産師国家試験受験資格)を選択する学生の必修科目となっている 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です 4年生の必修科目である統合実習IIを履修する学生は, 学校保健の2回とも出席することが必須となります 必ず2年生で出席すること
(26)オフィスアワー	月曜日12時~13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師、養護教諭としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	78
(2)区分番号	78
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護方法論Ⅱ (Methods of Public Health Nursing Ⅱ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	○北宮千秋, 酒井留美(非常勤講師), 他
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	○心身の健康問題および健康危機に対する公衆衛生看護活動の展開を理解する(見通す力, 解決する力) ○産業保健への理解を深めるとともに, 企業における看護職役割や機能を理解する(見通す力)
(15)授業の概要	○健康問題を抱えながら地域で生活している対象への支援方法を法的根拠や科学的根拠を基に学ぶ ○産業保健活動の基本を学ぶ *青森県の企業で行われている保健活動の実際を非常勤講師から講義を受けます また, 青森県の感染症対応, 難病政策について具体的に学びます
(16)授業の内容予定	第1回 12月 4日: 難病保健活動 (北宮) 第2回 12月11日: 障がい者(児)保健活動 (北宮) 第3回 12月18日: 精神保健福祉活動 (北宮) 第4回 12月25日: 感染症保健活動 法制度、サーベイランス (北宮) 第5回 1月 8日: 産業保健 法制度, 産業看護職の役割 (北宮) 第6回 1月22日: 産業保健 企業における産業保健活動の実際 (酒井非常勤講師) 第7回 1月29日: 感染症保健活動 結核 (北宮) 第8回 2月 5日: 災害保健活動, 試験 (北宮)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習 各授業内容の該当部分のテキストは, 必ず一度目をとおしてから, 授業に望むこと 復習 配付された資料とテキストを参考に, 学んだ内容の確認を行うこと
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	感染・免疫学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル ①厚生労働統計協会 ②国民衛生の動向 ③2019 ④奥村印刷株式会社
(21)参考文献	地域保健学で使用した教科書 疫学で使用した教科書 精神看護学で使用した教科書、他 適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	試験成績60点以上を合格とする 出席状況については3回以上休んだ場合、単位認定の対象とならないことに留意すること
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主となる
(25)留意点・予備知識	本科目は公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を選択する学生の選抜科目となっている 4年次科目「統合実習II」を履修する要件：産業保健の2コマの内1コマの授業に出席することとなっている 2年生でこの授業に出席すること
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	79
(2)区分番号	79
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	保健医療福祉行政論
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	水曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	山本美由紀
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○保健医療福祉行政の理念を学び、そのしくみと機能を理解する ○公衆衛生看護活動を行う上で不可欠な制度やサービスなどの基礎的な知識を理解する
(15)授業の概要	・健康な地域づくりを推進する行政のしくみと機能について学ぶ。 ・社会保障制度(社会保障制度の理念としくみ、医療提供体制、介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度)について学ぶ。 ・保健医療福祉の計画と評価について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 10月2日 : 保健医療福祉行政のめざすもの 第2回 10月9日 : 保健医療福祉制度の変遷 第3回 10月16日 : 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ 第4回 10月23日 : 社会保障制度1(社会保障制度の理念、医療提供体制) 第5回 10月30日 : 社会保障制度2(介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度) 第6回 11月13日 : 地域保健行政と保健師活動 第7回 11月20日 : 保健医療福祉の計画と評価 第8回 11月27日 : 振り返りと試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	予習: 各授業の教科書の予定範囲を一読した上で授業に臨むこと。 第1回: pp. 2-16 第2回: pp. 18-52 第3回: pp. 54-61, pp. 74-86 第4回: pp. 88-113 第5回: pp. 114-148 第6回: pp. 62-73, pp. 150-173 第7回: pp. 176-223 復習: 授業で配布した資料、教科書の各授業内容について再度精読し、学んだ内容を確認すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連

(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	藤内修二, 他.『保健医療福祉行政論 標準保健師講座 別巻1』 医学書院
(21)参考文献	厚生労働統計協会 : 国民衛生の動向 2019-2020 厚生労働統計協会 : 国民の福祉と介護の動向 2019-2020 新日本法規 : 衛生行政六法 柳川洋, 他 : 公衆衛生マニュアル2019
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業の理解を確認するための小テスト の実施やレポートを出す場合がある) : 10% 期末評価(試験) : 90%
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式
(25)留意点・予備知識	日頃から 社会情勢に関心を持ってください。 予習、復習をしてください。
(26)オフィスアワー	随時実施する。事前にE-mail で連絡をください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	山本美由紀 mi_yuki_ya@hirosaki-u.ac.jp 内線5943 研究室A-2-3
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容となっている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	80
(2)区分番号	80
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名〔英文名〕	人体病理学 (Pathology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	渡邊 純
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル1~2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的な到達目標	○ 病気の原因や成り立ちを理解する ○ 基本的な医学用語、病名などを理解する
(15)授業の概要	・人体病理学は、人体における病気の基本的概念を学ぶ学問です。 ・総論では、病理学の歴史、概要、病因、物質代謝障害、進行性病変、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍などについて病理学の基本的概念を中心に学ぶ。 ・各論では、各臓器の特徴的な病気の基本的概念を学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1回 1章. 人体病理学の歴史及び概要 第2回 2. 病因論、3. 先天性疾患、遺伝病 第3回 4. 細胞の基本病変、5. 物質代謝障害 第4回 6. 修復、再生 第5回 7. 循環障害 第6回 8. 炎症、感染症 第7回 9. 免疫と免疫異常 第8回 10. 腫瘍 第9回 11. 循環器系の疾患 第10回 12. 呼吸器系の疾患 第11回 13. 消化器系の疾患 第12回 15. 泌尿器系の疾患、16. 生殖器系の疾患 第13回 18. 内分泌系の疾患 第14回 17. 運動器・軟部組織系 第15回 19. 脳・神経系、の疾患 第16回 期末試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	正常を理解していないと病気は理解できないので、解剖学、組織学、生理学などを知識を復習して講義に臨むことが望まれる。
(18)学問分野1(主学問分野)	病理病態学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	中村仁志夫他著, 医療系学生のための病理学, 第4版, 講談社サイエンティフィク, 2010.
(21)参考文献	特になし。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 20% 期末評価(期末試験): 80% 上記を合算して最終的な成績評価を行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	教科書とパワーポイントを用いて行う。
(25)留意点・予備知識	病理学総論で学ぶ医学用語は、病気を学ぶ基礎となるので、正しく理解し、記憶すること。
(26)オフィスアワー	平日昼休み(11: 50-12: 40)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	watajun@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	81
(2)区分番号	81
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	薬理学 (Pharmacology)
(5)対象学年	1
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	柿崎育子 (学内非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するC/P/D/P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	<p>○代表的な疾患について、治療に用いられる医薬品を列挙できる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○代表的な治療薬について、効果を発揮する仕組みを説明し、その副作用を列挙できる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○代表的な医薬品副作用について、その兆候を理解し、対策を立てることができる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	<p>現代の医療はチーム医療である。特に、看護師は患者と一番向き合う職種である。また、看護師は患者と医師の橋渡しの役割を要求されることも少なくない。間違った薬の知識、科学的根拠に基づかない憶測の薬の知識で患者に接することは決して許されない。本講義を通じて、医薬品の有効性や危険性を認識し、最善の薬物治療を担うチーム医療の一員に求められる最低限の薬の知識を修得する。現代医療においては、疾病治療のために多くの医薬品が、様々な投与方法によって患者に投与されている。しかし、「薬は逆さに読むとリスク」と例えられるように、全ての医薬品は効果以外に副作用というリスクをもつ。従って、薬物治療を効果的かつ安全に</p>

	<p>行っていくには、治療に参画する医療スタッフ全員が薬に対する正しい知識をもつことが必要となる。本講義の目標は、適正な薬物治療に参画できるようになるための素地を身につけることである。</p>
(16)授業の内容予定	<p>1 (10/10). 薬理学入門：薬理学とは？、薬物の作用点、用量反応曲線 2 (10/16). (この日のみ9・10時限). 薬物動態学：吸収・分布・代謝・排泄、薬理遺伝学 3 (10/17). 抗感染症薬：抗菌薬、抗ウイルス薬、抗生物質 4 (10/24). 抗悪性腫瘍薬：細胞毒性抗がん薬、ホルモン剤、分子標的薬 5 (10/31). 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬 6 (11/ 7). 自律神経系作用薬1：アドレナリン作動性神経薬 7 (11/14). 自律神経系作用薬2：コリン作動性神経薬、局所麻酔薬 8 (11/21). 中枢神経系作用薬1：全身麻酔薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬 9 (11/28). 中枢神経系作用薬2：抗精神病薬、抗うつ薬、 Parkinson病治療薬 10(12/5). 心臓・血管系作用薬1：抗高血圧薬、利尿薬 11(12/12). 心臓・血管系作用薬2：狭心症治療薬、心不全治療薬、 12(12/19). 心臓・血管系作用薬3：抗不整脈薬、血液・造血器作用薬 13(1/9). 呼吸器・消化器系作用薬 14(1/23). 代謝性疾患治療薬・漢方薬 15(1/30). わが国で生じた薬害 16(2/ 6). 期末試験</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>毎回授業のはじめに、講義内容についての「小テスト」を配布し、10分程度の時間で各自に解答してもらう。これは、授業の予習を促すことその他、講義開始時点における知識量を客観的に測ることを目的としている。この小テストは宿題を兼ねており、授業終了後に各自持ち帰り、各種資料を参考に解答してもらう。これは早期に授業内容を復習することによって、記憶に定着させることを目的としている。小テストは次週に提出し、前週の講義出席の記録とする。なお、小テストは返却しない。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	薬学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	生体の構造と機能関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	<p>毎回授業のはじめに、講義内容についての「小テスト」を配布し、10分程度の時間で各自に解答してもらう。これは、授業の予習を促すことその他、講義開始時点における知識量を客観的に測ることを目的としている。この小テストは宿題を兼ねており、授業終了後に各自持ち帰り、各種資料を参考に解答してもらう。これは早期に授業内容を復習することによって、記憶に定着させることを目的としている。小テ</p>

	ストは次週に提出し、前週の講義出席の記録とする。なお、小テストは返却しない。
(21)参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』
(22)成績評価方法及び採点基準	試験は全講義終了後に筆記試験を実施し、60点を以って合格とする。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	パワーポイントによる講義 講義内容のパワーポイントのハンドアウトを配布する。
(25)留意点・予備知識	1年次後期に、それもたった15回しかない授業で薬理学を修得することは、困難である。薬理学を単なる薬の暗記としてではなく、その本質を理解し、本当の意味で修得するには、解剖学、生化学、微生物学、そして生理学的知識の修得は欠かせない。患者の治療に参画する医療チームの一員となるために、これらの科目を関連させて理解し、身につけていく姿勢を身につけて欲しい。
(26)オフィスアワー	事前にメールで予約してください。メールには学生であることを明記してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	連絡先：医学研究科 附属高度先進医学研究センター 糖鎖工学 kaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	臨床の現場で用いられる医薬品は極めて広範囲にわたるため、その全てについて効果・副作用を網羅的に講義することは不可能である。チーム医療の一員として患者の治療に参画するためには、医薬品に関心を持ち、その特徴について自ら調べ・学んでいく姿勢を身につけることが求められる。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	82
(2)区分番号	82
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	精神看護方法論 (Methods of Psychiatric Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	則包和也, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具 体的到達目標	○相手との関係性を意識して関わることについて理解を深める(見通す力) ○精神疾患の症状が及ぼす影響を理解し、治療的なコミュニケーションの方法や技術について具体的に修得する(見通す力, 解決する力) ○様々な精神疾患の患者に応じた看護のアプローチを理解する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	○自分の言動が相手に与える影響について検討し、心を支援するという視点を学ぶ ○誰もが精神疾患にかかる可能性があることを踏まえて、心のケアにおける共感と受容の重要性を理解する ○精神疾患患者への看護について、基本的理論から新しい知見も含めて学ぶ
(16)授業の内容予定	第1回 メンタルヘルスをおびやかす障害と看護1(不安障害)【則包担当】 第2回 メンタルヘルスをおびやかす障害と看護2(依存症と人格障害)【則包担当】 第3回 当事者講義【青森県内のNPO法人に依頼した講師と全教員担当】 第4回 気分障害と看護【則包担当】 第5回 統合失調症の看護【則包担当】 第6回 精神科における検査・治療と看護【未定教員担当】 第7回 薬物療法と看護【則包担当】 第8回 まとめと試験【全教員担当】 注) 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します
(17)準備学習(予習・ 復習)等の内容	○予習…各授業内容の当該部分に関連する内容について自己学習して臨んで下さい。 ○復習…教科書および配付された資料を参考にして、学んだ内容の確認を行って下さい。
(18)学問分野1(主学問 分野)	看護学関連
	心理学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	
(18)学問分野3(副学問分野)	人間情報学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	○ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 ○ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践
(21)参考文献	中井久夫・山口直彦著『看護のための精神医学 第2版』医学書院 (図書館本館・分館にて閲覧可能)
(22)成績評価方法及び採点基準	○3分の2以上の出席を評価の前提とします。なお、30分以上の遅刻は1回の欠席とみなします ○平常評価（ミニレポート、学習態度）20%と試験評価80%を総合して、成績評価を行います ○評価が60点に満たない場合は不合格とし、再履修とします
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義が主体ですが、随時小グループによる討議やグループワーク等を取り入れます。
(25)留意点・予備知識	特になし。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが、事前にメール等で連絡があれば、時間調整が可能です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	則包和也 norikane@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	精神科看護師としての実務経験を参考とした講義内容にしています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	83
(2)区分番号	83
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	疫学 (Epidemiology)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	北宮千秋
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○疫学の考え方を理解する(見通す力, 解決する力) ○疫学の基本的な用語を理解する(見通す力) ○疾病の原因, 疫学的な因果関係の考え方を理解する(見通す力) ○アウトブレイク時の疫学を理解する(見通す力, 解決する力) ○疾病登録について理解する(見通す力) ○主な疾患の疫学を理解する(見通す力) ○社会疫学, 政策疫学, ライフコース疫学を理解する(見通す力, 解決する力)
(15)授業の概要	疫学の基本的な考え方を理解することを通して, 地域政策に疫学をどのように活用していくかの概要を理解する
(16)授業の内容予定	第1回 11月28日 疫学の考え方 第2回 12月 5日 疫学用語の理解 第3回 12月12日 因果関係の考え方 第4回 12月19日 アウトブレイク時の疫学 第5回 1月 9日 疾病登録 第6回 1月23日 主な疾患の疫学 第7回 1月30日 社会疫学, 政策疫学 第8回 2月 6日 ライフコース疫学, 試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	地域保健学, 保健統計学ですでに疫学の基本的な事項を学習済みである 特に保健統計学では本科目と同時進行で疫学の重要事項を学ぶため, 両方の授業を関連づけて学習することが望ましい
(18)学問分野1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	看護学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
	①牧本清子 ②疫学・保統計学 ③2015 ④医学書院

(20)教材・教科書	
(21)参考文献	①大木秀一 ②基礎からわかる看護疫学入門 ③2017 ④医歯薬出版
(22)成績評価方法及び採点基準	試験の成績により評価する 各授業で小テストを行う場合もある
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	主として講義となる 授業中に問題を提示し、疫学を用いた分析等を行う
(25)留意点・予備知識	1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です 本科目は公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を選択する学生の選抜科目となっている 授業を履修するためには、公衆衛生看護方法論Ⅰ、Ⅱおよび保健統計学を履修していることが望ましい
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email: chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	84
(2)区分番号	84
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	成人看護方法論Ⅳ (Methods in Adult Nursing Ⅳ)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員 (所属)	○川崎くみ子, 長内智宏, 野戸結花, 井瀧千恵子, 富澤登志子, 三上佳澄, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2~3
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○運動器・脳神経疾患等の病態と治療を理解する (見通す力) ○リハビリテーションを必要とする患者と家族への看護を理解する (見通す力・学び続ける力) ○運動機能や脳神経の障害のある患者と家族への看護を理解する (見通す力・学び続ける力) ○放射線治療の基礎及び放射線治療を受ける患者への看護を理解する (見通す力・学び続ける力)
(15)授業の概要	主に、生活機能障害を持つ患者とその家族を理解し適切な看護過程を展開するために、必要となる疾病や看護の基礎的な内容、臨床の現状に関する内容を教授します。 また、放射線療法を受ける患者の看護過程展開に必要な放射線治療の基礎および看護について教授します。
(16)授業の内容 予定	第1回 神経疾患の検査法、病態と治療 (長内) 第2回 運動器疾患の病態と治療 (外傷、関節) (整形外科 原田) 第3回 運動器疾患の病態と治療 (脊椎、脊髄) (整形外科 田中) 第4回 脳神経疾患の病態と治療 (脳血管障害) (脳神経外科 奈良岡) 第5回 脳神経疾患の病態と治療 (神経系腫瘍) (脳神経外科 片山) 第6回 高次脳機能障害のある患者の看護 (富澤) 第7回 リハビリテーション看護 (リハビリテーションの概要とや対象者の理解) (野戸) 第8回 リハビリテーション看護 (生活機能障害を有する対象者の活動を促進する看護) 野戸) 第9回 運動機能障害のある患者の看護 (三上) 第10回 眼疾患の病態と治療 (眼科 工藤)

	<p>第11回 放射線治療の基礎・放射線医学 (放射線科学領域 齋藤)</p> <p>(放射線の基礎、画像診断概論、各種画像診断の特徴、医療被ばくと職業被ばく)</p> <p>第12回 放射線治療の基礎・放射線医学 (放射線科学領域 齋藤)</p> <p>(放射線治療の種類と特徴、放射線治療の三原則、他)</p> <p>第13回 放射線治療を受ける患者の看護 (井瀧)</p> <p>第14回 乳腺疾患の病態と治療(乳がん) (つがる総合病院 平尾)</p> <p>第15回 乳がんの治療を受ける患者の看護 (川崎)</p> <p>第16回 期末試験 (川崎)</p>
(17)準備学習 (予習・復習)等 の内容	<p>・人体形態学、人体機能学、人体病理学、微生物学、薬理学などの基礎的な学びを踏まえ、 当日の講義に関連のある項目は必ず復習して臨んでください。 ・テキストや資料、参考文献を活用していきましょう。 ・弘大Moodle https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.phpからログインし、事前学習の課題を確認してください ・復習は、前回の講義部分について聴衆応答システム(クリッカー)を用いてクイズ形式で確認をします。 また、講義の後、Moodle https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/login/index.phpにて課題を提示しておきますので、各自指示に従って行ってください。</p>
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	生体機能および感覚に関する外科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	内科学一般関連
(19)実務経験のある 教員による授業科目 について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜資料を配付します。
(21)参考文献	<p>以下のテキストや文献には、関連内容が多く掲載されていますので、活用しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学概論 ・慢性期看護 ・周手術期看護論 ・成人看護技術 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 Medic Media
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>・3分の2以上出席の者に対し、期末試験による評価を行います。60点以上が合格です。</p> <p>・不合格の場合は再履修となり、3年次後期の成人看護学実習は履修できません。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	オムニバスで主に講義を行います。
(25)留意点・予備知識	複数教員によるオムニバスであり、試験範囲も広がりますので、予習・復習はこまめに行いましょう。
(26)オフィスアワー	特に時間帯は指定しません。 事前にメールにて確認してください。

(27)Eメールアドレス・HPアドレス	川崎くみ子 kawayu@hirosaki-u.ac.jp 医学科および外部病院の教員については、川崎が窓口です。
(28)その他	疾患の病態や治療については、臨床でご活躍中の医師の皆さんが、医療の最前線の内容を中心に講義を行います。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	85
(2)区分番号	85
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	看護教育方法論 (Teaching Methods of Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8時限
(10)担当教員(所属)	○小倉能理子, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○社会的背景と看護職に期待される役割について理解できる(見通す力, 学び続ける力)</p> <p>○看護学教育における特性と教育方法の種類・形態について理解できる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○教育方法の実際について体験を通してその特性を理解できる(解決していく力, 学び続ける力)</p> <p>○海外の看護教育事情について理解できる(見通す力, 学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識を活用し, 社会的背景と看護教育内容との関連について確認する。 ・看護という学問の特性ならびに対象者の特性を踏まえながら各種の教育方法について学習する。 ・ロールプレイを通して看護職としての対応や対象者・家族の心理状態について学ぶ。 ・看護学教育に関するディベートを行い, その際の役割体験を通して教育方法の特性について学ぶ。 ・継続教育の範囲と実際, キャリア発達・キャリア支援の基礎について学ぶ。 ・スペシャリストの資格取得方法や臨床現場における活動を通して, 期待される役割について学習する。 ・国内のみならず国外の看護教育事情について学習し, 国際的視野から看護学教育についての理解を深める。
(16)授業の内容予定	<p>1回目(10/ 3): 看護学教育の目的・目標, 看護専門職と期待される役割, 看護学教育における特徴と教育方法の種類(小倉)</p> <p>2回目(10/10): 学習者の特性と教育方法(會津)</p> <p>3回目(10/17): 海外における看護教育事情(會津)</p> <p>4回目(10/24): 教育方法の実際1; ロールプレイ(対象者とのコミュニケーション)(小倉、會津)</p> <p>5回目(10/31): 教育方法の実際2; ロールプレイ(対象者とチーム医療)(小倉、會津)</p> <p>6回目(11/ 7): 看護職のキャリア発達とキャリア支援(小倉)</p> <p>7回目(11/14): 看護職のキャリアと教育方法1; 高度実践看護師, 看護師の特定行為等(小倉)</p> <p>8回目(11/21): 看護職のキャリアと教育方法2; 認定看護師の活動:(小倉, 学内非常勤講師*)</p> <p>9回目(11/28): ディベートに関するグループ学習と資料収集(會</p>

	<p>津, 小倉)</p> <p>10回目(12/ 5) : 看護継続教育の実際 (小倉, 学内非常勤講師*)</p> <p>11回目(12/12) : ディベートに関する運営打ち合わせと資料作成 (會津, 小倉)</p> <p>12回目(12/19) : 教育方法の実際3 ; 看護基礎教育に関するディベート Aグループ (會津, 小倉)</p> <p>13回目(1/ 9) : 教育方法の実際4 ; 看護教育方法に関するディベート Bグループ (會津, 小倉)</p> <p>14回目(1/23) : 看護学教育における教育評価の意義 (小倉)</p> <p>15回目(1/30) : 教育評価方法、解釈と活用 (小倉)</p> <p>定期試験(2/ 6)</p> <p>*学内非常勤講師 (医学部附属病院看護部)</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育学概論の授業内容を復習して下さい。 ・講義の最後に課題を提示し, 次回の講義に確認します。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	特に指定しません。
(21)参考文献	<p>杉森みどり、舟島なをみ：看護教育学第6版, 医学書院</p> <p>小山真理子：看護教育の原理と歴史, 医学書院</p> <p>小山真理子：看護教育のカリキュラム, 医学書院</p>
(22)成績評価方法及び採点基準	授業への参加状況 (20%), 定期試験 (40%), ディベート (20%), ロールプレイ (20%) 等を併せて総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義を主体としますが, 演習も含みます。
(25)留意点・予備知識	演習では積極的な参加を期待します。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが, 事前にメール等で予約してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>小倉 : ogu1224@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>會津 : aizu@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	<p>看護師としての実務経験を踏まえ, 臨床事例を提示するなど理解が深まるよう工夫しています。</p> <p>また, 臨床現場で活躍中の認定看護師, 教育担当副看護部長から実地的な講義をしていただきます。</p>

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	86
(2)区分番号	86
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	母性看護方法論 (Maternity Nursing)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日9・10時限
(10)担当教員(所 属)	○樋口 毅, 五十嵐世津子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○マタニティサイクル期の母体の変化と、胎生期の成長・発達、子宮外生活適応のための生理的变化について医学的な観点から理解する(見通す力) ○マタニティサイクル期の母子とその家族の看護について理解する(見通す力) ○母性・父性に特有な心理的・社会的特性について理解する(見通す力) ○新しい家族の形成過程について理解する(学び続ける力)
(15)授業の概要	女性のライフステージの中で、最もダイナミックな変化をもたらすマタニティサイクル期の母子とその家族のウェルネスに対する看護の基礎を学習する。
(16)授業の内容予 定	第1回 妊娠に関する生理と病理1(生殖器の発生・分化と機能)(樋口)10月3日 第2回 妊娠に関する生理と病理2(配偶子,受精,妊娠の成立)(樋口)10月10日 第3回 妊娠に関する生理と病理3(不妊症,避妊)(樋口)10月17日 第4回 妊娠中の胎児の変化(樋口)10月24日 第5回 妊娠中の母体の変化(樋口)10月31日 第6回 ハイリスク妊娠(切迫早産,HDP,GDMなど)(樋口)11月7日 第7回 ハイリスク妊娠(胎盤の異常など),異常分娩,産褥の異常(樋口)11月14日 第8回 妊娠に関する生理と看護1(五十嵐)11月21日 (妊娠に関連したことばの定義,妊娠期間,母体の変化) 第9回 妊娠に関する生理と看護2(五十嵐)11月28日 (胎児の発育とその生理) 第10回 妊娠に関する生理と看護3(五十嵐)12月5日 (女性が自覚する妊娠性変化,妊娠の経過,援助の方向性) 第11回 妊娠に関する生理と看護4(五十嵐)12月12日 (胎児の健康状態の把握,他) 第12回 妊娠に関する生理と看護5(五十嵐)12月19日 (妊婦の基本的日常生活に関するアセスメント:食事・嗜好品・

	<p>睡眠・衣服・活動，他)</p> <p>第13回 妊娠に関する生理と看護6 (妊娠期のメンタルヘルス，マイナートラブル，社会資源の活用、他) (五十嵐) 2020年1月9日</p> <p>第14回 分娩に関する生理と看護1 (五十嵐) 1月23日 (妊娠の届け出，母子健康手帳の活用，妊健康診査，保健指導，他)</p> <p>第15回 学習状況の確認 (試験を含む) と振り返り 1月30日 会場: 第63講義室</p> <p>第16回 分娩に関する生理と看護2 (五十嵐) 2月6日 (分娩に関連したことばの定義，他)</p> <p>註) 授業の進行状況等により，シラバスと実際の内容とが異なる場合には，その都度説明があります。</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	講義：講義のテーマに関連した内容について，教科書・参考書を参考にし毎回配布資料を予習して臨むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院
(21)参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎和子監修 前原澄子他：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性I・II 中央法規 2. 東野妙子他：母性看護学1. 母性看護学2 医歯薬出版株式会社 3. 横尾京子他編集：ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 MCメディカ出版 4. 横尾京子他編集：ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 MCメディカ出版 5. 氏家幸子監修 茅島江子他：母子看護技術I 母性看護技術 廣川書店 6. 病気がみえる 産科 第2版 Medic Media
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>○講義を3分の2以上出席した学生を評価の対象とします。</p> <p>○定期試験を行い，60点以上の場合に単位認定します。</p>
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義形式で行います。毎回授業の最後にその日の講義内容についての質問・感想を書いたリアクションペーパーを提出してもらいます。次回の講義に紹介・回答するという方法をとります。
(25)留意点・予備知識	講義資料を事前に配布していますので，講義前までに教科書と合わせて目を通しておいてください。
(26)オフィスアワー	随時，受け付けておりますが，事前にメールをください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	樋口： higuchi@hirosaki-u.ac.jp 五十嵐： s123@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他

医療職者としての実務経験を踏まえた講義内容としている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	87
(2)区分番号	87
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	クリティカル・ケア論 (Critical Care Nursing)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	○川崎くみ子, 三上佳澄, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○クリティカルケアの概念や看護の専門性について理解する(見通す力・学び続ける力) ○クリティカルな状態にある患者・家族の特徴と必要な看護援助について理解する(見通す力・学び続ける力) ○クリティカル看護における医療安全を知り, 安全な看護援助について考える(見通す力・学び続ける力) ○クリティカルケア看護の実際を, 事例に基づき考える(見通す力・解決する力・学び続ける力)
(15)授業の概要	生命が危機的状況にある患者とその家族を対象とするクリティカル・ケアの概念と看護の専門性について、必要とされる理論や臨床における看護実践を基に学習します。
(16)授業の内容予定	(川崎) 第1回(10/10) クリティカルケア看護の特徴: 対象、専門性等 第2回(10/17) クリティカルケア領域の理論: 危機理論、悲嘆理論等 第3回(10/24) クリティカルケア看護と倫理: 患者の権利と擁護、インフォームドコンセント (三上) 第4回(10/31) クリティカルケア領域の家族看護: 家族理論他 第5回(11/07) クリティカルケア看護領域における医療安全(医療事故等) 第6回(11/14) クリティカルケア看護領域における医療安全(感染等) (集中ケア認定看護師) 第7回(11/21) クリティカルケア看護の実際(講義) 第8回(11/28) クリティカルケア看護の実際(事例演習)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	講義内容に応じて、疾病論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習等これまでの学びを振り返って臨みましょう。
	看護学関連

(18)学問分野1(主学問分野)	
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	適宜 資料を配付します。
(21)参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・寺町優子他編（2007）：クリティカルケア看護－理論と臨床への応用－，日本看護協会出版会 ・黒田裕子他編（2013）：クリティカルケア看護－完全ガイド－，医歯薬出版株式会社 ・パトリシア・ベナーほか著・井上智子監訳（2005）：看護ケアの臨床知－行動しつつ考えること，医学書院 他、講義の中で適宜紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	・レポート（80％）演習等の参加状況（20％）により評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～7回は、講義中心です。 ・第8回は、集中ケア認定看護師と共に事例のアセスメントを中心とした演習を行います。
(25)留意点・予備知識	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後に学んできた知識や技術、培ってきた看護観などを振り返り、さらに深めていく機会となります。 ・疾病論、成人看護学関連の科目 など
(26)オフィスアワー	特に時間指定はしません。 事前にメールにて確認してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	川崎くみ子： kawayu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期領域（救急、集中治療等）で働く予定の皆さんにとっては、認定看護師の方から臨床最前線のお話を直接聴ける貴重な機会となります。 ・第7回 講義（集中ケア認定看護師）は、公開の予定です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	88
(2)区分番号	88
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	社会保障論 (Social Security)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 5・6時限
(10)担当教員(所属)	丸山龍太(学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○医療従事者に必要な日本の社会保障制度を説明できる(見通す力, 解決していく力) ○社会保障制度の各分野の連携について理解を深めることができる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	全ての国民がどのような「生活上の事故」に遭遇しても安心, 安全に暮らせることを目的として, 社会的対応策として整備されてきたのが社会保障である。国民からの租税による財源で, 年金保険, 雇用保険, 労災保険, 社会扶助, 医療保険, 介護保険等が形作られてきた。今日, 医療従事者にとって生活保護の医療扶助, 保健・医療制度や労災制度等はとくに身近な社会保障制度となっている。
(16)授業の内容予定	第1回(10/10) 社会保障制度の理念と種類 第2回(10/24) 年金保険について 第3回(10/31) 雇用保険, 労働者災害補償保険について 第4回(11/7) 社会扶助(公的扶助・社会手当・社会福祉)について 第5回(11/14) 医療保険制度について 第6回(11/21) 後期高齢者医療制度, 主な公費負担医療について 第7回(11/28) 介護保険制度について 第8回(12/5) まとめと試験
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	[予習] 予習箇所については適宜指示します。 [復習] 試験は学習範囲から網羅的に出題しますので, 毎回の講義で出題箇所を聴き漏らさないようにしてください。
	社会学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	法学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	阿部裕二編(2019)『社会保障第6版』弘文堂
(21)参考文献	必要に応じて掲示します。
(22)成績評価方法及び採点基準	小テスト(20%)、レポート(20%)、期末試験(60%)によって総合的に評価します。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	日本の社会保障制度の全般を網羅的に把握できるよう資料(プリント等)の使用によりわかりやすく解説します。
(25)留意点・予備知識	社会福祉に関心を持つため、新聞・テレビを見てください。
(26)オフィスアワー	(質問に関する連絡先) 弘前学院大学社会福祉学部 丸山研究室
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	公開しない。学務課を通じて連絡をとるようにしてください。
(28)その他	特になし

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	89
(2)区分番号	89
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	セクシュアリティ論 (Human Sexuality)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	木曜日 7・8 時限
(10)担当教員(所 属)	三崎直子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○ライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達, 性反応, 性行動についての理解を深め, 多様な場でのセクシュアリティの支援について学識を得る(見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	○リプロダクティブヘルス/ライツの視点をふまえて, セクシュアリティの概念, ライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達, セクシュアルアイデンティ, 性行動等について理解する ○性に関する問題と援助について学ぶ
(16)授業の内容予 定	第1回 セクシュアリティの概念 第2回 ライフサイクルとセクシュアリティの発達 第3回 セクシュアルアイデンティ, 性反応と性行動 第4回 性に関する問題と支援 第5~7回 演習 第8回 演習(課題発表), まとめ ○第5~8回の演習については, 授業で説明します。
(17)準備学習(予 習・復習)等の内容	リプロダクティブヘルス/ライツの基本概念について学習してきてください。
(18)学問分野1(主 学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副 学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副 学問分野)	-
(19)実務経験のあ る教員による授業科 目について	実務教員

(20)教材・教科書	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 20% 期末評価(課題発表): 80% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義ですが、演習を含みます。 演習はグループ演習も含み、課題については授業で説明します。
(25)留意点・予備知識	積極的な授業参加をのぞみます。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時～17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験をふまえた講義内容です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	90
(2)区分番号	90
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	カウンセリング論 (Counseling Techniques)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 5～8時限
(10)担当教員(所属)	松田侑子 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2～4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての具体的な到達目標	○カウンセラー・援助者の態度としてが身に着けることが求められる三条件（共感的理解・無条件の肯定的配慮・自己一致）を理解・説明できる（見通す力） ○カウンセリングに関する主要な理論と、その特徴について理解・説明できる（見通す力） ○カウンセリングに必要な基本技法を理解し、実践できる。（解決していく力）
(15)授業の概要	対人援助職者は、自己や他者を理解する力を身に着け、関係を作るために必要なコミュニケーションのスキルを研鑽することが大切です。この授業では、その基盤となる、援助者としての基本的な態度、カウンセリングに関する基本的な理論・考えについて理解を深め、実際の援助場面で用いる基本的な技法について、体験的に学ぶことを目指します。
(16)授業の内容予定	第1回：オリエンテーション、カウンセリングとは 第2回：来談者中心療法 第3回：カウンセラーの三条件 第4回：認知行動療法 第5回：ブリーフセラピー、小テスト

	第6回：カウンセリングの基本技法（質問・要約） 第7回：カウンセリングの基本技法（感情の反映） 第8回：ロールプレイ・振り返り
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	体験的な学習が主となりますので、適宜自身の体験を振り返り、教材や文献等と照らし合わせて復習を行ってください。
(18)学問分野1(主学問分野)	心理学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	テキストは使用しません。教材を配布します。
(21)参考文献	○玉瀬耕治（2008）. カウンセリングの技法を学ぶ 有斐閣 ○福山清蔵（2008）. 独習 入門カウンセリングワークブック 日本・精神技術研究所
(22)成績評価方法及び採点基準	リアクションペーパーによる評価（40点）、小テストによる評価（40点）、演習への参加による評価（20点）とします。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	集中講義です。日程は追ってお知らせします。 形式で基本事項を説明した後、その内容を確認するための演習を行います。
(25)留意点・予備知識	○ペアやグループなどでの演習を行いますので、遅刻・欠席・早退のないよう留意してください。 ○主体的な学習、演習への積極的な参加を求めます。
(26)オフィスアワー	オフィスアワーは水曜午前です。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	ymatsuda@hirosaki-u.ac.jp

(28)その他 | 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	91
(2)区分番号	91
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	子どもとカリキュラム (Children and Curriculum)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	森本 洋介(教育学部)・上野 秀人(教育学研究科)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
(14)授業としての具体的到達目標	○中等教育の教育課程の理論的側面並びに実際面、課題等について理解できる(見通す力)
(15)授業	中等教育を中心とした教育課程の意義、類型及び領域等について触れ、教育課程を編成する法的根拠としての学習指導要領の特質と課題について検討する。

の概要	
(16) 授業の内容予定	<p>第1回 ガイダンス (森本・上野) 第2回 カリキュラムとは何か (上野) 第3回 学習指導要領の変遷① (1947年～教育の現代化) (上野) 第4回 学習指導要領の変遷② (「ゆとり」～2008年告示) (上野) 第5回 現行学習指導要領の特質・構造 (上野) 第6回 今日の学力観 (PISA型学力) と教育課程 (森本) 第7回 「学力低下論」 (森本) 第8回 諸外国の教育課程 (森本) 第9回 総合的な学習の時間および特別活動 (上野) 第10回 教育課程の編成原理・条件 (森本) 第11回 教育課程経営とカリキュラム・マネジメント (森本) 第12回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程① (メディア・リテラシー) (森本) 第13回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程② (国際理解教育) (森本) 第14回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程③ (環境教育・SDGs) (上野) 第15回 まとめ (森本・上野) ※担当者の都合により、部分的に変更となる可能性がある。森本と上野で分担して授業を運営するが、授業内容によっては「子どもとカリキュラム (初等)」と合同で授業を行う場合もありうる。</p>
(17) 準備学習 (予習・復習) 等の内容	<p>当該学習事項について授業内容の復習をするとともに、次回の授業内容について各自である程度調べてくること。</p>
(18) 学問分野 1(主学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18) 学問分野 2(副学問分野)	<p>-</p>
(18) 学問分野 3(副学問分野)	<p>-</p>
(19) 実務経験のある教員による授業科目について	<p>-</p>
(20) 教材・教科書	<p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示) , 中学校学習指導要領解説 (平成29年6月告示)</p>
(21) 参考文献	<p>『新しい時代の教育課程第4版』 (田中耕治他、有斐閣アルマ)</p>
(22) 成績評価	<p>試験に相当する課題 (60%) 及び授業での提出物 (40%) で評価する。</p>

方法及び採点基準	
(23) 授業形式	講義
(24) 授業形態・授業方法	基本的に講義形式で運営するが、状況によってグループワークや調べ学習などを授業内に入れ、アクティブ・ラーニング形式を行う場合もある。
(25) 留意点・予備知識	欠席・遅刻は厳禁とし、欠席・遅刻があった場合には成績に大きく影響させる。
(26) オフィスアワー	金曜16:00-17:30
(27)E メールアドレス・HPアドレス	morimoto%hirosaki-u.ac.jp(%を@に変換) http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=1653&head=&hid=&sid=&rev=1&ssid=&fvid=18701&text=%90%58%96%7B%81%40%97%6D%89%EE&cal=
(28) その他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	92
(2)区分番号	92
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英 文名〕	看護科教育法Ⅱ (Nursing Education Teaching Ⅱ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1・2時限
(10)担当教員(所 属)	○小倉能理子, 藤田あけみ, 會津桂子
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベ ル)	レベル2~3
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○模擬SHRを行い, 高等学校看護科の学級運営について理解ができる(見 通す力, 解決していく力) ○高等学校看護科の授業における教材研究ができる(見通す力, 解決して いく力, 学び続ける力) ○作成した教材を基に模擬授業を行い, その評価ができる(見通す力, 解 決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	高等学校看護科における学級運営および教材研究と模擬授業(学内演習含 む)を行い, 看護科という特徴を考慮した学級運営について理解を深め る。 ・ 模擬SHR(10分)を行い受講生と担当教員による意見交換を行う。 ・ 模擬授業では, 数名の学生から構成するTTによる模擬学内演習(主に基 礎看護技術)の指導案の作成と学内演習を行う。教育実習を経験した4年 生も助言する。 ・ 教材研究を行い, 4年次教育実習を視野に入れた総まとめとしての模擬 授業を行う。VTR撮影した模擬授業を視聴後, 自己評価を行うとともに振 り返りを行い, 指導法に関する弱点を強化する。
(16)授業の内容予 定	1 回目(10/ 4): オリエンテーション(小倉, 他), 高等学校看護科にお ける学級運営(會津) 2 回目(10/11): 模擬SHR 1: 事例設定に基づいた第1回模擬SHR(會津, 他) 3 回目(10/18): 模擬SHR 2: 見直しによる第2回模擬SHR(會津, 他) 4 回目(11/ 1): 模擬授業(学内演習)1: 指導案の作成(藤田, 他) 5 回目(11/ 8): 模擬授業(学内演習)2: 教材の作成(藤田, 他) 6 回目(11/15): 学内演習1: 1グループの演習(藤田, 他) 7 回目(11/22): 学内演習2: 2グループの演習(藤田, 他) 8 回目(11/29): 学内演習3: 3グループの演習(藤田, 他) 9 回目(12/ 6): 自作教材を活用した模擬授業指導案の準備: 指導案の作 成(小倉, 他) 10回目(12/13): 自作教材を活用した模擬授業指導案の確認(小倉, 他) 11回目: 自作教材を活用した模擬授業の実際1: 専門基礎分野(小倉, 他) 12回目: 自作教材を活用した模擬授業の実際2: 基礎看護学(小倉, 他)

	<p>13回目：自作教材を活用した模擬授業の実際3：成人看護学（小倉，他） 14回目：自作教材を活用した模擬授業の実際4：老年看護学（小倉，他） 15回目：自作教材を活用した模擬授業の実際5：母性・小児看護学（小倉，他）</p> <p>定期試験は実施しない。 注：第11回～15回は3月上旬に集中授業として実施します。</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護科教育法I で学習した学習指導案の作成について復習して下さい。 ・教材研究を十分に行って下さい。 ・実施した模擬授業のVTRを視聴しながら各自の模擬授業の自己評価を行って下さい。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	高等学校学習指導要領解説 看護編（文部科学省）
(21)参考文献	高等学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（文部科学省） その他，随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	総合的に評価しますが，目安は模擬SHR（15%），学内演習（35%），指導案・教材作成および模擬授業（50%）です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義・演習形式で行いますが，演習を主体とします。
(25)留意点・予備知識	4年次教育実習での授業に活用できるように工夫して下さい。
(26)オフィスアワー	随時受け付けますが，事前にメール等で予約してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	小倉能理子： ogu1224@hirosaki-u.ac.jp 藤田あけみ： a_fujiita@hirosaki-u.ac.jp 會津佳子： aizu@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	集中講義の詳細な日程は受講者と相談の上，決定します。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	93
(2)区分番号	93
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産診断・技術学Ⅲ (Technology of MidwiferyⅢ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～4 時限
(10)担当教員(所属)	三崎直子 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○健康教育の基本的理論をふまえ、マタニティサイクル期および各ライフステージにある女性とその家族を理解する(見通す力, 解決していく力) ○健康維持増進のための保健指導を修得する(解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	○助産に必要なセルフケア論等の理論, 援助技術の基本を学ぶ。 ○マタニティサイクル期の心理を理解し, セルフケアの実際について学ぶ。 ○保健指導の実践方法について学ぶ。
(16)授業の内容予定	第1～3回(1/10) セルフケアと援助技術の基本等、マタニティサイクル期の心理, 各ライフステージにある対象のセルフケアと健康教育(三崎) 第4～6回(1/16) マタニティサイクル期の助産ケア・セルフケアの実際①(三崎, 早狩, 鎌田) 第7～9回(1/24) マタニティサイクル期の助産ケア・セルフケアの実際②(三崎, 早狩, 鎌田) 第10～12回(1/31) 保健指導の立案・展開の準備(三崎, 早狩, 鎌田) 第13～15回(2/7) 保健指導の展開, 評価, まとめ(三崎, 早狩, 鎌田)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	これまでの助産学の科目を復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	助産学講座2, 5, 6, 7, 8 2018 医学書院 今日の助産 2013 南江堂
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 30% 期末評価(保健指導の立案・展開): 70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義ですが、演習を含みます。
(25)留意点・予備知識	積極的な授業参加を求めます。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時~17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を挙げながら理解を深めていく講義内容です。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	94
(2)区分番号	94
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産診断・技術学演習 (Technology of Midwifery、Campus Lab)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～10時限
(10)担当教員(所属)	○三崎直子, 早狩瑤子, 鎌田璃沙, 高橋徹, 尾田敦, 藤岡美幸
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○助産診断をもとに助産実践的介入能力を修得する(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	○助産診断に応じた助産ケアスキルの実践的介入方法を学ぶ ○臨時応急時の実践的介入法について学ぶ
(16)授業の内容予定	<p>第1～3回(10/18) 妊娠期・産褥期の助産診断スキル(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第4～6回(11/1) 分娩期の助産診断①(三崎)</p> <p>第7～9回(11/8) 分娩期の助産診断②(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第10～13回(11/15) 分娩期の助産診断スキル・ケアスキル①(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第14～17回(11/22) 分娩期の助産診断スキル・ケアスキル②(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第18～21回(11/29) 分娩期の助産診断スキル・ケアスキル③(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第22～25回(12/6) 分娩期の助産診断スキル・ケアスキル④(三崎, 早狩, 鎌田)</p> <p>第26～29回(12/13) 新生児期の助産診断スキル・ケアスキル(三崎, 高橋, 早狩, 鎌田)</p> <p>第30～32回(12/13) 正常逸脱の診断・臨時応急時の介入(三崎, 尾田, 藤岡, 早狩, 鎌田)</p> <p>○授業開始に先立ち, 別日程でガイダンスを行います。ガイダンスの日程について, 助産学選択学生が決定した後に速やかに掲示板およびメールにて連絡します。</p> <p>○シラバスの詳細と試験については, ガイダンスで詳しく資料をもって説明します。</p> <p>○学生の修得状況や進度に応じて, シラバスや日程を変更することがあります。変更の必要があるときは, 学生と相談して内容や日程を決めます。</p>
	これまでの看護および助産学の科目を復習を十分してください。

(17)準備学習（予習・復習）等の内容	
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	助産学講座6～8 2018 医学書院 今日の助産 2013 南江堂
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 30% 期末評価(スキル試験・筆記試験): 70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 試験の日程、内容、評価基準については、ガイダンスで説明します。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	基本的に演習ですが、適宜講義を含みます。
(25)留意点・予備知識	難しいスキルを学習しますので、自己学習がかなり必要です。 これまでの助産学の講義の資料を授業にもってきてください。 動きやすい服装で来てください。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時～17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験をふまえ、臨床事例を提示する等により、理解が深まるように工夫をしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	95
(2)区分番号	95
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護学演習Ⅰ
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～6 時限
(10)担当教員（所属）	○北宮千秋, 多喜代健吾, 山田基矢, 山本美由紀
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○コミュニティの地域特性を導くことができる（見通す力, 解決する力） ○コミュニティの健康課題を分析により抽出することができる（見通す力, 解決する力） ○実態に即した住民の健康増進・疾病予防に向けた政策を形成するために必要な知識や技術を培う（学び続ける力）
(15)授業の概要	○青森県の自治体をグループごとに取り上げ, 保健統計資料や行政情報を基に, 地域看護診断の作成および政策の立案を机上演習する ○リスクコミュニケーションを行うための事例検討およびロールプレイ ○放射線測定演習 ○他県の健康課題を概観する ○いのちの電話の実務担当者からの傾聴に関する講義 ○青森県庁で政策策定および人材育成に尽力されている保健師による「県の政策と人材育成」の講義
(16)授業の内容予定	第1回. オリエンテーション 第2回. 県の政策と人材育成（奥村智子非常勤講師） 第3回. 県内市町村の地域看護診断, 実習委員の活動（4年生から報告） 第4回. 地域看護診断オリエンテーション 第5回. リスクコミュニケーション 講義：地域防災計画、リスクコミュニケーション演習 第6回. 講義および演習：放射線の知識（対馬恵） 第7回. リスクコミュニケーション演習 第8回. 県内自治体の地域看護診断 基本情報、2次資料の収集 第9回. 県の健康課題 第10回. 講義「傾聴」（田中真） 第11回. 発達のアセスメント 第12回. 県内自治体の地域看護診断 コミュニティコアの選定 第13回. 県内自治体の地域看護診断 地域環境のアセスメント 第14回. 県内自治体の地域看護診断 健康課題の抽出、事業の提案 第15回. 県内自治体の地域看護診断 発表 まとめ 1次資料収集に

	<p>向けた計画 * 全てのプログラムに担当教員全員が参加する</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>保健師選抜試験を受け、選択学生となった者のみ履修可能 これまで学んできた公衆衛生看護学及び看護学，地域保健学，保健統計学，放射線防護等の基礎的知識はすでに習得されていることを前提に演習を行うので，関連する教科書や配布資料を精読した上で授業に臨むこと</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	社会学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子，後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディアカル
(21)参考文献	公衆衛生看護学及び看護学，地域保健学，保健統計学，疫学，放射線防護等の授業の教科書や資料等他，適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>グループでの提出物，発表の評価および演習中の取り組みや態度，出席状況を総体的に評価する 欠席が3分の1より多い場合，単位認定の対象とはならない また，30分以上の遅刻については欠席とみなす 総体的に一定のレベル(60%)に達しなければ不合格となる なお，グループワークによる内容が主であることから，正当な理由がない欠席，遅刻，協調性に欠ける，学習意欲に欠けるなどの受講態度が相応しくない場合は減点扱いとする</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループワーク アクティブラーニング
(25)留意点・予備知識	<p>本科目は公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を得るための必須科目である 選抜試験の合格者のみ履修可能</p>
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	96
(2)区分番号	96
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護学演習Ⅱ
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～6 時限
(10)担当教員（所属）	○北宮千秋，山田基矢，多喜代健吾，山本美由紀，三上佳澄，早狩瑤子
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベル）	レベル3
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○個人・家族・集団・組織を対象とした保健指導について計画し，実践をもとに評価する（見通す力，解決する力，学び続ける力） ○公衆衛生看護活動に必要な知識や技術に対する理解を深める（解決する力） ○地域特性をふまえた保健指導について理解する（解決する力）
(15)授業の概要	○青森県民の地域特性を理解し，集団への健康教育の実践 ○家族を対象とした家庭訪問を計画し，ロールプレイの実施 ○健康相談の計画および演習 ○セルフチェックを実施し，行動変容の過程を理解する
(16)授業の内容予定	第1回. オリエンテーション 第2回. セルフチェック演習 自分の身体、生活習慣等について客観化する 第3回. セルフチェック演習 健康課題の抽出と生活改善目標 第4回. セルフチェック演習 生活習慣改善評価 第5回. セルフチェック演習 生活習慣を改善するための行動目標と実践 第6回. 集団保健指導演習 弘前市民を対象とした集団保健指導の計画 第7回. 集団保健指導演習 健康教育指導案の作成 第8回. 集団保健指導演習 健康教育指導案を活かすための教材の提案 第9回. 集団保健指導演習 健康教育の発表 4年生に対して健康教育を実践し、評価を行う。 第10回. 個別保健指導演習 来所相談：事例検討 実施計画の作成 第11回. 個別保健指導演習 来所相談：事例検討 実施計画の修正、保健指導教材の作成 第12回. 個別保健指導演習 来所相談：4年生を対象とした実践 第13回. 個別保健指導演習 家庭訪問：事例検討 家庭訪問計画の作成 第14回. 個別保健指導演習 家庭訪問：事例検討 家庭訪問計画の修正、保健指導教材の作成 第15回. 個別保健指導演習 家庭訪問：事例検討 訪問後の実践記録と今後の訪問計画の作成 *北宮、山田、多喜代、山本は全てのプログラムに参加する

	<p>* 三上は第10回～12回に参加する</p> <p>* 早狩は第14回に参加する</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>保健師選抜試験を受け、選択学生となった者のみ履修可能</p> <p>これまで学んできた公衆衛生看護学及び看護学、地域保健学、保健統計学、臨床栄養学等の基礎的知識はすでに習得されていることを前提に演習を行うので、関連する教科書や配布資料を精読した上で授業に臨むこと</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子，後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	公衆衛生看護学および看護学，地域保健学，保健統計学，臨床栄養学，等の授業の教科書や資料等 他，適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>グループでの提出物，発表の評価および演習中の取り組みや態度，出席状況を総体的に評価する</p> <p>欠席が3分の1より多い場合，単位認定の対象とはならない</p> <p>また，30分以上の遅刻については欠席とみなす</p> <p>総体的に一定のレベル(60%)に達しなければ不合格となる</p> <p>なお，グループワークによる内容が主であることから，正当な理由がない欠席，遅刻，協調性に欠ける，学習意欲に欠けるなどの受講態度が相応しくない場合は減点扱いとする</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	グループワーク ロールプレイ 保健指導の実践
(25)留意点・予備知識	<p>本科目は公衆衛生看護学（保健師国家試験受験資格）を得るための必須科目である</p> <p>また，公衆衛生看護学実習を受講するための必修科目となる</p> <p>選抜試験の合格者のみ履修可能</p>
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	97
(2)区分番号	97
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名 〔英文名〕	卒業研究（看護3年）（Bachelor's Thesis）
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日7～10時限
(10)担当教員 （所属）	○看護学専攻教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○看護研究の概要について理解できる（見通す力） ○各自の研究課題について明らかにできる（見通す力， 解決していく力， 学び続ける力） ○研究計画書の作成方法が理解できる（見通す力， 解決していく力， 学び続ける力）
(15)授業の概要	○看護研究の概念、目的、種類、方法、および文献検索の基本と応用を学びます。また、研究成果の発表のしかたや論文・研究のまとめ方についても学びます。 ○指導教員のもとで研究課題を明らかにし、研究計画の構想を立案します。 *本授業は4年次開講の「卒業研究（3単位）」に直結するものです
(16)授業の内容予定	第1・2回(10/4) 7・8時限 卒業研究の概要：授業日程、研究テーマ・指導教員の決定、4年生卒業研究発表会の割等について（三崎） 第3・4回(10/11) 9・10時限 「看護研究とは」（井瀧） 7・8時限 「研究手法、研究に向けての準備①」（大津） 9・10時限 文献のクリティーク（教員全員） 第5・6回(10/18) 7・8時限 「研究を前提とした文献検索の方法」（図書館：藤井） 9・10時限 文献検索の実際（図書館：藤井） 第7・8回(11/1) 7・8時限 「研究手法、研究に向けての準備②」（大津） 9・10時限 「発表の方法、論文・研究のまとめ方」（土屋） 第9・10回(11/8) 7・8時限 各指導教員のもとで研究 9・10時限 「必要な統計的知識の確認(e-learning)」 第11～13回については、各自進行中の研究への示唆を得ることを目的に、4年生の発表会に参加します。3年生の卒業研究係を中心に発表会の準備・運営をします。詳細については第11回でお知らせします。 第11回(12/12) 卒業研究発表会 3年次学生オリエンテーション(17:40～第33講義室) 第12回(12/20) 4年生の卒業研究発表会の準備（発表会の準備・運営） 第13回(12/21) 4年生の卒業研究発表会への参加

	第14回 (1/31) 各指導教員のもとで研究 第15回 (2/7) 各指導教員のもとで研究
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	興味、関心のある事柄について文献を複数読んでください。 自分の希望する研究テーマと近いテーマ、キーワードをあげている教員のオフィスアワー等を活用して相談してみましょう。
(18)学問分野 1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある 教員による 授業科目につ いて	実務教員
(20)教材・教科 書	テキスト は使用しません。適宜、資料を配布します。
(21)参考文献	講義担当教員から随時紹介されます。研究に必要な図書、資料は各指導教員、または講義担当教員に問い合わせてください。
(22)成績評価方 法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 40点 期末評価(指導教員による評価): 60点 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 60点以上を合格とします。 指導教員による評価の観点は以下の通りです。 ①研究計画と準備状況(20点) ②進行過程(20点) ③研究に対する意欲・教員とのコミュニケーション(20点)
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・ 授業方法	主に講義形式で行います。指導教員のもとでは、主にゼミナール形式で進められ、各自の研究テーマにそって自ら研究を遂行します。
(25)留意点・予 備知識	各自のテーマ設定に際し、看護学専攻教員の研究テーマ(指導可能な)の一覧を掲示しますので、参考にしてください。実習中に抱いた興味・疑問などが研究課題に結びつくことも少なくありません。普段から主体的に臨むよう努めましょう。 また、関心領域の看護研究論文を1編以上読んでおいてください。さらに、指導教員のゼミナールでは、英語論文も読んでみましょう。 8月末に関心のあるテーマを提出し、それ以降に指導教員が決まります。ただし、指導教員の最終決定は次年度の5月です。
(26)オフィスア ワー	講義担当教員および各研究指導教員のオフィスアワーは随時のため、事前にメールで日時を相談してください。
(27)Eメールア ドレス・HPア ドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp 井瀧千恵子 itakichi@hirosaki-u.ac.jp 大津美香 hotsu@hirosaki-u.ac.jp 土屋涼子 tsuchiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	授業準備、連絡等のため、学生から卒業研究係(6名)を選出してもらいます

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	98
(2)区分番号	98
(3)科目種別	医学部保健学科
(4)授業科目名 〔英文名〕	保健学概論演習 (Seminar in Health Sciences)
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 1～4 時限
(10)担当教員 (所属)	○若山佐一, 北宮千秋, 工藤幸清, 武尾照子, 田中 真
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度 (レベル)	レベル4
(13)対応するC P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○保健学の総仕上げとして、これまで学習してきた専門領域の知識や技術を総動員し、保健関連職種の業務や技術等について相互に学習し、保健学関連職種の互いの仕事や連携について具体的に理解する（見通す力、解決する力） ○健康、保健という基本的概念を理解し、「人」をみつめた将来の保健医療専門職となる基本的態度を培う（見通す力） ○保健学科の5専攻の各専門分野における教育の理念や専門職としての役割、責任、他職種との連携等について学ぶことにより、その共通性と独自性について理解する（解決する力、学び続ける力） ○インタープロフェッショナルワーク（多職種連携）の理解（見通す力）
(15)授業の概要	インタープロフェッショナルワーク（多職種連携）を伴う課題について、多職種構成によるグループで課題の内容、問題、目標、解決方法等について具体的な事例検討により理解することを目標としています。 11月中にグループワークも含め30時間実施する集中授業形式です。 ただし、ボランティア等で多職種連携による住民健診、健康調査や指導等に参画する機会があった場合には、授業時間に換算する場合がありますので、担当教員に相談してください。
(16)授業の内容 予定	演習課題は緊急被ばく医療（福島原発の事故を例に避難所生活や仮設住宅～復興住宅での医療やケア）、青森県内の地域在宅医療やケア（がんのターミナルケアや難病や脳卒中後のリハビリ等）等を提示し選択してもらう予定。 1回目11/8、午前2コマ4時間、導入と連携等の講義、授業導入（若山） インタープロフェッショナルワークとは（若山） グループダイナミクスについて（田中） 演習課題の提示とグループワーク 課題を決定し、演習内容の大枠を決定し、役割分担等を決め

	<p>る。</p> <p>11/9-14グループワーク8時間、役割分担とそれによる情報収集、役割分担等。</p> <p>2回目11/15; 1コマは進捗状況を発表し、今後の活動方針や内容を教員と検討する。残りの時間はグループワークに当てる。 最後の週の発表に備え課題の調査や内容の整理、発表分担等を決める。</p> <p>11/16-21グループワークで10時間、情報収集とその統合、整理、発表分担等を行う。</p> <p>3回目11/22; 2コマ4時間、1コマ発表準備、1コマ演習課題の発表とまとめ</p>
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	各々の専門の総復習として、各々の専門領域の基本概念・役割等を復習し、臨んでください。
(18)学問分野 1(主学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野 2(副学問分野)	看護学関連
(18)学問分野 3(副学問分野)	人間医工学関連（医学）
(19)実務経験のある教員による 授業科目について	-
(20)教材・教科書	特に指定しない。
(21)参考文献	ラーニングシリーズIP(インタープロフェッショナル)：保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践，協同医書，2018(分館) 適宜授業や相談時に紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習課題に関する発表や関連資料の作成，提出（30%） 2. グループにおける活動の学生同士の相互評価（30%）教員による評価（40%） <p>これらを統合して最終評価を行います。 授業時以外の多職種連携活動等への参加による授業時間の換算の場合には、レポート作成とその発表等、相談のうえ評価します。</p>
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・ 授業方法	主に演習ですが、講義形式もあります。演習としての実習体験なども相談により可能です。 グループワーク(グループダイナミクス，討論の体験)が主体となります。 グループワークの成果を発表してもらい、学生と教員による評価を行います。
(25)留意点・予備知識	5専攻の学生が受講可能な時期ということでの11月開始，終了としていきます。 選択科目であり，受講する学生の専攻別構成人数等により実施内容に変更もありません。 金曜日午前2コマが授業枠であるが，平日や土曜日，日曜日など，各グループワークを各々行いやすい時間で組み，内容等は必要に応じて適宜教員に相談する。 教員は導入講義と発表時には関与，グループワーク時には相談等必要に応じて

	<p>て可能な範囲で関与する予定です。 多職種連携を演習として実践するため、5専攻の学生の履修によるグループ構成が必要となりますので、履修状況により、開講できない、開講しないなどの場合もあります。</p>
(26)オフィスアワー	(若山)月, 水, 木の17: 40-18: 30
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	科目責任者, 若山佐一: swaka 北宮千秋: chiaki, 工藤幸清: kohsei, 武尾照子: ttakeo, 田中真: mtanaka
(28)その他	卒研, 国試準備などの合間の実施ですが, 頭を切り替えてリフレッシュでき, かつ今後の臨床等で経験するであろう多職種連携の理解につながることを期待しています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	99
(2)区分番号	99
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教職実践演習
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 9・10時限
(10)担当教員(所属)	○會津桂子, 小倉能理子, 藤田あけみ
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○教員としての使命感や責任感を持ち、学級経営、教科指導、生徒指導等を実践できる基本的な資質能力を修得していることを確認する（見通す力、解決する力、学び続ける力）
(15)授業の概要	教員として求められる資質能力（学級経営、生徒指導、進路指導、教材研究と指導案の作成、社会性や人間関係構築能力等）について理解を深めるために、ロールプレイ、事例検討等を行います。また、教育実習における研究授業の指導案を修正し、模擬授業を行います。さらに、教育実習を控えた3年生の模擬授業に参加し、3年生に指導的に関わることを通して自身の指導技術や教育観を振り返ります。加えて、全学で実施している射線リスクコミュニケーションに関する教職実践演習に参加し、学校安全についての理解を深めます。これらを通して、望ましい教師となるために必要な資質能力について評価し、自己の課題について考察します。

(16)授業 の内容予 定	<p>第1回(10/4) : 望ましい教師像・自己の課題の検討、討論テーマの決定(會津・藤田・小倉)</p> <p>第2回(10/11) : 討論:生徒指導(會津・藤田・小倉)</p> <p>第3回(10/18) : 討論:進路指導(會津・藤田・小倉)</p> <p>第4回(11/1) : 討論:教科指導(會津・藤田・小倉)</p> <p>第5回(11/8) : 教材研究と指導案の作成(會津・藤田・小倉)</p> <p>第6回(11/15) : 模擬授業:専門基礎分野(會津・藤田・小倉)</p> <p>第7回(11/22) : 模擬授業:基礎看護学(會津・藤田・小倉)</p> <p>第8回(11/29) : 模擬授業:老年・在宅・精神・母性・小児看護学(會津・藤田・小倉)</p> <p>第9回:3年生模擬授業(日常生活の援助技術)への参加(會津・藤田・小倉)</p> <p>第10回:3年生模擬授業(診療の補助技術)への参加(會津・藤田・小倉)</p> <p>第9・10回は、3年次学生の看護科教育法Ⅱ「学内演習」の模擬授業に参加し、指導的に関わる。</p> <p>第11回:学校安全と放射線に関する基礎知識(全学教員養成担当実施委員会・小倉)</p> <p>第12回:学校安全における放射線リスクコミュニケーションの基礎(全学教員養成担当実施委員会・會津)</p> <p>第13回:学校安全における放射線リスクコミュニケーションの演習(全学教員養成担当実施委員会・會津)</p> <p>第11・12・13回は、全学の教職実践演習「学校安全(放射線について)」に参加する。</p> <p>第14回(12/6) : 総括討論;望ましい教師となるための資質能力(會津・藤田・小倉)</p> <p>第15回(12/13) : 総括討論;望ましい教師となるための資質能力についての自己評価・課題の明確化(會津・藤田・小倉)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
(17)準備 学習(予 習・復 習)等の 内容	<p>第4~7回の模擬授業では、教育実習時の研究授業で使用した指導案を活用するため、確保しておくこと。</p>
(18)学問 分野1(主 学問分野)	<p>看護学関連</p>
(18)学問 分野2(副 学問分野)	<p>教育学関連</p>
(18)学問 分野3(副 学問分野)	<p>-</p>
(19)実務 経験のあ る教員に よる授業 科目につ いて	<p>実務教員</p>
(20)教 材・教科 書	<p>特に指定しません。</p>
	<p>随時紹介します。</p>

(21)参考文献	
(22)成績評価方法及び採点基準	レポート提出を求め、その内容(50%)と授業態度や発言内容等の出席状況(50%)を総合的に判断します。60点以上を合格とします。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	演習
(25)留意点・予備知識	教育実習(事前・事後指導を含む)を履修済みであることとします。
(26)オフィスアワー	適宜対応します。事前にメールにて予約してください。
(27)Eメールアドレ ス・HP アドレス	會津 : ai_zu@hirosaki-u.ac.jp 小倉 : ogu1224@hirosaki-u.ac.jp 藤田 : a_fujita@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	特にありません。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	100
(2)区分番号	100
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名 〔英文名〕	教育の社会制度論 (Social Structure and History of Education)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員 (所属)	須川公央 (学外非常勤講師)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度 (レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
(14)授業としての 具体的到達目標	○ 公教育制度の歴史の変遷について理解できる (見通す力) ○ 社会における教育の機能やその意味について理解できる (見通す力) ○ 我々にとって自明な「教育」という営みを相対化できる (見通す力, 解決していく力)
(15)授業の概要	今日の公教育制度がどのような歴史的経緯を経て成立したのか, また昨今の教育問題等にもふれつつ, 教育と社会の制度的な関係について広く原理的な観点から学ぶ。
(16)授業の内容 予定	第1回 オリエンテーション: 授業内容・計画, 評価方法に関する説明 第2回 教育と社会 (1): より良い社会の構築を目指して 第3回 教育と社会 (2): 公教育の原理と理念 第4回 教育の臨界 (1): 教育の文化伝達機能 第5回 教育の臨界 (2): 教育の選抜配分機能 第6回 教育行政: 教育行政の理念と仕組み 第7回 教育法規: 学校教育の法的規定性 第8回 ケアリングと教育: 武蔵野東技能高等専修学校の実践から 第9回 教育と階層格差: 教育の再生産機能について考える 第10回 教育制度論 (1): 地域社会と学校のつながりについて考える 第11回 教育制度論 (2): 教育制度の歴史の変遷について考える 第12回 教育制度論 (3): 欧米における教育制度について学ぶ 第13回 学校教育の現代的課題 (1): 学校安全への対応 第14回 学校教育の現代的課題 (2): チーム学校を目指して 第15回 これまでの講義の振り返り 第16回 試験 (レポート提出)
(17)準備学習 (予習・復習) 等の内容	予習は必要ない。
	教育学関連

(18)学問分野 1(主学問分野)	
(18)学問分野 2(副学問分野)	-
(18)学問分野 3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	-
(20)教材・教科書	毎時間、プリント資料を配付する。
(21)参考文献	柴田 義松ほか編『教育学を学ぶ：発達と教育の人間科学』有斐閣、1987年 柴野昌山ほか『教育社会学』有斐閣、1992年
(22)成績評価方法及び採点基準	授業参加状況（25点）および、定期試験（レポート70点）の結果を総合的に勘案して行う。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義形式を中心に授業を進めるが、受講者諸君が能動的に参加できるよう、適宜ディスカッションなども行う。また授業によっては、DVD視聴なども行う予定である。なお、各回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらおう。
(25)留意点・予備知識	予備知識は必要なし。ただし、講義後に各自、自分なりに関連領域に関する知識を深めることが重要である。
(26)オフィスアワー	
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	講義に関する質問等は、 sukawa@shiraume.ac.jp まで。 * 講義内容以外の質問は小倉 ogu1224@hirosaki-u.ac.jp まで
(28)その他	* 1単位取得のためには予習復習を含めて45時間の学習が必要であることを踏まえたうえで、講義に臨むこと。 * 掲示に注意してください。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	101
(2)区分番号	101
(3)科目種別	医学部保健学科教職科目
(4)授業科目名〔英文名〕	教育工学演習 (Education Technology, Seminar)
(5)対象学年	2
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	金曜日 3・4時限
(10)担当教員(所属)	森本洋介 (教育学部)
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力
<p>○自分がこれまでに受けてきた「教育方法」や「教育課程」以外のそれらのあり方について、デジタル時代のリテラシーのあり方の学習を通して考えられるようになる(見通す力)</p>	

(14) 授業 とし ての 具 体 的 到 達 目 標	
(15) 授業 の概 要	本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目よりも、むしろ自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることに重点を置いている。また最近の新しい教育内容に現場がどのように対応していくのかについてもカリキュラム編成の視点から考える。
(16) 授業 の 内 容 予 定	第1回 オリエンテーション、一般的なメディア・リテラシー教育の概要 第2回 1. デジタル時代のメディア・リテラシー 第3回 2. デジタル時代のメディア・リテラシーを教える動機、3. 学校外の文化と授業をつなげる 第4回 4. メディアとポップカルチャーについて問いを投げかける 第5回 5. メディアをつくる 第6回 6. すべては社会とつながっている 第7回 7. 若い学習者のためのメディア・リテラシー 第8回 8. 作家とオーディエンス、9. 実践を変える
(17) 準備 学習 (予 習・ 復 習) 等 の 内 容	テキストの該当箇所を事前に読んでくるとともに、授業後は再度その箇所を読み直すこと。
(18) 学 問 分 野 1(主 学 問 分 野)	教育学関連
(18) 学 問 分 野 2(副 学 問 分 野)	-
(18) 学 問 分 野 3(副 学 問 分 野)	-
(19) 実 務 経 験 の あ る 教 員 に よ る 授 業	-

科目 について	
(20) 教材・ 教科 書	ルネ・ホップス、デビット・クーパー・ムーア著；森本洋介監訳(2016)『メディア・リテラシー教育と出会う：児童がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会
(21) 参考 文献	適宜指示する。
(22) 成績 評価 方法 及び 採点 基準	授業内で行う活動（50%）と小レポート（50%）
(23) 授業 形式	演習
(24) 授業 形 態・ 授業 方法	問題解決学習、テキスト分析、協働学習、グループ議論および全体議論、講義等の授業方法を適宜組み合わせ て授業を進める。
(25) 留意 点・ 予備 知識	遅刻・欠席をした場合は成績に大きく影響する。
(26) オフ イス アワ ー	金曜16:00-17:30
(27) Eメ ール アド レス・ HPア ドレ ス	morimoto%hirosaki-u. ac. jp(%を@に変換) http://db.im.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe? page=DBRecord&did=1988&vid=718&rid=2392&text=%90%58%96%7B+%97%6D%89%EE&Head=&hid=&sid=n&rev=0&ssid=
(28) その 他	特になし。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	102
(2)区分番号	102
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	成人看護学実習 (Adult Nursing, Practice)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	6
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○富澤登志子, 長内智宏, 野戸結花, 井瀧千恵子, 川崎くみ子, 漆坂真弓, 北島麻衣子, 三上佳澄
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するC/P/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○健康障害により治療過程にある成人とその家族の看護問題を把握し, 個別的・創造的な看護過程を展開できる(見通す力, 解決していく力) ○科学的根拠に基づいて, 基本的看護技術を提供することができる(解決する力, 学び続ける力) ○看護実践における援助関係を理解し, 成人および家族と援助関係を築き, 発展させることができる(見通す力, 解決していく力) ○保健・医療・福祉の連携における実際的な活動をとおり, 看護師の役割を理解できる(見通す力, 解決していく力, 学び続ける力) ○医療の場における成人および家族の倫理的課題を理解し, 学習者として責任ある行動をとることができる(学び続ける力) ○成人および家族との関わりや看護実践をとおり, 看護に対する自分なりの考えを持つことができる(学び続ける力)
(15)授業の概要	1. 健康障害により治療過程にある成人・その家族に対する看護実践を行う。 2. 具体的には慢性疾患患者や周手術期患者を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する。 3. 臨地実習終了後にケース・スタディにより、看護実践を振り返る。
(16)授業の内容予定	実習前にオリエンテーションを受講し, 実習前トレーニングを行って臨地実習での実践に備える。 また2つのクールの臨時実習を経験し, それぞれのクールで1~2名程度の成人患者の看護ケアを実践する。 具体的なスケジュールは以下に示す。 ○2019年9月19日-20日 実習オリエンテーション ○1-2クール(小児・母性実習履修者以外; 半数交代) ・実習前トレーニング 9月24日, 25日, 26日 ・臨地実習(1クール) 9月30日, 10月1-3日, 7-10日, 15日 ・臨地実習(2クール) 10月21-24日, 29日-31日, 29-31日, 11月5-7日, 11日 ・ケーススタディ 11月12-14日

	<p>○3-4クール（残り半数のグループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前トレーニング 12月4-5日, 9日 ・臨地実習（3クール） 12月10-12日, 16-19日, 23-24日 ・臨地実習（4クール） 2020年1月14-15日, 20-23日, 27日-30日 ・ケーススタディ 2月3-5日 <p>（何れも担当者：富澤登志子，長内智宏，野戸結花，井瀧千恵子，川崎くみ子，漆坂真弓，北島麻衣子，三上佳澄）</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>○実習オリエンテーションの内容をあらかじめ掲示しますので、内容にそった復習を十分に行って、オリエンテーションに臨んでください。</p> <p>○臨地実習開始直前に看護技術・看護過程トレーニングを行います。これまでの看護技術・看護過程の復習を十分に行って、トレーニングに臨んでください。</p> <p>○病棟配置決定後に実習先の専門科目の看護について必ず予習・復習を行ってください。病棟決定は8月下旬を予定しています。</p> <p>○成人看護学実習Ⅰ（慢性期・ターミナル期）： 事前にテキストや資料を参考に、ターミナル期にある患者と家族の心理について学習し、分野別オリエンテーションまでにまとめてください。実習開始時に担当教員が確認しますので、提出してください。</p> <p>○成人看護学実習Ⅱ（周手術期）： 以下の項目について、テキストや資料を参考に学びを深め、技術のトレーニングを行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①手術前の看護（術前教育, 不安の緩和）に必要な知識・技術 ②手術中の看護（麻酔導入時～麻酔覚醒）に必要な知識・技術 ③手術後の看護（生理的反応の観察, 合併症予防のケア, 苦痛緩和）に必要な知識・技術
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	病理病態学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	○成人看護学概論, 成人看護方法論Ⅰ～Ⅴ, 成人看護学演習で使用した教科書, プリント等を活用してください。
(21)参考文献	NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020（医学書院）他 随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>○成績評価は, 実習前トレーニング・成人看護学実習Ⅰ・Ⅱの評価(80%)およびケース・スタディの評価(20%)を総合して判断します。</p> <p>○実習前トレーニング, 成人看護学実習ⅠおよびⅡの実習期間, ケース・スタディの実施期間において 各々3分の2以上の出席に満たない学生は, 評価対象とはなりません。</p> <p>○提出物は期限を厳守してください。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	詳細は成人看護学実習要項参照してください。
(25)留意点・予備知識	<p>○受持患者の看護を実践するためには, 入学時から学んできた様々な知識や技術をフルに活用するだけでなく, 更に積極的な自己学習が必要となります。</p> <p>○看護実践において看護過程を展開する能力, コミュニケーション能力は必須となります。実習開始前に十分な復習, トレーニングを行ってください。</p> <p>○健康管理を怠らず, 積極的な姿勢で本科目に臨むことを期待します。</p>

	○各種提出はMoodleを使って行います。必要な資料, ファイルなどもMoodle上にアップされています。
(26)オフィスアワー	実習棟別に担当教員から提示されます。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	富澤登志子 tmtott@hirosaki-u.ac.jp 野戸結花 noto@hirosaki-u.ac.jp 井瀧千恵子 itakichi@hirosaki-u.ac.jp 川崎くみ子 kawayu@hirosaki-u.ac.jp 漆坂真弓 urushima@hirosaki-u.ac.jp 北島麻衣子 kitajima@hirosaki-u.ac.jp 三上佳澄 k-mikami@hirosaki-u.ac.jp 長内智宏 osanait@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	臨床経験がある教員が実際の看護ケアでの経験に即した実践的な教示, 指導を行っていく。臨床指導者と連携をとりながら指導していく。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	103
(2)区分番号	103
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	小児看護学実習 (Pediatric Nursing, Practice)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○高橋 徹, 扇野綾子, 橋本美亜, 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○小児各期の正常な成長発達および生理を理解する(見通す力) ○小児の心身の健康を維持増進するために、適切な援助について修得する(解決する力) ○小児の発達段階に応じた適切な保育、学習援助を行うための知識と技術を修得する(見通す力) ○疾病が小児と両親および家族におよぼす影響を理解し、適切な援助を行う能力を修得する(解決する力) ○小児の主な疾患および特有の症状を理解し、適切な看護を計画し、実践する能力を修得する(学び続ける力) ○小児病棟のあり方を理解し、小児に相応しい入院環境を整える力を修得する(学び続ける力)
(15)授業の概要	小児と家族についての理解を深め、健康に向けた看護を実践する能力を養う。
(16)授業の内容予定	1. 実習オリエンテーション(扇野・橋本) 2. 学内における実習(扇野・橋本) 3. 臨地実習(高橋・扇野・橋本・非常勤講師) 4. まとめ(扇野・橋本・非常勤講師)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書・講義ノート・参考書による自己学習をして臨むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書：系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学総論(小児看護学①), 医学書院。

	<p>系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論（小児看護学②），医学書院。 ナースとコメディカルのための小児科学. 日本小児医事出版社.</p>
(21)参考文献	実習中に紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>評価は、以下の内容を統合的に判断し行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中の知識・技術・態度 2. カンファレンスの参加状況 3. 記録物の提出 4. 出席状況 など総合して評価 <p>3分の2以上の出席に満たない学生は評価対象にならない。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	<p>臨地実習は弘前大学医学部附属病院で行う。 実習方法は病棟実習では1事例を受け持ち、看護過程を展開する。病棟実習の他に外来実習も行う。</p>
(25)留意点・予備知識	<p>実習開始までに、小児の各期の特徴、疾患の特徴、看護について予習・復習をしてのぞむこと。</p>
(26)オフィスアワー	扇野 月・金曜日午後12時～14時 他随時（事前に連絡すること）
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	扇野 ohgino@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	<p>医療・看護職としての実務経験を生かした指導を行っています。 実習終了後以下のアドレスより経験項目の登録をお願いします。 http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~s-asari/#11（学内限定）</p>

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	104
(2)区分番号	104
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	統合実習 I
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○高橋 徹, 扇野綾子, 橋本美亜
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/D P	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・ DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○健康な小児を観察し, 小児の成長・発達を理解する(見通す力) ○健康な小児の保育を理解し, 実践する力を修得する(解決する力) ○児童福祉施設としての保育所の機能, あるいは学校法人施設としての幼稚園の機能を理解する(学び続ける力) ○健康障害が人の成長・発達に及ぼす影響について理解する(見通す力) ○健康障害をもった対象者と家族が社会の中で健やかに生活できるための支援について理解し, 部分的に実践する力を修得する(解決する力) ○健康障害をもつ対象者とその家族を取り巻く医療・福祉・行政・教育の社会的資源について理解し, 看護専門職としての役割を理解する(学び続ける力)
(15)授業の概要	様々な健康状態にある小児と家族についての理解を深め、健康に向けた看護を実践する能力を養う。
(16)授業の内容予定	1. 実習オリエンテーション(扇野・橋本) 2. 保育園(所)・幼稚園における健康な乳幼児の保育実習(高橋・扇野・橋本) 3. 重症心身障害児者への援助実習(高橋・扇野・橋本)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	教科書・講義ノート・参考書による自己学習をして臨むこと。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
	実務教員

(19)実務経験のある教員による授業科目について	
(20)教材・教科書	教科書: 系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児看護学総論 (小児看護学①), 医学書院. 系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 (小児看護学②), 医学書院. ナースとコメディカルのための小児科学. 日本小児医事出版社.
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	評価は、以下の内容を統合的に判断し行う。 1. 実習中の知識・技術・態度 2. カンファレンスの参加状況 3. 記録物の提出 4. 実習への参加度 など総合して評価 3分の2以上の出席に満たない学生は評価対象にならない。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	保育園(所)・幼稚園実習は、弘前市内10施設に分かれて行う。 障害児者施設実習は、独立行政法人国立病院機構青森病院(浪岡)において行う。
(25)留意点・予備知識	オリエンテーションの日程は掲示によって周知する。 実習開始までに、小児の各期の特徴、重症心身障害児者の特徴、看護について予習・復習をしてのぞむこと。
(26)オフィスアワー	扇野 月・金曜日午後12時～14時 他随時(事前に連絡すること)
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	扇野 ohgi no@hi rosaki -u. ac. jp
(28)その他	医療・看護職としての実務経験を生かした指導を行っています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	105
(2)区分番号	105
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	母性看護学実習 (Maternity Nursing, Practice)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	必修
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○五十嵐世津子, 三崎直子, 高間木静香, 早狩瑤子, 鎌田璃沙
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル2~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>目的 マタニティサイクル期にある母子と家族の援助に必要な理論や知識, 看護技術を用いて, 母子とその家族に必要なウエルネスに向けた看護実践能力を養う</p> <p>目標 ○母子とその家族に対する理解を深める(見通す力) ○母子とその家族のウエルネスに向けた援助を実践する(解決する力) ○出産・育児に対する妊産褥婦とその家族の価値変容の過程を支援する看護について考える能力を養う(解決する力) ○マタニティサイクルにおける倫理上の諸問題を考察する能力を養う(解決する力) ○母子とその家族のウエルネスに関わる母子保健システムを理解し, ヘルスプロモーション活動における看護師の役割を認識する(学び続ける力)</p>
(15)授業の概要	<p>○妊娠期, 分娩期, 産褥にある女性の身体的・心理的特徴, 新生児の身体的・生理的特徴を理解する。 ○産科外来で行われている妊婦健康診査時のケアの実際と保健指導, 母親学級の運営について知る。 ○妊婦, 産婦, 褥婦と新生児のいずれかの対象者を受け持ち, 看護過程を展開しながら母性看護学実習を行う。</p>
(16)授業の内容予定	<p>○母性看護学実習ガイダンス(五十嵐、高間木) ・日時: 2019年9月17日(8時40分から17時まで), 場所: 第33講義室 ・臨地実習要項・母性看護学実習要項・母性看護学実習関係記録類等を持参すること。</p> <p>○母性看護に必要な看護技術(全員) ・日時: 2019年9月18日(8時40分から17時まで), 母性小児看護学実習室, 第33講義室 ・実施項目: 新生児の観察, 沐浴, 育児技術, 妊婦健診, 児心音聴取, 妊婦体験など ・午前, 午後の2回に分けて実施(後日, 詳細の日程を示す) ・母性看護学方法論で作成した資料を持参。 ・動きやすい服装</p>

	<p>○母性看護学実習（全員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2019年9月24日～2020年2月末日（詳細は、後日発表） ・1グループ5～6名で、14グループが下記のいずれかの実習病院で看護実習を行う。 ・実習病院：弘前大学医学部附属病院，弘前病院のいずれかで実施する。 ・実習場所：病棟実習と弘前大学医学部附属病院産婦人科外来
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	<p>○3年前期中に、健康問題のある妊婦、褥婦、新生児、その他の課題に関するレポートを作成する。</p> <p>○実習開始前には必ず、母性看護学方法論、母性看護演習で使用した資料および教科書をきちんと復習してください。</p>
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	病理病態学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	母性看護学概論（医学書院），母性看護学各論（医学書院），講義で配布使用した資料（妊婦・産婦・褥婦・新生児）
(21)参考文献	参考書は母性看護方法論で提示済み
(22)成績評価方法及び採点基準	<p>○母性看護学実習時間の3分の2以上の出席に満たない場合は評価の対象となりません。</p> <p>○最終的な記録物の提出がない場合には評価の対象とはなりません。提出期限を厳守してください。</p> <p>○最終評価は、出席状況・母性看護技術トレーニング状況・カンファレンス（10%），母性看護学実習状況（90%）などから総合的に判断します。</p>
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	母性看護学実習要項を参照してください。
(25)留意点・予備知識	講義中に使用した資料および、返却されたレポート類は実習中に使用しますので、活用できるようにファイルに閉じておいてください。
(26)オフィスアワー	随時可能ですが、担当教員と学内メールで必ず日程調整を行ってください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	<p>五十嵐 s123@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>三崎 naokom@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>高間木 s123@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>早狩 yokoy@hirosaki-u.ac.jp</p> <p>鎌田 kamata@hirosaki-u.ac.jp</p>
(28)その他	医療職者としての実務経験も踏まえながら実習指導をしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	106
(2)区分番号	106
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	助産診断・技術学Ⅳ (Technology of Midwifery Ⅳ)
(5)対象学年	3
(6)必修・選択	選択
(7)単位	2
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○三崎直子, 早狩瑤子, 鎌田璃沙
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○マタニティサイクル期の助産診断過程の理論を理解できる(見通す力) ○助産計画を立案できる(見通す力, 解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	○マタニティサイクル期の助産診断過程の意義, 定義, 範囲, 表現方法, 課題, 評価等を学ぶ ○マタニティサイクル期の助産計画を立案する
(16)授業の内容予定	第1~3回(2/10) 助産診断過程の基本的理論, 症例作成(三崎) 第4~7回(2/12) 妊娠期の助産計画(三崎) 第8~11回(2/13) 分娩期の助産計画(三崎) 第12~15回(2/14) 産褥期・新生児期の助産計画(早狩, 鎌田)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	これまでの助産学の科目を復習してください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	助産学講座6, 7 2018 医学書院 今日の助産 2013 南江堂
(21)参考文献	授業で紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	平常評価(授業への参加度): 30% 期末評価(期末レポート): 70% 上記を合算して, 最終的な成績評価を行う予定です。
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	基本的に講義ですが, 毎回の講義に演習を含みます。

(25)留意点・予備知識	積極的な授業参加を求めます。
(26)オフィスアワー	月曜日と火曜日の16時～17時においでください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	三崎直子 naokom@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	助産学選択の必修科目です。 助産師としての実務経験を踏まえ、臨床事例を提示しながら理解を深めていく工夫をしている。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	107
(2)区分番号	107
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	卒業研究（看護4年）（Bachelor's Thesis）
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	3
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	不定期開講
(10)担当教員（所属）	看護学専攻教員
(11)地域志向科目	-
(12)難易度（レベル）	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	<p>○研究テーマと目的に沿って研究計画を立案できる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○研究テーマと目的に沿って必要なデータを収集することができる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○研究テーマと目的に沿って収集したデータを分析し、解釈することができる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○学術情報を検索し活用することができる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○研究結果を既存の知識と関連づけ、考察できる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○研究で得られた結果から抄録を作成し、口頭発表を行うことができる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p> <p>○執筆要領に従い、研究論文を作成することができる（見通す力、解決していく力、学び続ける力）</p>
(15)授業の概要	看護に関する研究を実施し、看護研究の概念・目的・種類・方法及び文献検索の基本と応用を学ぶ。
(16)授業の内容予定	<p>各指導教員のもとで研究を行い、抄録と論文を作成し、発表を行う。</p> <p>4月10日（水）：ガイダンス</p> <p>5月中旬～下旬：研究テーマおよび指導教員の最終決定 研究計画書の作成</p> <p>5月24日（金）：資料収集の方法を提出（全学生）→Moodleで連絡</p> <p>5月24日（金）：弘前大学医学部附属病院で資料収集する場合、「協力依頼文書」「調査用紙等」を提出 *提出はMoodleで行う *大学病院以外のフィールドで資料収集する場合、指導教員に提出書類を相談する</p> <p>8月6日（火）：4年次後期卒業研究ガイダンス</p> <p>10月1日（火）：「後期科目履修届」の登録（web入力）</p> <p>11月15日（金）：表題の提出（指導教員を介して提出）</p> <p>12月6日（金）：抄録原稿の提出（発表会用）</p> <p>12月中旬：パワーポイントファイルの提出期間→提出方</p>

	<p>法について、Moodle・掲示で連絡予定 12月20日（金）：PPTの試写 →この時に修正不可 12月21日（土）：卒業研究発表会（終日） 12月26日（木）：論文の提出期限 12:00時間厳守（受付は12月2日（月）より開始）</p> <p>* 誤字・脱字・図表等について十分に確認し、訂正のない原稿をPDF形式で提出する * 形式を満たしていない場合は、修正を求めため、余裕をもって提出する</p>
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	3年生後期の講義時に使用した資料等を復習すること。研究に必要な準備学習は、指導教員に確認すること。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	-
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	テキストは使用しない。
(21)参考文献	研究に必要な図書、資料などは各教員に問い合わせる。
(22)成績評価方法及び採点基準	試験は行わない。指導教員が以下について評価する。 ①授業の到達目標を参照し、研究の独創性、論文の的確性、発表の工夫・努力等について評価する。 * グループ研究の場合、原則として同グループの学生は同評価とする。 ②研究および発表に臨んだ態度については、学生個々に評価する。
(23)授業形式	演習
(24)授業形態・授業方法	各指導教員のもとで、各自の研究テーマにそって自らが進んで、実験・観察・調査・研究を行う。
(25)留意点・予備知識	【注意】 卒業研究関連提出物の期限は厳守すること。期限に間に合わないと卒業できない。 発表の準備、論文作成など研究全体の進行状態が分かるように、タイムスケジュールを作成し、行動すること。 順調にスケジュールが進むよう、各自努めること。
(26)オフィスアワー	随時受け付けるが、事前にメール等で予約すること。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	16M卒業研究委員 長内 智宏： osanait@hirosaki-u.ac.jp 小倉能理子： ogu1224@hirosaki-u.ac.jp 高間木静香： takamagi@hirosaki-u.ac.jp 山本美由紀： miyukiya@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	指導教員と密に連絡をとりながら行ってください。看護研究を行った教員が経験をふまえ、指導・助言します。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	108
(2)区分番号	108
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	統合実習Ⅱ
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	必修
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○野戸結花, 木立るり子, 北宮千秋, 藤田あけみ, 三崎直子, 則包和也, 會津桂子, 三上佳澄 他
(11)地域志向科目	-
(12)難易度(レベル)	レベル4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的到達目標	○児童生徒等に対する健康保持増進および健康問題に対する活動を理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力) ○労働者の健康管理活動について理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力) ○一次・二次予防における看護職の役割を理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力) ○地域における保健医療福祉機関の連携活動について理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力) ○救急医療における看護活動について理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力) ○高度看護実践活動について理解する(見通す力)(解決する力)(学び続ける力)
(15)授業の概要	看護の対象となる人々に対する多様な場での看護活動について理解を深め、広い視野から看護の役割について総合的に学ぶ。
(16)授業の内容予定	8/29(木) AM: 学内オリエンテーション(担当教員全員) PM: 理解講義(担当: 平井歩氏、堀川恵氏) 8/30(金) 終日: 学内実習(自己学習)(担当教員全員) 9/2(月)~9/20(金) 臨地実習(2日間)(担当教員全員) 実習日は、実習施設によって異なります。 随時、合同発表会準備 10/25(金)AM: 合同発表会(担当教員全員)
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	統合実習Ⅰ(3年後期)の単位を修得していることが必要です。また、これまで学んだことを復習してきてください。
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	健康科学関連

(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	教科書は使用しません。これまで学んだテキスト等を参考にして下さい。
(21)参考文献	随時紹介します。
(22)成績評価方法及び採点基準	出席、記録物、発表内容等により総合的に評価します。実習に先立って行われるオリエンテーションには必ず出席して下さい。欠席は実習放棄とみなします。
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	学内講義および事前学習、臨地実習、合同発表会
(25)留意点・予備知識	本科目は4年間の学習の集大成となります。実習目的、目標を達成できるように主体的に実習しましょう。
(26)オフィスアワー	野戸：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 木立：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 北宮：月曜日12時～13時 藤田：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 三崎：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 則包：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 會津：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。 三上：随時受け付けしますが、事前にEメールで連絡してください。
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	野戸： noto@hirosaki-u.ac.jp 木立： ki-dachi@hirosaki-u.ac.jp 北宮： chi-aki@hirosaki-u.ac.jp 藤田： a-fuji-ta@hirosaki-u.ac.jp 三崎： naokom@hirosaki-u.ac.jp 則包： nori-kane@hirosaki-u.ac.jp 會津： ai-zu@hirosaki-u.ac.jp 三上： k-mi-kami@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	看護師、保健師、助産師としての実務経験を踏まえて、専門性の高い学びを得ることができるよう配慮しています。

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	109
(2)区分番号	109
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英文名〕	公衆衛生看護学実習Ⅱ
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員(所属)	○北宮千秋, 山田基矢, 多喜代健吾, 山本美由紀
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度(レベル)	レベル3~4
(13)対応するCP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての具体的な到達目標	○地域に顕在・潜在する健康問題を科学的に評価し, 組織的に解決するための実践的方法と技術を習得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力) ○公衆衛生看護の対象の多面的背景および健康問題を理解し, 継続的な関わりからの展開方法と技術を習得する(見通す力, 解決する力, 学び続ける力)
(15)授業の概要	○公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基礎的知識, 技術ならびに態度を習得する ○継続保健指導 ○地域看護診断 ○政策形成過程
(16)授業の内容予定	8月26-27日(月一火)オリエンテーションⅣ, グループワーク(学内) 2日間 市町村実習(保健指導, 地域看護診断, 保健事業計画) 弘前市, 五所川原市, 東北町, おいらせ町 9月27日(金) 学内カンファレンス 実習計画および実習日程は公衆衛生看護学実習Ⅰ終了時期に実習指導者と相談の上決定する予定 * 担当教員は全てのプログラムに参加する
(17)準備学習(予習・復習)等の内容	※実習期間前に実習施設の実習指導者と実習内容について十分に指導, 助言を受けてから実習に望むこと 特に, 継続して行う保健指導については十分な助言を得て実施すること 各市町村単位の地域看護診断について 発表する資料を作成するとともに, その内容をあらかじめ各市町村に提示すること
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連

(18)学問分野2(副学問分野)	社会医学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	健康科学関連
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	①荒賀直子, 後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル 公衆衛生看護学実習要項, 他, 適宜紹介する
(21)参考文献	適宜紹介する
(22)成績評価方法及び採点基準	公衆衛生看護学実習要項を参照
(23)授業形式	実習
(24)授業形態・授業方法	継続した2日間を実習自治体で終日実習を行う 実習指導者の指導を受け, 実際の保健事業への従事すること コミュニティコアに対する健康課題から保健計画を作成すること 自治体職員および住民に向けて, 地域看護診断を公表すること
(25)留意点・予備知識	1 単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です これまでの学びを統合する実習となります
(26)オフィスアワー	月曜日12時~13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email: chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた実習指導を実施している

医学部保健学科 看護学専攻

(1)整理番号	110
(2)区分番号	110
(3)科目種別	医学部保健学科看護学専攻
(4)授業科目名〔英 文名〕	公衆衛生看護管理論
(5)対象学年	4
(6)必修・選択	選択
(7)単位	1
(8)学期	後期
(9)曜日・時限	集中
(10)担当教員（所 属）	北宮千秋
(11)地域志向科目	地域志向科目
(12)難易度（レベ ル）	レベル4
(13)対応するCP/ DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
(14)授業としての 具体的到達目標	○公衆衛生行政の組織運営および健康危機管理における対応について地域の 実状をもとに理解を深める（見通す力、解決する力、学び続ける力） ○保健師の人材育成について実践を通して理解を深める（解決する力、学 び続ける力）
(15)授業の概要	○青森県内の保健行政機関における組織運営、事業計画策定と人材育成 ○健康危機管理 ○保健師の人材育成の実践 3年生に対する教育的関わり
(16)授業の内容予 定	第1回. 6月17日（月）概要説明（公衆衛生看護学実習オリエンテーシ ョン終了後） 7月25日（木）青森県内の保健所・市町村の組織と人材育成（グ ループワーク） 第2回. 9月26日（木）5・6時限：青森県および市町村の保健師組織と人 材育成（発表、意見交換） 第3回. 9月26日（木）7・8時限：青森県内市町村事例（発表、意見交 換） （弘前市，五所川原市，おいらせ町，東北町，弘前保健 所，五所川原保健所） 第4回. 10月11日（金）3・4時限：青森県の政策と人材育成 （青森県庁に勤務する保健師からの県の政策形成過程を 受講 非常勤講師：奥村智子氏） 3年生開講の公衆衛生看護学演習Ⅰと合同開催 第5回. 10月11日（金）5・6時限（予定）：青森県市町村別地域看護診断 の発表 3年生を対象に報告 第6回. 11月1日（金）3・4時限（予定）：地域で行う健康教育の実際 3年生を対象とする 第7回. 11月8日（金）5・6時限（予定）：人材育成の実践：個別保健指 導における人材育成 3年生の演習に参加 第8回. 11月8日（金）7時限（予定）：人材育成に関するまとめ，健康危 機管理

	12月13日（金）3・4時限（予定）：集団健康教育に対する教育的視点での関わり
(17)準備学習（予習・復習）等の内容	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱを通して、別に指定する課題を予習として実施する 授業を通して、組織運営と人材育成に関する概要をまとめるとともに健康危機管理時の対応について復習すること
(18)学問分野1(主学問分野)	看護学関連
(18)学問分野2(副学問分野)	教育学関連
(18)学問分野3(副学問分野)	-
(19)実務経験のある教員による授業科目について	実務教員
(20)教材・教科書	いままでの授業等で配布されたまたは自己学習した公衆衛生看護学関連資料 ①荒賀直子，後閑容子 ②公衆衛生看護学.jp ③2017 ④インターメディカル
(21)参考文献	適宜紹介
(22)成績評価方法及び採点基準	事前資料，発表，3年生への教育的関わりへの貢献等をもとに総合的に判断する
(23)授業形式	講義
(24)授業形態・授業方法	講義 およびグループによる主体的学習
(25)留意点・予備知識	本科目は保健師国家試験受験資格取得に必修の科目となっている履修のためには公衆衛生看護学実習ⅠとⅡを受講していること 1単位取得のためには予習・復習を含めて45時間の学習が必要です 福島イノベーション・コースト構想による浪江町内参加型住民支援実習（子育てサロン，健康支援活動，職員の健康相談）に参加した学生については，この授業の一部として取り扱います 個別に相談してください
(26)オフィスアワー	月曜日12時～13時
(27)Eメールアドレス・HPアドレス	北宮 Email : chiaki@hirosaki-u.ac.jp
(28)その他	保健師としての実務経験を踏まえた講義内容としている